

第4期中期目標期間における進捗状況管理書  
(令和6事業年度)

令和7年7月

公立大学法人 和歌山県立医科大学

## 目 次

大学の概要	1
1 全体的な状況	2
2 項目別の状況	3
第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	
1 教育に関する目標を達成するための措置	
(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置	3
(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	17
(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	20
2 研究に関する目標を達成するための措置	
(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置	24
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	26
3 診療に関する目標を達成するための措置	
(1) 診療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置	29
(2) 教育機能等の充実に関する目標を達成するための措置	39
(3) 病院運営に関する目標を達成するための措置	41
4 国際化に関する目標を達成するための措置	46
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置	
1 教育に関する目標を達成するための措置	49
2 研究に関する目標を達成するための措置	55
3 診療に関する目標を達成するための措置	57
4 地域の活性化に関する目標を達成するための措置	65
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	
1 法人運営の強化に関する目標を達成するための措置	67
2 人事の適正化・人材育成等に関する目標を達成するための措置	
(1) 人事の適正化に関する目標を達成するための措置	68
(2) 人材確保及び人材育成に関する目標を達成するための措置	69

(3) 労働環境の向上に関する目標を達成するための措置	70
3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	72
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	
1 財務内容の健全化に関する目標を達成するための措置	74
2 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	75
3 経費の抑制に関する目標を達成するための措置	77
4 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置	78
第6 自己点検評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	
1 評価の充実に関する目標を達成するための措置	79
2 情報公開及び情報発信に関する目標を達成するための措置	82
第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置	
1 施設及び設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	83
2 安全管理に関する目標を達成するための措置	85
3 基本的人権の尊重及び法令・倫理等の遵守に関する目標を達成するための措置	87
第8 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画	91
第9 短期借入金の限度額	94
第10 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	94
第11 剰余金の使途	94
第12 その他	
1 施設及び設備に関する計画	95
2 人事に関する計画	96
3 積立金の使途	97
○別表(教育研究上の基本組織)	97

## 大学の概要

### (1) 現況

#### ① 大学名

公立大学法人和歌山県立医科大学

#### ② 所在地

大学・医学部	和歌山市紀三井寺811-1
保健看護学部	和歌山市三葛580
薬学部	和歌山市七番丁25-1
大学院・医学研究科	和歌山市紀三井寺811-1
医学薬学総合研究科	和歌山市紀三井寺811-1、和歌山市七番丁25-1、和歌山市三葛580
保健看護学研究科	和歌山市三葛580
専攻科・助産学専攻科	和歌山市三葛580
附属病院	和歌山市紀三井寺811-1
附属病院紀北分院	伊都郡かつらぎ町妙寺219

#### ③ 役員 の 状況

理事長	中 尾 直 之 (学 長)
副理事長	谷 口 善 郎
理 事	川 股 知 之
理 事	西 村 好 晴
理 事	貴 志 幸 生
監事 (非常勤)	遠 藤 桂 介 (弁護士)
監事 (非常勤)	前 田 恵 美 (公認会計士)

#### ④ 学部等の構成及び学生数 (令和6年5月1日現在)

医学部		611
保健看護学部		319
薬学部		396
医学研究科	修士課程	4 (うち留学生0)
	博士課程	118 (うち留学生6)
医学薬学総合研究科	博士課程	25 (うち留学生0)
	博士前期課程	6 (うち留学生1)
	博士後期課程	9 (うち留学生0)
保健看護学研究科	博士前期課程	16
	博士後期課程	25
助産学専攻科		10
計		1,539

#### ⑤ 教職員数 (令和6年5月1日現在)

教 員	441
事務職員	196
技術職員	10
医療技術部門職員	288
看護部門職員	894
研究補助職員	5
計	1,834

### (2) 大学の基本的な目標等 (第4期中期目標前文を抜粋)

和歌山県立医科大学 (以下「医科大学」という。) は、県内唯一の医療系総合大学として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む優れた医療人の育成に取り組んできました。

また、附属病院は、特定機能病院として、がん医療、救急医療を始め、あらゆる診療領域で中心的な役割を担うとともに、県内の病院などに医師を派遣するなど地域の医療機関等と連携を推進し、県内における医療提供体制の充実・発展に寄与してきました。

一方で、日本の少子高齢化は極めて急速に進んでおり、本県においても人口減少が進むことが予測されるとともに、経済・社会のグローバル化の進展や、情報科学技術の飛躍的な発達等により、本県を取り巻く状況は大きく変化することが見込まれます。こうした状況の変化により、県民が求める医療ニーズについても、より多様化・高度化が進展するものと想定されますが、そうした県民の医療ニーズに適切かつ迅速に対応していく必要があります。

そこで、高度な医療人の育成に基づく先進的な研究の推進と質の高い医療の提供をめざし、県では新たに第4期中期目標 (令和6年度から令和11年度までの6年間) を策定することにより、今後、医科大学が取り組むべき指針を示しました。

第4期中期目標では、「医学部・保健看護学部・薬学部の連携を加速し、成長を続ける医療系総合大学へ」を基本姿勢とし、「大学の教育研究等の質の向上」や「地域貢献」、「業務運営の改善及び効率化」などの6つの柱に基づき、これまで以上に医科大学における教育・研究・診療成果が向上するとともに、地域貢献等につながる目標を明確に掲げました。

医科大学においては、これまでのたゆまぬ努力のもと積み重ねてきた実績や成果を礎に、県が推進する医療行政と二人三脚で緊密に連携し、理事長・学長のリーダーシップのもと全職員が一丸となり、ここに定める第4期中期目標の達成に向け取り組まれることを期待します。

## 1 全体的な状況

和歌山県立医科大学（以下、「本学」という。）は、県内唯一の医歯学機関として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む優れた多数の医療人をこれまで育成してきた。また、附属病院は、特定機能病院として、がん医療、災害医療、救急医療をはじめ、あらゆる診療領域で中心的役割を担い、県内の病院などに医師を派遣し、医療提供体制の充実・発展に大きく貢献してきた。

令和6年度は、本学が公立大学法人になって以来19年目であり、第4期中期目標期間の1年目である。県において定められた中期目標の達成に向け、『医・薬・看の連携を加速し成長を続ける医療系総合大学へ～高度な医療人の育成に基づく先進的な研究の推進と質の高い医療の提供～』をテーマに掲げて策定した第4期中期計画に基づき、さまざまな取組を実施した。

まず教育においては、令和6年度に開設した医薬統合型大学院である「大学院医学薬学総合研究科」において、医学・薬学両分野の教員によるオムニバス形式の講義を開講するとともに、医学と薬学の垣根を超えた教育の充実及び研究の活性化に取り組んだ。

次に、研究においては、医療データサイエンス分野の研究の中核組織として、次世代医療研究センターにデータサイエンスセンターを開設し、センターの運営を担う医療統計学講座に教授が着任した。また、URAについては、主に大型研究費の獲得支援を行うことを目的に、令和7年度から1名増員し、研究支援体制の強化を図ることとした。

附属病院においては、厚生労働省が募集した脳卒中・心臓病等総合支援センターを設置するモデル事業に採択されたことから、脳卒中及び心臓病等に関する専用相談窓口を開設するとともに、救急搬送円滑化のために、連携病院との救急搬送に新たなITシステムを導入した。また、県内の他職種連携を推進し、ノウハウを広めるために和歌山ハートケアネットワークを設立した。これらにより、県内の循環器病対策の連携体制を構築した。

附属病院紀北分院においては、紀北分院活性化整備事業を推進し、新館の建設が令和7年3月31日に完成した。このことにより、リハビリテーション科の訓練スペースを拡大し、患者のニーズに対応できるリハビリテーション環境・機能を整備した。

国際化においては、各学部でそれぞれ海外の大学に学生を派遣するとともに、海外からの研究者・学生の受入については、来日前に大学や生活に関する情報を提供するなど、本学の国際化につながる取組を推進した。また、令和6年12月には、医学部において、新たに中国の西南交通大学と学部間協定を締結した。

地域貢献においては、県民医療枠・地域医療枠の勤務義務年限終了医師の県内定着率向上を促す仕組みとして、義務年限終了医師を対象に、県内指定医療機関への勤務を条件に留学等資金補助金を交付する地域医療支援ドクター制度を構築した。また、附属病院紀北分院を基幹病院とした和歌山県総合診療専門研修プログラムを引き続き運営した結果、令和6年度に2名の総合診療専攻医を受け入れるとともに、1名の総合診療専門医を輩出した。

業務運営の改善においては、令和6年度は、労働環境改善のため、看護部から臨床工学技師へのタスク・シフト/シェアを実施した。また、令和6年度から運用を開始した勤怠管理システムへの適切な入力について周知指導を行い、適切な労働時間管理に努めた。

最後に、経営面においては、収入の8割を占め、人件費の上昇や物価高騰による診療経費の増加により厳しい状況に置かれている附属病院及び附属病院紀北分院の経営改善に向けて、病院経営改善実行計画（アクションプラン）を策定し、「経営計画（改善計画）」を着実に推進した。

## 2 項目別の状況

### 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-2)(III-15)(IV-2)】
----------------------	------	-------------	---------------------------------------

#### (1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
共通					
ア. 入学者受入れの方針(アドミッションポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)及び卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)について、継続的に評価・改善を行い、教育の質の向上を図る。	ア 【3ポリシーの検証・見直し】 今後の社会情勢の変化に対応できる質の高い人材を育成するため、入学者受入れの方針(アドミッションポリシー)の点検を継続的に行う。また、卒業時に学生が修得しておくべき能力と実際の卒業生の能力を比較検証することにより、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)及び卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)の点検を継続的に行う。	<p>第10回医学部教務学生委員会(対面審議)にて審議事項として規定されるカリキュラムについて、また第3回教育プログラム評価委員会医学部部会(メール審議)にて審議事項として規定される医学教育プログラムについて、使命、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、コンピテンス及びコンピテンシーを含むことが審議の上、承認され、それぞれ各規程に明記された。</p> <p>毎年、医学部で実施しているすべての講義について医学教育モデル・コア・カリキュラムのどの項目に該当するのかを各オーガナイザーに対して調査している。</p> <p>令和6年度第1回FD研修会にてディプロマポリシー・コンピテンシーについて、第3回FD研修会にて使命・カリキュラムポリシー・コンピテンシーについて研修を実施した。</p> <p>【医学部】</p> <p>分野別教育評価担当者会議において、本学部の教育理念、教育目標とディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの整合性について、また、カリキュラムポリシーに基づいた教育課程の枠組みが構築されているか、さらに、アドミッションポリシーが高校生、高等学校教員、保護者に対して明確に示され、それに基づいた入学者選抜が実施されているか等について検証を行った。</p> <p>その結果、学生に対して教育課程の内容をより分かりやすく伝えるため、令和7年度シラバスより、各科目に「ディプロマポリシーとの関連」欄を新たに設ける見直しを行った。</p> <p>【保健看護学部】</p> <p>令和5年度にカリキュラム検討ワーキングを実施し、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの改訂について審議し、令和6年度の入学生から改訂したカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーを適用した。</p> <p>【薬学部】</p>		III	1

	<p>《指標1》 3ポリシーの点検</p>	<table border="1" data-bbox="826 228 1695 316"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの点検を継続的に実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年4月開催の令和6年度第1回FD研修会にてディプロマポリシー・コンピテンシーについて、令和7年1月開催の第3回FD研修会にて使命・カリキュラムポリシー・コンピテンシーについて研修を実施した。令和5年度第1回・第2回カリキュラム専門部会、令和5年度第3回教育プログラム評価委員会医学部部会、令和5年度第6回教務学生委員会で点検を実施し、左記委員会を受けて、令和5年度第3回カリキュラム専門部会で再度点検を実施した。令和6年度は前年度の点検をふまえて、カリキュラム専門部会にて内容を検討した。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>教育理念や各種ポリシーの整合性、教育課程の構築状況、入学者選抜の適切性について検証を行った。その結果、学生に教育課程をより分かりやすく伝えるため、令和7年度シラバスから各科目に「ディプロマポリシーとの関連」欄を新設することとした。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>令和5年度に改訂したポリシーを令和6年度に適用した。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの点検を継続的に実施								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11													
目標値	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの点検を継続的に実施																		
<p>イ. 能力、意欲、適性等を多面的・総合的に評価し、入学者受入れの方針に沿った人材を確保する。</p>	<p>イ 【入学者選抜】 学生の学部入学後の成績や卒業時試験の成績データを学生ごとに作成するとともに、成績不振者の特性を解析し、入試結果と比較することにより、入試試験の選抜方法を検証・改善する。</p>	<p>入学試験の成績、各学年次の成績及び国家試験の成績など学生毎に経時的推移の基礎的なデータ作成を行った。</p> <p>入学試験の成績と入学後の成績は必ずしも相関関係にあるとは限らないが、下位で入学した学生は在学中も下位の成績で経過することが多い。</p> <p>また、入試の競争倍率によっては成績不振が目立つ学年もある。今後とも成績の分析を行い、入試の選抜方法の検討を進めていく。</p> <p>さらに、令和5年度入試より制度化した、県内において不足する診療科の医師（産科・小児科・精神科）を確保するための入学者選抜方法を令和7年度入試でも継続し、県民医療枠B（産科）、C（産科・小児科・精神科）合わせて5名が入学した。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>入学者選抜試験の形態別に、平成24年度入学生から各年度の成績を追跡調査しており、学部課程における成績に係る要因解析を行っている。</p> <p>令和6年度に、これまでの分析結果から、学校推薦型選抜による入学者の卒業時の成績が一般入試後期日程の入学者より上位にある結果を踏まえ、令和8年度入学者選抜試験からの入試制度の見直し（後期日程の廃止、学校推薦型選抜の定員増）を決定した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p>		III	2														

	<p>令和6年度において、試験の形態別に入試成績のデータ整理を行った。今後も引き続き、入学者選抜試験の形態別に継続的に成績データを収集し、入学生の成績を追跡調査していく。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>	<p>令和6年度において、試験の形態別に入試成績のデータ整理を行った。今後も引き続き、入学者選抜試験の形態別に継続的に成績データを収集し、入学生の成績を追跡調査していく。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p> <table border="1" data-bbox="824 357 1693 416"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">入学試験の選抜方法の検証・改善を継続的に実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>医学部入試制度検討委員会において、今後、医学部臨時定員（地域医療枠）が削減された場合の対応について議論した。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>入試形態別の成績分析により、推薦型選抜の入学生の成績が良好と判明したため、令和8年度入試から後期日程を廃止し、推薦型の定員を増加することとした。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>試験の形態別に入試成績のデータ整理を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	入学試験の選抜方法の検証・改善を継続的に実施								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11													
目標値	入学試験の選抜方法の検証・改善を継続的に実施																		
<p>イ. 能力、意欲、適性等を多面的・総合的に評価し、入学者受入れの方針に沿った人材を確保する。</p>	<p>ウ 【人材の獲得】</p> <p>本学の教育理念・入学選抜について大学説明会やオープンキャンパス等を通じ、積極的に広報活動を行い、資質の高い多様な人材の獲得に努める。</p>	<p>和歌山県高等学校進路指導研究会への出席、県教育委員会及び県立高等学校長会との懇談会（11月20日）、私立中学高等学校協会との懇談会（11月26日）を実施し意見交換を行った。</p> <p>進学説明会（新聞社主催2回、予備校主催2回）や県内外の高校訪問（県内11校、県外2校）を実施し、受験生、保護者及び教員等を対象に本学の入試制度、カリキュラムの概要等についての説明を行うなど、PR活動を行った。</p> <p>8月24日のオープンキャンパスでは、高校生及び保護者409名の参加を得て、入試制度説明、体験授業、シミュレータ体験、VR体験などのメニューで本学の魅力を紹介するなどPR活動を行った。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>和歌山県高等学校進路指導研究会第2回進路指導研究会に出席し、入学者選抜の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス開催（対面のみ）7月28日：参加者279名</li> <li>・高校訪問実施21校（県内18校、県外3校）参加者320名</li> </ul> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>進路指導部長等を対象とした大学説明会を3学部合同で開催し、和歌山県高等学校進路指導研究会にも出席して入学者選抜の説明を行った。</p> <p>高校への訪問については、県内高校だけでなく県外高校への訪問も積極的に実施した</p>		III	3														

	<p>〈指標1〉 県内外高校訪問等やオープンキャンパスの開催</p>	<p>(令和6年度県内8校・県外5校)。 10月13日にはオープンキャンパスを実施し、模擬講義、在校生との懇談会、施設見学を行った(参加者1,220名)。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p> <table border="1" data-bbox="824 359 1693 443"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">県内外高校訪問等を10回、オープンキャンパスを1回、毎年度実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>実績値：県内外高校訪問等を17回、オープンキャンパスを1回実施した。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>県内外高校訪問を21回、オープンキャンパスを1回実施した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>県内外高校訪問を14回、オープンキャンパスを1回実施した。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	県内外高校訪問等を10回、オープンキャンパスを1回、毎年度実施								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11													
目標値	県内外高校訪問等を10回、オープンキャンパスを1回、毎年度実施																		
<p>ウ. 入学前教育、学部教育及び卒業研修、大学院教育の連携を図る。</p>	<p>エ 【学部・大学院連携、学部・卒業研修連携】 医学部・大学院医学薬学総合研究科博士課程履修プログラムにおける大学院準備課程の登録学生を3年次の基礎配属において優先的に希望教室に配属する仕組みを構築・評価するなど、同課程への学生の登録を促すことにより、大学院への進学者の増加につなげる。また、旺盛なリサーチマインドを有する医学部生に早期の研究機会を与えるなど、学部教育と大学院教育の連携を図るとともに、多様な履修形態を構築する。 また、学部教育における臨床実習を担当する教員(臨床実習ディレクター)が、卒業臨床研修において指導医を兼任し、カリキュラムの整合をはじめ、卒業前教育と臨床実践の連携を図ることによって、卒業前・卒業後のシームレスな教育を進める。 県民医療枠及び地域医療枠の医学部生については、地域医療マインドの涵養を主軸とした学部教育からの連続性を重視し、初期臨床研修は本学附属病院で実施する。</p>	<p>大学院準備課程の説明会を4月下旬に開催した。令和6年度の新規登録者は12人となり、単年度の目標値である10人を超える新規登録者を確保した。全体の登録者は55人となり、目標値の51人を上回った。また、大学院準備課程修学認定者のうち6人が令和6年度大学院へ進学し、大学院準備課程から大学院への進学者は17人となった。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>令和6年度に担当した臨床実習ディレクター28名は全て指導医が兼任しており、卒業前・卒業後を通して一貫した指導体制が確立されている。 県民医療枠及び地域医療枠について、平成29年度医学部募集要項より初期臨床研修は本学附属病院で実施することと定めている。令和6年度は県民医療枠医師21名、地域医療枠医師9名を研修医として採用した。</p> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p>		<p>III</p>	<p>4</p>														

	<p>指標 1 大学院準備課程への参加・登録学生数 基準値：50人（R5年度）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>51人</td> <td>52人</td> <td>53人</td> <td>54人</td> <td>55人</td> <td>56人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>55人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	51人	52人	53人	54人	55人	56人	実績	55人	人	人	人	人	人			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	51人	52人	53人	54人	55人	56人																				
実績	55人	人	人	人	人	人																				
<p>エ. 卒業生のキャリアパスの把握・分析等を通じ、教育の質の向上を図る。</p>	<p>オ 【卒業後の実態調査】 同窓会、附属病院及び外部研修機関等との連携や卒業生との交流等を通じて、卒業後のキャリア形成を追跡することで、教育プログラムの検証・改善を行う。</p>	<p>卒後臨床研修センターの教員がカリキュラム専門部会の委員に、また、教育研究開発センターのセンター長が卒後臨床研修管理委員会の委員となっており、各委員会において、情報共有や意見交換を行い、カリキュラム等に反映させることを検討した。</p> <p>【医学部】</p> <p>令和2年3月に実施した附属病院に勤務する卒業生対象のアンケートの分析結果を踏まえて、引き続き教育プログラムの検証を行った。また、最新の情報を収集するため、自己点検評価委員会において、令和7年度に行う卒業生へのアンケートの準備を進めた。</p> <p>【保健看護学部】</p> <p>薬学部では、まだ卒業生を輩出していないため該当せず。</p> <p>【薬学部】</p>		III	5																					
	<p>《指標1》 卒業生の実態調査</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">卒後研修施設や就職先からの卒業生への評価を加味して、教育プログラムを検証</td> </tr> </tbody> </table> <p>卒業生の業績やキャリアパスの動向について、同窓会や卒後臨床研修センター等と意見交換・情報交換を行っており、カリキュラムに反映させることを検討している。</p> <p>【医学部】</p> <p>令和2年3月に実施した附属病院に勤務する卒業生対象のアンケートの分析結果を踏まえて教育プログラムの検証を実施した。令和7年度にも卒業生へのアンケートを実施するための準備中。</p> <p>【保健看護学部】</p> <p>薬学部では、まだ卒業生を輩出していないため該当せず。</p> <p>【薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	卒後研修施設や就職先からの卒業生への評価を加味して、教育プログラムを検証															
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	卒後研修施設や就職先からの卒業生への評価を加味して、教育プログラムを検証																									
学部教育																										
<p>オ. 人間性を高める教育を実施することにより、幅広い教養、生命に対</p>	<p>ア 【コミュニケーション能力及びケアマイン드의涵養】 ケアマインド教育等の多職種連携教育、教養科目等の3学部共同開講及び早期から</p>	<p>1年次において、医学部・保健看護学部・薬学部の3学部合同講義として、患者及び患者家族から直接話を聞き3学部の学生が話し合うケアマインド教育を行い、障害や疾病を有する方々の精神的、社会的背景を理解する能力を向上させ、精神的・肉体的弱者の心に共感できる能力を育成した。3学部の学生対象に、ケアマインド講義実施前と全コマ終了後に、</p>		III	6																					

<p>する倫理観を養うとともに、医学、薬学、保健看護学に関する専門的な知識や技術を教授し、問題解決能力を有する優れた人材を育成する。</p>	<p>の参加型実習を通して、社会人として必要な教養を涵養し、医療人として必要な倫理観、共感的態度、コミュニケーション能力及びケアマインドを育成する。</p>	<p>エンパシースケールを用いて、共感度の推移を実施し、共感度がケアマインド講義を通して形成されていることを確認した。</p> <p>また、夏休みに、早期体験実習（病院）を実施し、臨床の現場を体験させることにより、チーム医療の重要性を理解させた。早期体験医療実習については、その患者・家族関係を医学概論Ⅰで事前学習を実施した。老人福祉施設実習では、老人福祉施設の形態の理解及び施設毎の入所者の介護度の差等への理解とともに、高齢者とのコミュニケーションスキルを向上させた。2年次には、保育園実習を実施し、乳幼児と接することで年齢に伴う発達程度、個性の出現を理解させるとともに乳幼児に対する意思伝達の方法を体験させた。</p> <p>また、障害者福祉施設実習も実施し、障害者の状況、社会における立場及び家庭における立場について理解させ、支援状況に関する知識も修得させることができた。加えて、障害者とのコミュニケーションも体験させた。</p> <p>医療倫理については、1年次のケアマインド、4年次の生命倫理の特別講義や臨床実習入門でその基礎を学び、臨床実習で経験した具体的な事例研究を5年次最終日の学生報告会で発表した。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>1年次においては、医学部・保健看護学部・薬学部の3学部合同講義として、患者及び患者家族の会から直接話を聞き、3学部の学生が話し合うケアマインド教育を遠隔形式（一部対面式）で行い、障害や疾病を有する方々の精神的、社会的背景を理解する能力を向上させた。</p> <p>また、1年次にはキャンパスのある三葛地域において、地域に暮らす人々の暮らしを知る早期体験学習を実施した。</p> <p>2年次には、地域で暮らす各発達段階の人々の生活にふれる統合実習Ⅰを43施設・機関において実施した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>医学部、保健看護学部との合同講義であるケアマインド教育、薬剤師の役割について学ぶ薬学入門や薬剤師が活躍する現場を訪問する早期体験学習を行い、医療人としての必要な倫理観、共感的態度、コミュニケーション能力、ケアマインドの育成ができる教育を行った。</p> <p>また、1年次からハラスメント防止に関する講義や人権教育を実施し、高い倫理観や人権意識を身につける教育を行った。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>			
------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--

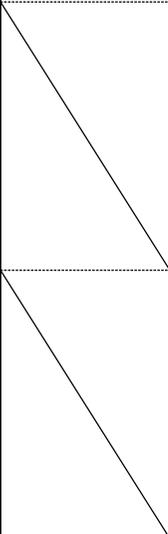
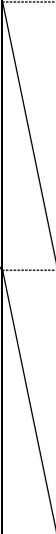
	<<指標1>> 3学部での共通科目の実施	<table border="1" data-bbox="824 225 1695 284"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">3学部共通でケアマインド教育等を実施</td> </tr> </table> <p data-bbox="824 292 1695 411">           1年次において、医学部・保健看護学部・薬学部の3学部合同講義として、患者及び患者家族から直接話を聞き3学部の学生が話し合うケアマインド教育を行い、障害や疾病を有する方々の精神的、社会的背景を理解する能力を向上させ、精神的・肉体的弱者の心に共感できる能力を育成した。         </p> <p data-bbox="1361 416 1695 440">【医学部・保健看護学部・薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	3学部共通でケアマインド教育等を実施																																		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																							
目標値	3学部共通でケアマインド教育等を実施																																												
オ. 人間性を高める教育を実施することにより、幅広い教養、生命に対する倫理観を養うとともに、医学、薬学、保健看護学に関する専門的な知識や技術を教授し、問題解決能力を有する優れた人材を育成する。	イ 【優れた人材の育成】 総合的・専門的な知識及び技術を備え、多方面で活躍できる質の高い医療人の育成を図るため、一部の基礎科目等で学部を横断した連携を図るなど、独自のカリキュラムを構築する。 医学部では、教養・基礎・臨床の垂直・水平統合等、各分野を適切に関連付けた科目編成の検討や、教学のPDCAサイクルを用いて学部教育の充実を図るなど、国際基準を満たす特色ある医療人育成教育システムを構築・運用し、地域医療を担う意欲・使命感をもった医学研究者や医療人を育成することで、本県の医療ニーズに応える。	<p data-bbox="824 480 1695 632">           1年次の医学部・保健看護学部・薬学部の3学部合同講義として、患者及び患者家族から直接話を聞き3学部の学生が話し合うケアマインド教育を行い、障害や疾病を有する方々の精神的、社会的背景を理解する能力を向上させ、精神的・肉体的弱者の心に共感できる能力を育成した。また、教養セミナーでは、教養科目と関連した内容について能動的な教育を体験し、その後の修学方法の基礎が養われた。         </p> <p data-bbox="824 639 1695 727">           2年次にTOEFL-ITP試験を実施し、英語能力の向上を図り、3年次の基礎配属実習については、海外施設での実習に14名が参加した。6年次の選択制臨床実習については、県内病院及び海外施設から選択を可能とし、より実際の臨床に近い実習を行った。         </p> <p data-bbox="824 735 1695 791">           また、地域医療の現状を理解させる取組として、地域医療に関する講義、県内各施設での早期体験実習、病棟実習及び体験実習を行った。         </p> <p data-bbox="824 799 1695 887">           国際基準を満たす特色ある医療人育成システムについては、医学教育分野別評価の期限付認定の結果（結果については異議申立中）により、システムの検討及び構築を進めている。         </p> <p data-bbox="824 895 994 919">●医学部臨床実習</p> <table border="1" data-bbox="824 922 1695 1345"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期間</td> <td>59週</td> <td>62週</td> <td>62週</td> <td>62週</td> <td>62週</td> <td>62週</td> <td>62週</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>204名</td> <td>246名</td> <td>46名</td> <td>86名</td> <td>210名</td> <td>202名</td> <td>212名</td> </tr> <tr> <td>施設数</td> <td>15病院 49診療科</td> <td>14病院 53診療科</td> <td>10病院 34診療科</td> <td>12病院 41診療科</td> <td>15病院 53診療科</td> <td>14病院 60診療科</td> <td>14病院 59診療科</td> </tr> <tr> <td>病院名</td> <td>紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 有田市立病院 国保日高総合病院 国立和歌山病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院 那智勝浦可立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター</td> <td>橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 国保日高総合病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター</td> <td>橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 南和歌山医療センター 新宮市立医療センター</td> <td>紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院</td> <td>紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院</td> <td>紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院</td> <td>橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1592 1350 1695 1374">【医学部】</p>		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	期間	59週	62週	62週	62週	62週	62週	62週	人数	204名	246名	46名	86名	210名	202名	212名	施設数	15病院 49診療科	14病院 53診療科	10病院 34診療科	12病院 41診療科	15病院 53診療科	14病院 60診療科	14病院 59診療科	病院名	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 有田市立病院 国保日高総合病院 国立和歌山病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院 那智勝浦可立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター	橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 国保日高総合病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター	橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 南和歌山医療センター 新宮市立医療センター	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院	橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター		III	7
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																						
期間	59週	62週	62週	62週	62週	62週	62週																																						
人数	204名	246名	46名	86名	210名	202名	212名																																						
施設数	15病院 49診療科	14病院 53診療科	10病院 34診療科	12病院 41診療科	15病院 53診療科	14病院 60診療科	14病院 59診療科																																						
病院名	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 有田市立病院 国保日高総合病院 国立和歌山病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院 那智勝浦可立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター	橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 国保日高総合病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター	橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 南和歌山医療センター 新宮市立医療センター	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院	橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 ひだか病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦可立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター																																						

		<p>「教養と人間学の領域」に「人間の理解」、「社会の理解」、「科学の理解」及び「コミュニケーション」に関する科目を開講するとともに、1年次の「教養セミナー」では5～6名のグループに分けて、それぞれ教員を2～3名配置し、4年次の「保健看護研究Ⅱ」及び「保健看護管理演習」では、3～4名のグループに教員1名を配置し、それぞれ必修科目として、少人数で演習や実習を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>1年生のカリキュラムは人文社会科学系科目などの教養科目と専門知識や技能を修得する専門科目をバランス良く揃え、幅広い教養と専門技術を持つ薬剤師育成に向けた教育を実行した。</p> <p>2年生に対して専門実習を実施し、薬学に関するあらゆる実験実習を行い、薬剤師や研究者に必要な専門技術の養成を行った。</p> <p>3年生後期から学生は教員が主宰する研究室に配属し、教員からの研究指導を受け、薬剤師や研究者に必要な研究マインドの養成を行った。</p> <p>4年生では学生が卒業研究の中間発表を行い、これまでの研究成果を総括した。また、事前学習を実施し、実務実習に必要な技術や態度を養った。その後、薬学共用試験を実施し、令和7年2月から病院・薬局実習を開始した。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>																								
	<p>《指標1》 臨床実習開始前の共用試験合格率（医学部） 基準値：98.1%（R1-R5年度の単年度平均）</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>98.1%</td> <td>98.1%</td> <td>98.1%</td> <td>98.1%</td> <td>98.1%</td> <td>98.1%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>97.1%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	98.1%	98.1%	98.1%	98.1%	98.1%	98.1%	実績	97.1%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	98.1%	98.1%	98.1%	98.1%	98.1%	98.1%																				
実績	97.1%	%	%	%	%	%																				
	<p>《指標2》 少人数による学習の実施（保健看護学部）</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">教養セミナー、保健看護研究Ⅱ、保健看護管理演習の実施</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="6">教養セミナー等について、目標どおり実施した。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	教養セミナー、保健看護研究Ⅱ、保健看護管理演習の実施						実績	教養セミナー等について、目標どおり実施した。								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	教養セミナー、保健看護研究Ⅱ、保健看護管理演習の実施																									
実績	教養セミナー等について、目標どおり実施した。																									
	<p>《指標3》 専門的教育の実施（薬学部）</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">特別実習、病院・薬局実習の実施</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="6">令和7年2月から病院・薬局実習を実施した。また、令和6年度の薬学共用試験合格率は100%となった。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	特別実習、病院・薬局実習の実施						実績	令和7年2月から病院・薬局実習を実施した。また、令和6年度の薬学共用試験合格率は100%となった。								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	特別実習、病院・薬局実習の実施																									
実績	令和7年2月から病院・薬局実習を実施した。また、令和6年度の薬学共用試験合格率は100%となった。																									
<p>オ. 人間性を高める教育を実施することにより、幅広い教養、生命に対する倫理観を養う</p>	<p>ウ 【国家試験】 新卒者の国家試験合格率を向上させるため、学修支援の充実を図る。 また、医学部において、学生に対する卒業試験後の個別支援を行うとともに、卒業</p>	<p>教育研究開発センターのIR部門が令和6年度医師国家試験の結果を解析し、教務学生委員会及び教授会に報告した。入学試験の成績と国家試験の合格とは一定の傾向はなかったが、卒業試験の成績不良者及び4年次のCBT試験で420点未満の者の大半が、国家試験不合格となる傾向を認めた。そこで、卒業試験の再試験受験者および、6年生の成績下位1/4</p>	<p>《指標1》の新卒者（令和7年3月卒業）の合格率が目標値に</p>	II	8																					

<p>とともに、医学、薬学、保健看護学に関する専門的な知識や技術を教授し、問題解決能力を有する優れた人材を育成する。</p>	<p>試験問題の検証・改善を図り、全国上位の合格率をめざす。</p>	<p>の学生を対象に個別面談を頻回に行い、学修方法やその他の諸問題の解決を図った。また、1 から 6 年生での留年経験者の国家試験合格率が著明に低かったことから、該当学生の指導を強化した。さらに、5 年生終了時に、実力試験を実施し、選択制臨床実習開始時の各人の学力を全国レベルと比較し評価し、成績下位者を対象に国家試験対策にかかる説明会の開催や個別面談を通じた学習アドバイス等の学習支援策を行った。新卒学生の合格率低下要因の1つとして本学全体の国家試験対策開始時期の遅れが想定される。学生の国家試験対策の着手時期を早めるために、教務学生委員会が①6 年生の 5 月に業者模試による学力判定試験の実施。②5 年生から国試直前までの学修進捗度（国家試験問題の着手問題数とその解答率を全国平均と比較したグラフ）を毎月学生に提示するシステムを構築。③卒業試験の作問方針を国家試験に更に準拠とするよう変更し、④試験問題作問 FD の実施を主導した。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>看護師、保健師ともに合格率 100%を目指し、学年担任及びゼミ担当教員を中心として学習支援を行うとともに、看護師模擬試験（4 回）、保健師模擬試験（3 回）を実施した結果、令和 6 年度においても、国家試験の合格率 100%を達成した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>薬学部の学生は、まだ薬剤師国家試験を受験していないため該当せず。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>	<p>達しなかったため。</p>																						
	<p>《指標 1》 新卒者の医師国家試験合格率 基準値：95.2%（R4 年度）</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>96.0%</td> <td>96.0%</td> <td>96.0%</td> <td>96.0%</td> <td>96.0%</td> <td>96.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>91.1%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	実績	91.1%	%	%	%	%	%		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%																			
実績	91.1%	%	%	%	%	%																			
	<p>《指標 2》 新卒者の看護師国家試験合格率 基準値：100%（R4 年度）</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																			
実績	100%	%	%	%	%	%																			
	<p>《指標 3》 新卒者の保健師国家試験合格率 基準値：100%（R4 年度）</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																			
実績	100%	%	%	%	%	%																			

	<<指標4>> 新卒者の薬剤師国家試験合格率 基準値：－	<table border="1" data-bbox="826 225 1693 328"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="842 331 1514 355">薬学部 of 学生は、まだ薬剤師国家試験を受験していないため該当せず。</p> <p data-bbox="1599 359 1686 381">【薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	－	－	－	90.0%	90.0%	90.0%	実績	－	－	－	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	－	－	－	90.0%	90.0%	90.0%																				
実績	－	－	－	%	%	%																				
<b>大学院教育</b>																										
カ. 分野横断的な大学院として、先進的な医療を支える高度で専門的な人材と独創的かつ高度な学術研究を行うことができる人材とを確保・育成するとともに、研究成果の発表を積極的に奨励する。	ア <b>【入学者の確保】</b> 大学院のプログラムや修学環境の課題を把握するため大学院への進学に関するニーズ調査を実施した上で、プログラムの改善等を検討するとともに、青洲基金大学院奨学金（給付型）、大学院授業料減免制度の周知や、広報に関する取組計画を作成・実施することで進学機運を醸成し、一層の入学者の確保を図る。 更に、社会人大学院生に対し仕事と学問を両立できる環境を整備する。	<p>令和6年度の医学薬学総合研究科開設時には、パンフレットの配布やホームページの充実に取り組み、新研究科のPRを行った。また、医療関係者が集まる会議等において、大学院の概要を説明する機会を確保するなど、積極的な広報活動を行った。</p> <p>また、下記のとおり学生募集を行い、入学者の確保に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集要項を各医局に配付するとともに、プログラム分科会において各所属長に周知し、協力を依頼した。</li> <li>・博士課程の募集要項を全国の大学（医学部・歯学部・薬学部）に送付した。また博士前期課程・博士後期課程の募集要項を県内外の病院や協会、大学・専門学校等に対して送付した。</li> <li>・英語版大学院HPに募集内容を掲載するとともに、海外提携校19校に対して募集の案内を行った。</li> <li>・学内のエレベーターなど目に留まりやすい箇所に募集に係るポスターを掲示した。</li> </ul> <p>さらに、これまでの修士課程にあたる博士前期課程の入学者確保を図るため、学内の関係部署や近隣の大学を訪問し、進学のニーズ等についてヒアリングをしたところ、大学院進学に係る問題として、経済的な負担があり、支援制度があまり周知されていないことが明らかになったことから、その後、学内説明会を開催し、大学院の概要のほか、青洲基金大学院奨学金や授業料減免制度などの支援制度について周知を行った。なお、学内説明会は、今後定期的に開催する計画としている。また、長期履修制度や夜間講義を引き続き実施するとともに、新たに全ての講義について遠隔配信を導入し、社会人学生が仕事と学問を両立できる環境を整備した。</p> <p>これらの取組の結果、令和7年4月入学者（令和6年度に入試を実施）は、博士課程26名、博士前期課程4名、博士後期課程9名となり、令和6年度とほぼ同等の入学者数を確保している。</p> <p data-bbox="1469 1189 1686 1211">【医学薬学総合研究科】</p> <p>学生の関心やニーズに幅広く応えるため、共通科目、健康科学領域、基盤看護学領域及び生活・地域保健学領域において計60科目を開設するとともに、特別研究修士論文公開発表会を1月に実施するなど、学生が高度な専門的知識を修得し、研究能力を向上させる機会を設けた。</p> <p>また、大学院説明会を6月29日（参加者14名）と10月19日（参加者1名）に実施した。</p> <p data-bbox="1491 1412 1686 1434">【保健看護学研究科】</p>		III	9																					

<p>《指標1》 大学院医学薬学総合研究科博士課程入学者定員の充足率 基準値：64.3%(R5年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中に100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>74.3%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>定員35名に対して、26名が入学した。 ※令和7年4月入学者の実績</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	第4期中期計画期間中に100%						実績	74.3%	%	%	%	%	%	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	第4期中期計画期間中に100%																						
実績	74.3%	%	%	%	%	%																	
<p>《指標2》 大学院医学薬学総合研究科博士前期課程入学者定員の充足率 基準値：7.1%(R5年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中に100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>28.6%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>定員14名に対して、4名が入学した。 ※令和7年4月入学者の実績</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	第4期中期計画期間中に100%						実績	28.6%	%	%	%	%	%	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	第4期中期計画期間中に100%																						
実績	28.6%	%	%	%	%	%																	
<p>《指標3》 大学院医学薬学総合研究科博士後期課程入学者定員の充足率 基準値：-</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中に100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>128.6%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>定員7名に対して、9名が入学した。 ※令和7年4月入学者の実績</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	第4期中期計画期間中に100%						実績	128.6%	%	%	%	%	%	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	第4期中期計画期間中に100%																						
実績	128.6%	%	%	%	%	%																	
<p>《指標4》 保健看護学研究科博士前期課程入学者定員の充足率 基準値：41.7%(R5年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>58.3%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>定員12名に対し、7名が入学した。 ※令和7年4月入学者の実績</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	58.3%	%	%	%	%	%	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																	
実績	58.3%	%	%	%	%	%																	
<p>《指標5》 保健看護学研究科博士後期課程入学者定員の充足率 基準値：133.3%(R5年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>定員3名に対し、3名が入学した。 ※令和7年4月入学者の実績</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																	
実績	100%	%	%	%	%	%																	

カ. 分野横断的な大学院として、先進的な医療を支える高度で専門的な人材と独創的かつ高度な学術研究を行うことができる人材とを確保・育成するとともに、研究成果の発表を積極的に奨励する。	イ 【成果発表】 学会での発表や学会誌への積極的な論文発表を奨励する。	<p>国際誌等への発表を奨励するため、大学院生が対象となる研究助成制度や、学会の開催情報は、指導教員等を通じて周知するとともに、学内掲示板や学内ホームページに掲載した。</p> <p>また、4月に各医局へ前年度の論文発表数等の調査を行うとともに、論文発表への働きかけを行い、論文発表数は51本から74本（博士課程のみ）、国内学会発表数は218回から231回（博士課程のみ）になり、前年度より増加した。</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科】</p> <p>大学院生が対象となる研究助成制度や学会の開催情報を、指導教員等を通じて積極的に周知した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学研究科】</p>	<p>《指標1》については、目標値を大幅に達成しており、また、《指標2》についても、目標値を達成していることから、計画の目標を上回る実績があげられているため。</p>	IV	10																					
	《指標1》 大学院生の論文発表数 基準値：54本(R4年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中に60本</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>85本</td> <td>本</td> <td>本</td> <td>本</td> <td>本</td> <td>本</td> </tr> </tbody> </table> <p>医学薬学総合研究科：博士課程74本、博士後期課程3本 保健看護学研究科：博士後期課程8本</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科・保健看護学研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	第4期中期計画期間中に60本						実績	85本	本	本	本	本	本			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	第4期中期計画期間中に60本																									
実績	85本	本	本	本	本	本																				
《指標2》 大学院生の国際学会発表数 基準値：21回(R4年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>26回</td> <td>31回</td> <td>36回</td> <td>41回</td> <td>46回</td> <td>51回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>38回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>医学薬学総合研究科：博士課程24回、博士後期課程13回 保健看護学研究科：博士後期課程1回</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科・保健看護学研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	26回	31回	36回	41回	46回	51回	実績	38回	回	回	回	回	回				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	26回	31回	36回	41回	46回	51回																				
実績	38回	回	回	回	回	回																				
カ. 分野横断的な大学院として、先進的な医療を支える高度で専門的な人材と独創的かつ高度な学術研究を行うことができる人材とを確保・育成するとともに、研究成果の発表を積極的に奨励する。	ウ 【研究能力の養成・支援、研究指導及び評価・顕彰】 分野横断的な講義・演習の実施や、学内での共同研究を一層活性化することにより、分野の垣根を超えた教育・研究を展開する。 また、大学院特別講義等を通じて問題の発見能力及び解決方法の企画立案能力を養う教育を実施するとともに、医療人として不可欠な生命に対する倫理観の高揚を図る。 更に、国内外の最先端研究機関や他大学	<p>医薬統合型の大学院として、医学・薬学両分野の教員によるオムニバス形式の講義を開講するとともに、副科目として異なる分野の演習を履修できる制度とするなど、医学と薬学の垣根を超えた教育の充実及び研究の活性化に取り組んだ。</p> <p>また幅広い分野の専門科目の開講や他大学の講師による特別講義の実施により、高度な専門知識や問題発見能力の修得を促進するとともに、修士論文公開発表会や研究討議会での発表、各研究室での演習などを通じて企画立案能力の向上を図った。</p> <p>さらに、医学薬学総合研究科の共通科目（必修）として、「研究倫理・医療倫理学」を開講し、動物実験などにおける研究倫理及び臨床現場での医療倫理について講義することで、先端的医学・薬学研究者、高度医療人として求められる倫理観を養った。</p> <p>研究者自身の研究能力や指導方法の向上については、特別講義において国内外で活躍する外部講師を招聘することにより、先進的な研究への理解を深め、研究者間の交流を図る</p>		III	11																					

	<p>との連携、共同研究の推進、長期留学を促し、研究者自身の研究能力や指導方法の向上を図る。独創性の高い研究内容に対しては、その業績を評価するとともに、優秀な成果を出している研究者を名誉教授会と連携して顕彰する。</p> <p>また、学位取得後のキャリアパス形成を支援する。</p>	<p>とともに、うち数回の講義を FD 研修会として開催することにより、教育の質の改善等に努めた。</p> <p>また、さらなる研究のレベルアップにつながるよう、優秀な成果を出している大学院生を名誉教授会賞の候補者として推薦した。</p> <p>学位取得後のキャリアパス形成の支援については、学位取得後も研究を継続できるよう特別研究員として採用する枠を令和4年度から設け、若手研究者の育成に取り組んでいる。</p> <p>さらに、令和6年4月に大阪公立大学との交流協定を更新し、特別研究学生として1名を受け入れている。</p> <table border="0" data-bbox="824 518 1288 646"> <tr> <td>修士論文公开发表会の発表者数</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>研究討議会の発表者数</td> <td>34名</td> </tr> <tr> <td>修士学位取得者数</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>博士学位取得者数（大学院コース）</td> <td>15名</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科】</p> <p>共通科目は16科目を開設している。また、特別講義は7回行った。学位取得後のキャリア形成は、指導教員が担当して細やかな支援を行った。</p> <p>各科目の教育目標を明確に記載したシラバスに基づきつつ、指導教員は各大学院生と十分打ち合せた上で作成した研究指導計画書を明示し個人に対応した指導を行い、特徴のある研究を促進した。</p> <p>臨床研究センターの活用については、副センター長による研究相談を教員及び大学院生（指導教員同席）を対象に18回実施した（相談者20名）。また、看護統計セミナーについても5回実施した。</p> <p>国際交流については、2月から3月に行われるビクトリア大学のヘルスケア研修に3名参加した。</p> <p>学会への投稿を積極的に行うよう、大学院生に対して日常的に勧め、必要に応じてアドバイスをを行った。また、優秀な研究成果を出している大学院生2名を研究科委員会で審査のうえ、名誉教授会奨励賞に推薦した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学研究科】</p>	修士論文公开发表会の発表者数	2名	研究討議会の発表者数	34名	修士学位取得者数	2名	博士学位取得者数（大学院コース）	15名									
修士論文公开发表会の発表者数	2名																		
研究討議会の発表者数	34名																		
修士学位取得者数	2名																		
博士学位取得者数（大学院コース）	15名																		
<p>《指標1》 大学院特別講義の実施</p>		<table border="1" data-bbox="824 1189 1691 1252"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">大学院特別講義の実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>大学院特別講義を11回実施し、うち3回は大学院教員のFD研修会として開催した。</p> <p>医学薬学総合研究科開設に伴うカリキュラム編成により、総回数は減っているが、外部講師による講義を同数程度開催しており、幅広い分野における最先端の研究に触れる機会を提供している。</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	大学院特別講義の実施								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11													
目標値	大学院特別講義の実施																		

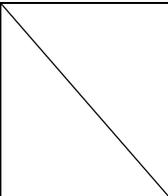
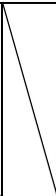
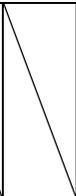
<p>カ. 分野横断的な大学院として、先進的な医療を支える高度で専門的な人材と独創的かつ高度な学術研究を行うことができる人材とを確保・育成するとともに、研究成果の発表を積極的に奨励する。</p>	<p>エ 【新研究科への保健看護学研究科の統合に向けた取組】          医学、薬学に加え、保健看護学における専門的な知識と研究力を身につけさせるとともに、共同研究・チーム医療の一員として活躍できる行動力や倫理観を持った人材を育成するため、新研究科の完成年度以降における保健看護学研究科の統合について、その意義を含めて検討する。          ≪指標1≫          大学院改組委員会等の開催</p>	<p>医学薬学総合研究科は、令和6年4月に開設したところであり、まずは同研究科の運用状況の精査を行った。          保健看護学研究科では、11月6日に開催された第4回あり方検討委員会において、大学院統合に向けたこれまでの経緯や現状の確認、今後の方向性について意見交換を行った。          人員体制が整い次第、関係部署間で連携しながら統合に向けた検討を進めていく予定である。          【医学薬学総合研究科・保健看護学研究科】</p> <table border="1" data-bbox="826 475 1693 539"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中に大学院改組準備委員会等を開催</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年度において、大学院改組準備委員会は開催していない。          【医学薬学総合研究科・保健看護学研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	第4期中期計画期間中に大学院改組準備委員会等を開催							III	12							
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	第4期中期計画期間中に大学院改組準備委員会等を開催																									
<b>専攻科教育</b>																										
<p>キ. 助産師として必要な倫理観及び問題解決能力を有する優れた人材を育成する。</p>	<p>ア 【教育課程】          妊娠期から子育て期及び女性の生涯の健康に理解の深い助産師を育成するため、必要な倫理観及び専門的知識・技術の修得という観点から、助産師課程修了時の到達度を検証した上で、教育課程を整備する。          ≪指標1≫          新卒者の助産師国家試験合格率          基準値：100%(R4年度)</p>	<p>3か月の助産学実習期間中、月末ごとに担当教員が学生と面談し、実習到達度について項目ごとに評価を行った。そのうえで、学生が到達できていない項目と課題を把握し、取り組めるよう調整した。また、継続事例のカンファレンスを実施し、学生間で実習中の学びなどを共有できるようにした。修了判定会議を2月に行った。          妊娠期の診断・技術を修得するため、妊婦に協力を得て平成28年度に作成したレオポルド診察法などの妊婦診察法とケアに関するDVDを、学生個々への指導及び演習で活用した。          また、分娩介助技術演習の効果を高めるため、作成した動画を用いてTeams上で反復学習ができるようにした。自己点検アンケートは1月に行った。これらの取組の結果、令和6年度においても、国家試験の合格率100%を達成した。          【助産学専攻科】</p> <table border="1" data-bbox="826 1018 1693 1121"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【助産学専攻科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%	<p>第3期中期計画の総括評価がIVでありその後も合格率100%を継続しているためIVとする。</p>	IV	13
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																				
実績	100%	%	%	%	%	%																				

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
<p>ア. 優れた教職員を学内外から幅広く確保し、適正配置するとともに、附属病院や学外実習対象施設との連携を強化することにより、教育の質の向上を図る。</p>	<p>ア 【教職員配置】 教育の質を向上させるため、学内外から幅広い分野の優れた教職員を確保し、教育内容や実習形態の変化に適応した教職員を配置するとともに、附属病院との人事交流や他の実習施設との連携を進めることにより、教育の充実を図る。また、教養教育の実施体制に関して教養教育専門委員会等で審議する。</p>	<p>教養教育専門委員会は、教養教育に係る事項（大学全体（3学部）の教養教育のあり方、改革、企画、立案、実施体制等）を審議する委員会であり、カリキュラム専門部会の一部会として設置され（「和歌山県立医科大学教育研究開発センターカリキュラム専門部会における医学部委員会、保健看護学部委員会、薬学部委員会及び教養教育専門委員会運営要項」（令和5年3月30日に最終改正））、審議事項や意見について代表者会議に具申することとなっている。令和6年度においては、委員会で審議する上記事項を検討及び整備を行った。また、カリキュラム専門部会の開催及び運用においては、学外の臨床実習実施施設（公立那賀病院）から委員を招聘し、本学以外の他施設との教育面での情報共有及び連携を図り、教育プログラム評価委員会医学部部会では、外部機関から委員を招聘し、学内では卒業臨床研修センターの教員を委員に加え、卒業研修のプログラム強化の向上を図った。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>病態学と在宅看護学の各領域について、教授2名を公募により採用した。 また、附属病院の看護部から助教2名の教員派遣を受け入れており、附属病院との人事交流は今後も続けていく予定である。 保健看護学部教務学生委員会では、高等学校において「情報」が必修科目となり、令和7年度の入学生はすでに基本的な知識を習得していることから、情報リテラシーやデータ活用についてより系統的に指導するため、令和7年度より情報関連科目の再編を行うこととした。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>教員の授業負担を適切に考えて配置するとともに、教養科目に社会学と言語学、Communication Englishを追加し、教養教育をさらに充実できるよう努めた。 医学部、保健看護学部、教育研究開発センターと連携して教養教育を行っているだけでなく、学外からも幅広い分野の優れた教員を招致し、講義を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>		III	14

	<p>≪指標1≫ 教養教育専門委員会や代表者会議の開催</p>	<table border="1" data-bbox="824 228 1693 344"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">教養教育専門委員会や代表者会議を開催し、教養教育の実施体制や問題点について検証・改善を行い、教養教育の充実を図る</td> </tr> </tbody> </table> <p>教養教育専門委員会の運用について、検討及び整備を行った。また、カリキュラム専門部会の開催・運用においては、外部委員や地域医療支援センター、産科・婦人科の教員を委員に招聘し、卒前・卒後教育及び臨床実践との連携が行われるよう体制を整えた。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>保健看護学部教務学生委員会で、令和7年度からの情報関連科目の再編を決定した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>教務学生委員会で、定期的に教養教育のあり方について議論した。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	教養教育専門委員会や代表者会議を開催し、教養教育の実施体制や問題点について検証・改善を行い、教養教育の充実を図る								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11													
目標値	教養教育専門委員会や代表者会議を開催し、教養教育の実施体制や問題点について検証・改善を行い、教養教育の充実を図る																		
<p>イ. ファカルティ・ディベロップメントの内容を一層工夫するとともに、教員の教育業績を積極的に評価することにより、教育の質の向上を図る。</p>	<p>イ 【教育活動に対する評価】</p> <p>教育活動の評価を学生及び第三者を含めた多方面から行うことにより、教育方法と教育者の資質の向上を図り、授業内容の客観的な評価の改善を図る。</p> <p>また、研究者の教育方法の改善を図るため、ファカルティ・ディベロップメントを充実させ、相互の情報交換を活発にする。</p> <p>医学部においては、臨床実習に関与する学外関連病院・施設の教育指導担当医師に対してファカルティ・ディベロップメント等の実施を検討するなど、教育の質の充実に取り組む。</p>	<p>授業評価については、講義、実習、試験において、授業の内容が適切であるか、シラバスに準拠しているか等について学生に評価を行わせ、結果を教員にフィードバックし、改善計画を提出させた。また、授業評価の総括を、学内教員に加え学生自治会から選出された学生委員、県医師会、患者会、病院協会、県技監等の外部委員により構成されている教育プログラム評価委員会医学部部会で審議した。</p> <p>授業相互評価については、授業を初めて行う教員及び希望者を対象者として、教育プログラム評価委員会医学部部会委員および教育研究開発センター教員より2名が授業を聴講し、評価シートに従って評価を行い、評価結果を各教員及び所属長にフィードバックした。令和6年度は11件のビデオ評価を行った。</p> <p>また、ベストティーチャー賞及びベストクリニカルティーチング賞を選出するとともに、学内に掲示し、顕彰し、選出者を講師としてFD研修会を開催した。これにより教員の意欲の向上が図られた。</p> <p>令和6年度は第3回FD研修会として選択制臨床実習オンライン会議を開催し、使命、カリキュラムポリシー、コンピテンシー、診療参加型臨床実習の実践についてFDを実施し学外関連病院の医師30人が出席した。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>FD委員会主催でFDカンファレンスを開催した。</p> <p>また、教育方法の改善と教育者の資質向上を促進するために、教員相互参観を行った。外部講師による講義を3回実施した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p>		<p style="text-align: center;">III</p>	<p style="text-align: center;">15</p>														

	<p>FD 委員会を年 6 回実施し、教育の質向上に努めた。 また、前期・後期の 2 回授業評価アンケートを実施し、結果を教員にフィードバックした。結果を受けた授業担当者へのアンケートも実施し、各教員の振り返りの場とした。結果については FD 委員会にて意見を出し合い、必要な場合は、担当教員に授業改善に係る助言を行った。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> </tr> <tr> <td>実績 (医学部)</td> <td>5 回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>実績 (保健看護学部)</td> <td>13 回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>実績 (薬学部)</td> <td>0 回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>薬学部は、FD 研修、FD カンファレンスを実施していないものの、FD 委員会は年 6 回実施した。</p> <p style="text-align: right;">【医学部・保健看護学部・薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	実績 (医学部)	5 回	回	回	回	回	回	実績 (保健看護学部)	13 回	回	回	回	回	回	実績 (薬学部)	0 回	回	回	回	回	回			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																		
目標値	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回																																		
実績 (医学部)	5 回	回	回	回	回	回																																		
実績 (保健看護学部)	13 回	回	回	回	回	回																																		
実績 (薬学部)	0 回	回	回	回	回	回																																		
	<p>FD 研修、FD カンファレンスの実施 基準値：2 回 (R5 年度)</p> <p>＜指標 1＞</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> </tr> <tr> <td>実績 (医学部)</td> <td>3 回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>実績 (保健看護学部)</td> <td>2 回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>実績 (薬学部)</td> <td>2 回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医学部・保健看護学部・薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	実績 (医学部)	3 回	回	回	回	回	回	実績 (保健看護学部)	2 回	回	回	回	回	回	実績 (薬学部)	2 回	回	回	回	回	回			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																		
目標値	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回																																		
実績 (医学部)	3 回	回	回	回	回	回																																		
実績 (保健看護学部)	2 回	回	回	回	回	回																																		
実績 (薬学部)	2 回	回	回	回	回	回																																		
<p>ウ. 教育研究活動に必要な設備、図書等の計画的な整備及び充実を図り、学生及び教職員が利用しやすい環境整備に努める。</p>	<p>ウ 【図書館機能】 医療系総合大学図書館として、教育のグローバル化、情報のオンライン化に対応した学修、研究、教育、診療を支援するため、蔵書の充実と図書館機能の強化を図るとともに、蔵書等を効率的に検索するためのデータベース利用講習会等、図書館の利便性を向上する取組を実施する。</p> <p>＜指標 1＞ 図書購入冊数 基準値：1,916 冊 (R1-R4 年度の単年度平均)</p>	<p>医学・看護学・薬学関連の定評ある図書の改訂版やガイドライン関連、国家試験対策等の図書選定、各学部に合わせて最新かつ幅広い蔵書収集に努めた。 データベース利用講習会については、医薬大学院改組を経て講義予定がなくなったこともあり、これまでの授業の一環としての講習ではなく、図書館利用者の利用レベルに合わせた講習内容を再検討しており、図書館独自でのオンライン講習を企画している。</p> <p style="text-align: right;">【図書館】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>1,950 冊</td> <td>1,950 冊</td> <td>1,950 冊</td> <td>1,950 冊</td> <td>1,950 冊</td> <td>1,950 冊</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2,044 冊</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【図書館】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1,950 冊	実績	2,044 冊	回	回	回	回	回		III	16																			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																		
目標値	1,950 冊	1,950 冊	1,950 冊	1,950 冊	1,950 冊	1,950 冊																																		
実績	2,044 冊	回	回	回	回	回																																		

<<指標 2>> データベース利用講習会回数 基準値：2回(R4年度)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	  
	目標値	3回	3回	3回	3回	3回	
	実績	1回	回	回	回	回	

【図書館】

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
留学生や障害のある学生などを含む全ての学生が修学・研究に安心して専念できるよう、学修、研究、生活、心身の健康等に係る支援体制の充実を図る。	<b>ア 【支援体制】</b> 学生の学修、健康、生活等の問題に対して適切に対応できるよう支援体制の充実を図る。また、これまでの留年者の学修・生活面の背景を分析し、学修意欲を引き出すためのカリキュラム改善や個別面談の実施など、必要な支援を実施することにより、留年者数の減少を図る。	<p>学生の修学等支援については、相談窓口として1、2年生及び留年生を対象に担任教員を配置した。また、従来の担任制に加え、留年経験のある4、5、6年生の学生を対象に、臨床医学講座の教員を担任とすることで、高学年においても多岐にわたる相談に対応できる体制を構築した。学生と担任教員との面談実績については、必要に応じて学生部長及び教育研究開発センターで情報共有し、学生の学修支援の充実を図った。</p> <p>また、学生の課外活動に関しては、課外活動支援助成金の配分時に、前年度の活動実績に応じた上乘せ配分を行い前年度よりさらに手厚い支援を行った。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>クラス担任が随時個別面談を行うとともに、全ての専任教員がオフィスアワーを設定するなど、きめ細やかな対応を行った。</p> <p>また、毎週火曜日に外部カウンセラーによるカウンセリングルームを設けており、1年を通して（相談がある場合は夏期・冬期休業中も）開設時間 15:30～21:30 として実施し、学生の学修、健康、生活等の問題に対する支援に努めた（相談件数 142 件）。留年者に対しては、担任が面接を行い、適宜相談にのっている。教務学務システムも令和4年度から運用を開始しており、学生への活用を進めている。2年生と4年生を対象に学生の学修や生活面も含めた実態調査を行い、自己点検・評価委員会を中心に支援体制の充実を図った。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>1～3年生に担任を配置し、学期始まりと長期休暇前に担任面談を実施した。学生生活の悩みは、担任教員、薬学部教務学生委員会の学生相談担当教員、研究室の教員、事務室の教学班長、外部カウンセラーを配置し、広く対応した。特に問題のある学生に対しては、副学部長もしくは学部長が面談を実施した。</p> <p>Web を利用した履修登録や成績通知等による学生の利便性向上、事務の効率化、学生情報を集積・一元管理できる全学統一の教務学務システムを運用した。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>	<<指標 1>>の留年者の数が、目標値を超えたため。	II	17

	<p>《指標1》 医学部における留年者数(全学年) 基準値：20人(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>15人</td> <td>15人</td> <td>15人</td> <td>15人</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>29人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	15人	15人	15人	15人	15人	15人	実績	29人	人	人	人	人	人										
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	15人	15人	15人	15人	15人	15人																											
実績	29人	人	人	人	人	人																											
	<p>《指標2》 担任面談の実施 基準値：年3回(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>年3回</td> <td>年3回</td> <td>年3回</td> <td>年3回</td> <td>年3回</td> <td>年3回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>年3回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	年3回	年3回	年3回	年3回	年3回	年3回	実績	年3回	回	回	回	回	回										
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	年3回	年3回	年3回	年3回	年3回	年3回																											
実績	年3回	回	回	回	回	回																											
	<p>《指標3》 外部カウンセラーによる面談 基準値：週1回(R5年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>週1回</td> <td>週1回</td> <td>週1回</td> <td>週1回</td> <td>週1回</td> <td>週1回</td> </tr> <tr> <td>実績(保健看護学部)</td> <td>週1回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>実績(薬学部)</td> <td>週1回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【保健看護学部・薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	週1回	週1回	週1回	週1回	週1回	週1回	実績(保健看護学部)	週1回	回	回	回	回	回	実績(薬学部)	週1回	回	回	回	回	回			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	週1回	週1回	週1回	週1回	週1回	週1回																											
実績(保健看護学部)	週1回	回	回	回	回	回																											
実績(薬学部)	週1回	回	回	回	回	回																											
<p>留学生や障害のある学生などを含む全ての学生が修学・研究に安心して専念できるよう、学修、研究、生活、心身の健康等に係る支援体制の充実を図る。</p>	<p>イ 【留学生等の修学環境整備】 留学生や修学上の配慮を必要とする学生などを含む多様な学生に対して、所属する研究室等を通じて情報提供を行うなど、適切な支援を行うことで、安心して修学できる環境を整備する。</p>	<p>学生募集案内(大学院)時に、日本での住まい等の日常生活に必要な情報や奨学金・授業料減免について、情報を英語で提供するとともに、所属する研究室・領域を通じて丁寧に説明するなどの適切な支援を継続して行った。 海外在住者特別入試制度について、門戸を広くするために条件の見直しを行った(大学院入試委員会)。 出願資格について、『入学月の前月まで日本国外に在住するもの』としていた条件を、『出願時点で海外に在住し、入学試験を受験するために渡日することができない者』と変更した。  膝を手術した学生からの申し入れに対し、教務学生委員会で協議の結果、通学時の学内への自動車の乗り入れを期限付きで許可した。 また、入試に際して配慮が必要な学生については、入試要項に申請方法を記載しており、該当があればそれを踏まえて検討することとしている。  修学上の配慮を必要とする学生については、当該学生からの申し出により事務室と教育担当の教員と相談し、遠隔授業の実施や追加課題を与えて対応するなど、授業担当教員とも連携して適切な支援を行った。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>		<p style="text-align: center;">III</p>	<p style="text-align: center;">18</p>																												

	<p>≪指標1≫ 学生部委員会の開催</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;">R6</th> <th style="width: 10%;">R7</th> <th style="width: 10%;">R8</th> <th style="width: 10%;">R9</th> <th style="width: 10%;">R10</th> <th style="width: 10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">修学上の配慮が必要な事案等が発生した際に随時開催</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年度学生部委員会（メール審議）4回開催（但し、修学上の配慮が必要な事案等の発生件数は0）。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>配慮が必要な学生については、事案が発生した都度、教務学生委員会で情報共有し、対応を審議した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>配慮が必要な学生については、事案が発生した都度、教務学生委員会で情報共有し、対応を審議した。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	修学上の配慮が必要な事案等が発生した際に随時開催								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11													
目標値	修学上の配慮が必要な事案等が発生した際に随時開催																		
<p>留学生や障害のある学生などを含む全ての学生が修学・研究に安心して専念できるよう、学修、研究、生活、心身の健康等に係る支援体制の充実を図る。</p>	<p>ウ 【大学院生の修学環境整備】</p> <p>大学院では、他学の出身者も多数入学ができる研究環境を充実させるとともに、長期履修制度の活用や講義の録画配信などを実施する。</p> <p>また、大学院生にアンケート調査を実施し学修実態を把握するとともに、教授会等で大学院生が臨床業務にあたる時間を少なくするよう働きかけることで、学修・研究に専念できる時間を確保し、研究生生活を続けやすい環境を整備する。</p>	<p>長期履修制度を引き続き運用し、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修できるようにすることで、社会人学生等が修学しやすい環境を整えた。令和6年度からは社会人学生に加え、出産、育児又は親族の介護を行う必要がある学生も対象とするとともに、最終年次を除く在学学生も申請可能とすることにより、より利用しやすく、学修・研究に専念できる時間を確保できる制度として運用を開始した。</p> <p>また、すべての講義において、リアルタイムでの遠隔配信を導入し、録画配信もあわせて実施することにより、仕事等のため大学に来られない学生や遠方に居住している学生が職場や自宅、又は録画で講義を受講できる環境を整備すると同時に、英語版の講義資料作成について各教員に協力を依頼することにより、留学生など多様な学生が入学できるように配慮した。</p> <p>さらに、講義を夕刻から夜間にかけて開講し、研究指導教員と相談の上、研究指導を夜間や休日に行うことも可能とすることで、学修・研究に係る時間の確保を図った。</p> <p>加えて、T・Aを委嘱し、将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供するとともに、研究生生活の継続につながるよう報償費の支給による経済的支援を行った。</p> <p>大学院生へのアンケートや臨床業務にあたる時間を少なくするための働きかけについては、令和6年度は実施できていないが、今後在学者が増えてきた段階で学修実態を把握するためのアンケートを行うとともに、教授会等において学修・研究に専念できる時間の確保について働きかけていく予定である。</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科】</p> <p>保健看護学研究科においては、昼夜開講制及び長期履修制度を実施するとともに、希望者に対しT・A制度による経済的支援を行い、研究生生活の継続に対する支援を行った。</p> <p>長期履修制度適用者数：14名 T・A制度適用者数：1名</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学研究科】</p>		III	19														

<<指標 1>> 修学支援制度の活用	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 10%;">R6</td> <td style="width: 10%;">R7</td> <td style="width: 10%;">R8</td> <td style="width: 10%;">R9</td> <td style="width: 10%;">R10</td> <td style="width: 10%;">R11</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">長期履修制度、T・A 制度等の活用により学生を支援</td> </tr> </table> <p>医学薬学総合研究科においても引き続き長期履修制度を運用し、令和6年度は3課程で14名の申請を承認した。また医学研究科及び医学薬学総合研究科あわせて10名の学生に対して、T・A制度を活用し支援を行った。</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科】</p> <p>保健看護学研究科では、研究生生活の継続を支援するために、昼夜開講制や長期履修制度を実施し、希望者にはT・A制度による経済的支援も実施している。</p> <p>長期履修制度の利用者：14名 T・A制度の利用者：1名</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	長期履修制度、T・A 制度等の活用により学生を支援						<<指標 2>> 遠隔講義の開催（医学薬学総合研究科）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 10%;">R6</td> <td style="width: 10%;">R7</td> <td style="width: 10%;">R8</td> <td style="width: 10%;">R9</td> <td style="width: 10%;">R10</td> <td style="width: 10%;">R11</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">全講義について、遠隔講義を開催</td> </tr> </table> <p>令和6年5月から開始した医学薬学総合研究科の全ての講義について、Microsoft Teamsを活用した遠隔リアルタイム配信を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【医学薬学総合研究科】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	全講義について、遠隔講義を開催					
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																								
目標値	長期履修制度、T・A 制度等の活用により学生を支援																														
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																									
目標値	全講義について、遠隔講義を開催																														

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-1)(III-3)(IV-2)】
----------------------	------	-------------	--------------------------------------

(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																					
ア. 国際的に高く評価される研究水準をめざし、研究活動の活性化を図るとともに、独創的な研究及び先進的な研究を推進する。	<p><b>ア 【研究活動】</b></p> <p>がんや認知症等の神経難病をはじめ、本県で重点的に取り組まなければならない分野において、医師主導治験の実施、次世代医療研究センターや医療データサイエンス分野を中心とした新たな取組、組織横断型研究の更なる推進等により研究活動の活性化を図るとともに、医の倫理に基づき、質の高い臨床研究や先進的な基礎研究及び独創的研究に取り組む。</p>	<p>次世代医療研究センター1階に、「データサイエンスセンター」を開設し、がんをはじめ本県で重点的に取り組まなければならない分野において、医療ビッグデータのデータベース構築やデータ解析、企業との共同研究等を実施し、データ駆動型の新たな取組を推進している。</p> <p>また、組織横断型研究の更なる推進のため、医学薬学交流勉強会を開催し、学部や所属の枠を超えた交流が促進され、新たな共同研究の立ち上げ等に向けた検討が進んでいる。</p> <p style="text-align: right;"><b>【研究推進課】</b></p> <p>学内で行われる企業治験、医師主導治験、臨床研究等に対して臨床研究センター各部門が連携し、総合的な研究支援（プロトコル作成、データマネジメント、統計解析、モニタリング、監査を通じた品質管理、研究実施に係るセミナー開催、研究相談への対応等）を行うとともに、本学及び紀州臨床研究ネットワーク（KiCS Network）参画医療機関が主導する特定臨床研究への支援（新規研究立ち上げを含む）も行った。</p> <p>●研究者向け講習受講実績（e-ラーニングで実施）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究者向け講習 (Basic コース)</td> <td>1,006人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>研究者向け講習 (臨床研究法コース)</td> <td>570人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>上記に加え、R6年度は医学統計セミナーを4回開催し、参加者は延べ51人であった。</p> <p style="text-align: right;"><b>【臨床研究センター】</b></p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	研究者向け講習 (Basic コース)	1,006人						研究者向け講習 (臨床研究法コース)	570人						<p>データサイエンスセンターを開設し、データ駆動型の新たな取組を実施しているほか、医師主導治験、特定臨床研究等への支援も着実に実施していることを評価した。</p>	IV	20
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
研究者向け講習 (Basic コース)	1,006人																									
研究者向け講習 (臨床研究法コース)	570人																									

	<p>《指標1》 先進的・独創的な研究の推進</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">国際的に評価される研究水準をめざし、本県で重点的に取り組むべき分野について、先進的・独創的な研究に取り組む</td> </tr> <tr> <td colspan="7">データサイエンスセンターにおいて、がんをはじめ本県で重点的に取り組まなければならない分野について、医療ビッグデータのデータベース構築やデータ解析、企業との共同研究等により、データ駆動型の新たな取組を実施した。</td> </tr> <tr> <td colspan="7" style="text-align: right;">【研究推進課】</td> </tr> </tbody> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	国際的に評価される研究水準をめざし、本県で重点的に取り組むべき分野について、先進的・独創的な研究に取り組む						データサイエンスセンターにおいて、がんをはじめ本県で重点的に取り組まなければならない分野について、医療ビッグデータのデータベース構築やデータ解析、企業との共同研究等により、データ駆動型の新たな取組を実施した。							【研究推進課】									
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	国際的に評価される研究水準をめざし、本県で重点的に取り組むべき分野について、先進的・独創的な研究に取り組む																																
データサイエンスセンターにおいて、がんをはじめ本県で重点的に取り組まなければならない分野について、医療ビッグデータのデータベース構築やデータ解析、企業との共同研究等により、データ駆動型の新たな取組を実施した。																																	
【研究推進課】																																	
	<p>《指標2》 医師主導治験件数（3年間合計） 基準値：4件以上（過去3年間合計）（※） ※臨床研究中核病院承認要件</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>6件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td colspan="7" style="text-align: right;">【臨床研究センター】</td> </tr> </tbody> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	4件	4件	4件	4件	4件	4件	実績	6件	件	件	件	件	件	【臨床研究センター】									
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	4件	4件	4件	4件	4件	4件																											
実績	6件	件	件	件	件	件																											
【臨床研究センター】																																	
	<p>《指標3》 外部の特定臨床研究に対する支援件数（1年間合計） 基準値：15件以上（過去1年間）（※） ※臨床研究中核病院承認要件</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>15件</td> <td>15件</td> <td>15件</td> <td>15件</td> <td>15件</td> <td>15件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>48件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td colspan="7" style="text-align: right;">【臨床研究センター】</td> </tr> </tbody> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	15件	15件	15件	15件	15件	15件	実績	48件	件	件	件	件	件	【臨床研究センター】									
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	15件	15件	15件	15件	15件	15件																											
実績	48件	件	件	件	件	件																											
【臨床研究センター】																																	
<p>イ. 研究成果や業績などを学会及び学術誌等に発表し、外部の意見や評価を積極的に取り入れ、研究実績の向上を図る。</p>	<p>イ 【論文・学会発表】 臨床研究センター等による研究支援や若手研究者等の論文発表の奨励により論文発表を促進するとともに、論文の質の向上を図る。また、学会での発表を通じて学外から研究活動の評価を受け、研究活動の質の向上を図る。</p>	<p>若手研究者等の論文発表や研究推進を奨励するため、学内において「学術論文奨励賞」「次世代リーダー賞」「若手研究奨励賞」を公募し、優秀な若手研究者に授与した。 また、優れた学術研究を行っている研究者に助成を行い研究活動の活性化を図り、その研究成果については学内外の審査員の前で発表を実施している。審査員のコメントをフィードバックすることで今後の研究発展に繋げている。</p> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p> <p>臨床研究センターにおいて総合的な研究支援を行うとともに、英文エディターを配置し、英語論文作成支援を行った。</p> <p style="text-align: right;">【臨床研究センター】</p>	<p>《指標2》及び《指標3》の論文発表件数、IF3.0以上の論文数ともに目標を下回った。</p>	II	21																												
	<p>《指標1》 英文エディターによる英語論文校閲実施件数 基準値：158件（R4年度）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>160件</td> <td>162件</td> <td>164件</td> <td>166件</td> <td>168件</td> <td>170件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>169件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td colspan="7" style="text-align: right;">【臨床研究センター】</td> </tr> </tbody> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	160件	162件	164件	166件	168件	170件	実績	169件	件	件	件	件	件	【臨床研究センター】									
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	160件	162件	164件	166件	168件	170件																											
実績	169件	件	件	件	件	件																											
【臨床研究センター】																																	

<<指標2>> PubMed収録の英語原著論文発表件数 (筆頭著者) 基準値：236本 (R3、R4年度の単年度平均)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>240本</td> <td>244本</td> <td>248本</td> <td>252本</td> <td>256本</td> <td>260本</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>219本</td> <td>本</td> <td>本</td> <td>本</td> <td>本</td> <td>本</td> </tr> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	240本	244本	248本	252本	256本	260本	実績	219本	本	本	本	本	本			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																		
目標値	240本	244本	248本	252本	256本	260本																			
実績	219本	本	本	本	本	本																			
<<指標3>> PubMed収録の英語原著論文発表件数 (筆頭著者)のうちIF3.0以上の件数 基準値：113本 (R3、R4年度の単年度平均)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>115本</td> <td>117本</td> <td>119本</td> <td>121本</td> <td>123本</td> <td>125本</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>88本</td> <td>本</td> <td>本</td> <td>本</td> <td>本</td> <td>本</td> </tr> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	115本	117本	119本	121本	123本	125本	実績	88本	本	本	本	本	本			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	115本	117本	119本	121本	123本	125本																			
実績	88本	本	本	本	本	本																			

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
ア. がんに対する総合的な研究など重点的に取り組まなければならない分野を的確に把握し、研究活動及び成果を評価した上で、研究体制・環境の充実を図る。	<b>ア 【研究体制・環境の整備、研究の評価】</b> 次世代医療研究センターにおいて研究を進めているがんや神経難病などの先端医学の分野に加え、医療データサイエンスの分野において、研究組織整備及び研究者充実等の体制強化を図るとともに、共同利用施設について、計画的かつ効果的に研究機器や備品の導入・更新を行うこと等により研究環境の強化を図る。 また、論文や学会発表などの研究成果や特許申請・取得などの総合的な業績に基づく各教室及び研究者個人の業績評価に向け、具体的な取組を検討する。	医療データサイエンス分野研究の中核組織として、次世代医療研究センター1階にデータサイエンスセンターを開設し、センターの運営を担う医療統計学講座に教授が着任した。 また、次世代医療研究センター3階のバイメディカルサイエンスセンターで保管している検体について、活用に向けて利用料金を設定し、学内、学外にPRして検体の利用を促している。 共同利用施設には、ニーズの高い研究機器の新規導入及び更新を行った。 総合的な業績に基づく各教室及び研究者個人の業績評価に向けた検討をしていくにあたり、業績評価の実施方法の一つの参考となるよう、従来から実施している「次世代リーダー賞」、「若手研究奨励賞」において、代表的な業績のみならず、その業績に至る過程も含めた総合的な評価により審査を行った。  伏虎動物実験施設において、運用ルールや備品購入等の環境整備を行い、今後の感染区域稼働に向けて検討した。伏虎研究機器施設において、運用ルールの作成や備品選定にあたっては、施設を効率的に運用できるように、また利用者のニーズに応えるために、管理運営委員会や利用者会議を設置し、協議できる体制を整えた。不足する備品の整備を引き続き行い、併せて購入した物品について、効果的に使用できるよう保守等についても検討した。	<b>【研究推進課】</b>  <b>【薬学部】</b>	III	22

	<p>《指標1》 企業との共同研究の実施件数 基準値：53件(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>52件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【研究推進課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	53件	53件	53件	53件	53件	53件	実績	52件	件	件	件	件	件			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	53件	53件	53件	53件	53件	53件																				
実績	52件	件	件	件	件	件																				
<p>ア. がんに対する総合的な研究など重点的に取り組まなければならない分野を的確に把握し、研究活動及び成果を評価した上で、研究体制・環境の充実を図る。</p>	<p>イ 【臨床研究・治験】 質の高い臨床研究や治験を推進し、国際水準の臨床研究において、我が国の中心的な役割を担う体制の充実を図る。 また、県内の治験・臨床研究拠点として、本県における治験・臨床研究の活性化に貢献する。</p> <p>《指標1》 がんを対象とした治験の実施件数 基準値：75件(R2-R4年度の単年度平均)</p>	<p>本学において実施される企業治験、医師主導治験、臨床研究等に対する総合的な研究支援（プロトコル作成、データマネジメント、統計解析、モニタリング、監査を通じた品質管理、研究実施に係るセミナー開催、研究相談への対応等）を行うとともに、他の医療機関の臨床研究に対してもモニタリング支援やデータマネジメント等、収集データの品質維持・向上に対する支援を行うなど総合的な支援を行った。 また、紀州臨床研究ネットワーク（KiCS Network）参画医療機関間での治験・臨床研究に関する情報の共有を図るため、疾病分野ごとのメーリングリストを設けるなど研究活性化支援に取り組んだ。</p> <p>【臨床研究センター】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>77件</td> <td>79件</td> <td>81件</td> <td>83件</td> <td>85件</td> <td>87件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>92件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【臨床研究センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	77件	79件	81件	83件	85件	87件	実績	92件	件	件	件	件	件		III	23
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	77件	79件	81件	83件	85件	87件																				
実績	92件	件	件	件	件	件																				
<p>イ. 学外の先進的な研究者の受入れや組織横断型の研究を促進するとともに、次世代を担う若手研究者の支援体制の充実を図る。</p>	<p>ウ 【組織横断型の研究】 がんや認知症等の神経難病など、本学が担うべき研究分野における研究を推進するため、学外からの研究者の受入を図るほか、医学・薬学交流勉強会をはじめとした学部間連携を促進する取組の実施により医学部、保健看護学部、薬学部の連携・交流を更に促進し、組織横断型のプロジェクトや次世代を担う若手研究者への支援策を強化する。</p> <p>《指標1》 競争的研究費の獲得件数 基準値：251件（AMEDのR2-R4年度の単年度平均及び科研費のR5年度の実績の合計）</p>	<p>学外の先進的な研究者の受入を図るため、客員研究員の受入対象に研究機関及び民間企業に所属する者を追加する規程改正を行い、幅広く学外の研究者を受け入れる体制を整備した。 学部間連携を促進する取組として、医学薬学交流勉強会を開催し、学部や所属の枠を超えた交流が促進され、新たな共同研究の立ち上げ等に向けた検討が進んでいるほか、組織横断型特定研究助成プロジェクトで、講座等の枠を超えた研究5件に対し助成することで、医学部、保健看護学部、薬学部の連携・交流の更なる促進に向けて取り組んだ。 また、優れた学術研究を行っている若手研究者に対し更なる研究の発展を支援するため、「若手研究支援助成」を12件に対し行った。</p> <p>【研究推進課】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>254件</td> <td>256件</td> <td>258件</td> <td>260件</td> <td>262件</td> <td>264件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>259件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【研究推進課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	254件	256件	258件	260件	262件	264件	実績	259件	件	件	件	件	件		III	24
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	254件	256件	258件	260件	262件	264件																				
実績	259件	件	件	件	件	件																				

<p>ウ. 寄附金、競争的研究費及び民間機関等との共同研究・受託研究等外部研究資金による研究費の獲得に積極的に取り組む。</p>	<p>エ 【研究企画支援組織(URA(University Research Administrator)組織)による研究支援】</p> <p>URAによる研究企画支援体制を整備し、基礎研究等で発掘したシーズから臨床研究等につながるプロジェクトや学内外の研究者が連携するプロジェクトを企画し、大型の競争的研究資金等の獲得をめざすとともに、科学研究費助成事業等をはじめとした競争的研究費の更なる獲得のため、本学の研究者の応募を促進し、ノウハウの提供による獲得支援を行う。</p> <p>また、企業との共同研究、受託研究及び治験等を推進・支援し、積極的に外部資金の獲得を図る。</p>	<p>競争的資金の獲得に向けて、医学部、薬学部及び保健看護学部において「How to get 科研費セミナー」及び「若手研究者のための科研費セミナー」を開催し、科研費応募に係る事務手続きの説明とともに、科研費獲得のポイントと戦略について講義を行った（同時に配付資料の学内ホームページ掲載、セミナーの録画 DVD の貸し出しを実施）。さらに、URA及び研究活動活性化委員会委員による科研費応募書類の作成支援を実施した。</p> <p>URAについては、主に大型研究費の獲得支援を行うことを目的に、令和7年度から1名増員し、研究支援体制の強化を図ることとした。</p> <p>また、企業との共同・受託研究の推進については、県内企業等からの共同研究等に関する問い合わせを受け、URAが研究者の検索を実施し、マッチングさせることで、産官学連携に取り組んできた。</p> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p> <p>業務委託を行っている治験施設支援機関（SMO）からの情報収集をもとに、診療科に対して新規治験の紹介を行うとともに、臨床研究センターのホームページに最新の治験情報を掲載し、治験実施の推進と被験者確保に取り組んだ。</p> <p>また、紀州臨床研究ネットワーク（KiCS Network）参画医療機関間での治験・臨床研究に関する情報の共有を図るため、疾病分野ごとのメーリングリストを設けるなど研究活性化支援に取り組んだ。</p> <p style="text-align: right;">【臨床研究センター】</p>	<p>現状、企業からの資金獲得が難しくなっている中、共同研究や治験実施症例件数の実績を着実に上げていること、競争的研究費の獲得件数・額ともに目標を上回っていることを評価した。</p>	<p>IV</p>	<p>25</p>																					
<p>＜指標1＞ 企業との共同研究の実施件数 基準値：53件(R4年度)</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>52件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	53件	53件	53件	53件	53件	53件	実績	52件	件	件	件	件	件			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	53件	53件	53件	53件	53件	53件																				
実績	52件	件	件	件	件	件																				
<p>＜指標2＞ 治験実施症例件数 基準値：193件(R2-R4年度の単年度平均)</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>195件</td> <td>197件</td> <td>199件</td> <td>201件</td> <td>203件</td> <td>205件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>224件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【臨床研究センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	195件	197件	199件	201件	203件	205件	実績	224件	件	件	件	件	件			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	195件	197件	199件	201件	203件	205件																				
実績	224件	件	件	件	件	件																				
<p>＜指標3＞ 競争的研究費の獲得件数 基準値：251件(AMEDのR2-R4年度の単年度平均及び科研費のR5年度の実績の合計)</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>254件</td> <td>256件</td> <td>258件</td> <td>260件</td> <td>262件</td> <td>264件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>259件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	254件	256件	258件	260件	262件	264件	実績	259件	件	件	件	件	件			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	254件	256件	258件	260件	262件	264件																				
実績	259件	件	件	件	件	件																				

<<指標4>> 競争的研究費の獲得額(科学研究費助成事業、AMED) 基準値：526,812千円(AMEDのR2-R4年度の単年度平均及び科研費のR5年度の実績の合計)							
		R6	R7	R8	R9	R10	R11
	目標値	531,022千円	535,592千円	539,982千円	544,372千円	548,762千円	553,152千円
実績	558,644千円	千円	千円	千円	千円	千円	
【研究推進課】							

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-19)(IV-1)】
----------------------	------	-------------	---------------------------------------

(1) 診療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況						特記事項	進捗評価	中期計画番号	
共通											
ア. 附属病院及び附属病院紀北分院(以下「紀北分院」という。)の特色及び果たすべき役割を明確にし、それぞれが最大限の能力を発揮できるよう相互の連携を図る。	<b>【附属病院・紀北分院の役割・交流】</b> 高度急性期医療を担う附属病院と、地域に密着した医療を提供する紀北分院が、大学病院として互いに協調しながら医療の充実を図るため、情報の共有化や全職種における交流を活性化させる。	本院及び分院それぞれが大学病院としての任務を果たせるよう、適時、医師を適正に配置するとともに、事務職員、医療技術職員及び看護職員の定期人事異動において、事務職員や理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士、看護師等の職種で交流人事を実施した。また、理学療法士や管理栄養士等の医療技術職員については、年度途中においても交流人事を実施した。  紀北分院で月1回開催する拡大早朝会議に、附属病院の病院長、看護部長、関係所属科長等が参加し、経営改善の取組等について、意見交換、情報共有を行うと共に、各部署での懇談、院内ラウンド等を行い、附属病院と紀北分院の交流の活性化を図った。 附属病院で開催している病院運営戦略会議に、分院長と次長が参画し、経営課題等について検討を行った。							III	26	
	<<指標1>> 紀北分院の運営会議への附属病院関係者の参画		R6	R7	R8	R9	R10	R11			
		目標値	附属病院の病院長、看護部長及び中央部門の長が、定例的かつ継続的に、紀北分院の運営会議に参画								
		附属病院の病院長、看護部長、中央部門の長等が、紀北分院で月1回開催する拡大早朝会議に参加し意見交換、情報共有を行った(計12回)。									
		【紀北分院】									

附属病院																												
<p>イ. 特定機能病院として、十分な医療安全管理体制を確保し、高度かつ先進的な医療を提供するとともに、医療サービスの向上を図る。</p>	<p>ア 【先進的医療の推進】 質の高い臨床研究や治験の推進、先端医療機器の導入等を通じて、最先端の医療を提供する。 また、医療機器のセキュリティ対策及び医療情報の適正な管理に努めるとともに、蓄積された診療データの利活用を促進し、質の高い医療の提供を支援する。</p>	<p>本学において実施される企業治験、医師主導治験、臨床研究等に対する総合的な研究支援（プロトコル作成、データマネジメント、統計解析、モニタリング、監査を通じた品質管理、研究実施に係るセミナー開催、研究相談への対応等）を行うとともに、他の医療機関の臨床研究に対してもモニタリング支援やデータマネジメント等、収集データの品質維持・向上に対する支援を行うなど総合的な支援を行った。</p> <p>また、紀州臨床研究ネットワーク（KiCS Network）参画医療機関間での治験・臨床研究に関する情報の共有を図るため、疾病分野ごとのメーリングリストを設けるなど研究活性化支援に取り組んだ。</p> <p style="text-align: right;">【臨床研究センター】</p> <p>診療備品については、経営計画（改善計画）により令和 11 年度まで各年度予算枠を設定している。</p> <p>診療備品整備委員会において整備備品を選定し、理事会の承認を得て医療機器を整備しており、令和 6 年度は、備品 37 件について計画的に整備した。</p> <p>また、令和 7 年度整備する機器として、更新・新規 25 件を選定するとともに、先進的医療等を推進するため戦略的医療機器枠 5 件の選定を行った。</p> <p style="text-align: right;">【経理課】</p> <p>厚生労働省「医療機関におけるサイバーセキュリティ確保事業」に参加し、電子カルテシステムにつながるリモート保守回線の現地調査を受けた。調査のため回線・機器情報管理一覧による管理表を更新。調査結果をもとに、ネットワーク機器のファームウェア更新を実施。</p> <p>また、診療データの利活用に関しては、研究用 PACS 画像の書き出し処理の簡便化及び抽出画像のログを残す仕組みを構築した。</p> <p style="text-align: right;">【情報基盤統括センター】</p>					III	27																				
<p>＜指標 1＞ 医師主導治験件数（3 年間合計） 基準値：4 件以上（過去 3 年間合計）（※1） ※1 臨床研究中核病院承認要件</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>4 件</td> <td>4 件</td> <td>4 件</td> <td>4 件</td> <td>4 件</td> <td>4 件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>6 件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【臨床研究センター】</p>								R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	4 件	4 件	4 件	4 件	4 件	4 件	実績	6 件	件	件	件	件	件
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																						
目標値	4 件	4 件	4 件	4 件	4 件	4 件																						
実績	6 件	件	件	件	件	件																						
<p>＜指標 2＞ 高度かつ先進的な医療の提供数（※2） 基準値：39,952 件（R4 年度） ※2 手術件数、放射線治療件数、内視鏡治療件数、薬物療法センターの延べ患者数、分娩件数の合計</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">人口減少が進む中、令和 4 年度の手術・治療件数を維持する。</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>42,621 件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経理課】</p>						R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	人口減少が進む中、令和 4 年度の手術・治療件数を維持する。						実績	42,621 件	件	件	件	件	件		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																						
目標値	人口減少が進む中、令和 4 年度の手術・治療件数を維持する。																											
実績	42,621 件	件	件	件	件	件																						

	<<指標3>> 医療情報システムの更新	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:40%;"></th> <th style="width:10%;">R6</th> <th style="width:10%;">R7</th> <th style="width:10%;">R8</th> <th style="width:10%;">R9</th> <th style="width:10%;">R10</th> <th style="width:10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="3">システム更新に向けた検討・準備作業の実施</td> <td>システム更新</td> <td colspan="2">-</td> </tr> </tbody> </table> <p>第6期医療情報システム更新作業スケジュールを作成。          想定する次期システムのデモ環境を構築し、画面構成、操作性等について調査中。  <b>【情報基盤統括センター】</b></p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	システム更新に向けた検討・準備作業の実施			システム更新	-											
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	システム更新に向けた検討・準備作業の実施			システム更新	-																					
イ. 特定機能病院として、十分な医療安全管理体制を確保し、高度かつ先進的な医療を提供するとともに、医療サービスの向上を図る。	イ <b>【医療安全・感染制御】</b> リスクマネージャーやインフェクションマネージャーを育成するなど、医療安全及び感染制御の更なる体制強化により、安全で質の高い医療を提供する。	<p>重大事故調査委員会は、開催すべき事例が1件発生したため、委員会を開催し十分協議を行った。医療事故調査委員会に関しては、該当事例が発生していないため未開催。          リスクマネージャー会議は、3月開催の会議の中に日本専門医機構認定共通講習を含めることで、リスクマネージャーの育成等を行い安全管理体制の充実に努めた。          ピアレビュー等で指摘され課題としていた「インシデントレポート報告件数の増加」について、広報誌（にゅーすれたー）やリスクマネージャー会議等で周知した。結果、令和6年度のインシデント・アクシデントレポート件数は4,939件であり、レポート件数の増加に繋がっている。          令和6年度はeラーニングで2研修（インシデント編、倫理編）を開講し、定期的に受講状況の確認を行い、各所属へ受講を促した。結果、受講率は100%となった。  <b>【医療安全推進部】</b></p> <p>感染マネージャー会を年間11回開催し、各部署の感染マネージャーとの情報共有と感染制御活動の支援を行った。また感染予防対策研修会を企画し11回開催し、受講者率は100%であった。          血液培養陽性症例、特定抗菌薬使用症例に介入し、感染症診療・抗菌薬適正使用の支援を行った。カルバペネム系抗菌薬の使用量（AUD）は0.9であった。  <b>【感染制御部】</b></p>		III	28																					
	<<指標1>> 医療安全研修会受講者率 基準値：100%(R4年度) ※病休、産休、育休及び学外への派遣職員等を除く	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:40%;"></th> <th style="width:10%;">R6</th> <th style="width:10%;">R7</th> <th style="width:10%;">R8</th> <th style="width:10%;">R9</th> <th style="width:10%;">R10</th> <th style="width:10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;"><b>【医療安全推進部】</b></p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																				
実績	100%	%	%	%	%	%																				
	<<指標2>> 感染予防対策研修会受講者率(※) 基準値：100%(R4年度) ※病休、産休、育休及び学外への派遣職員等を除く	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:40%;"></th> <th style="width:10%;">R6</th> <th style="width:10%;">R7</th> <th style="width:10%;">R8</th> <th style="width:10%;">R9</th> <th style="width:10%;">R10</th> <th style="width:10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;"><b>【感染制御部】</b></p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																				
実績	100%	%	%	%	%	%																				

	<<指標3>> カルバペネム系抗菌薬使用量 (AUD) 基準値: 1.6(R5年度見込み)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>1.6</td> <td>1.6</td> <td>1.6</td> <td>1.6</td> <td>1.6</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0.9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【感染制御部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	実績	0.9								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6																				
実績	0.9																									
イ. 特定機能病院として、十分な医療安全管理体制を確保し、高度かつ先進的な医療を提供するとともに、医療サービスの向上を図る。	ウ 【医療サービス】 患者が快適な環境で安心して医療を受けられるよう、患者相談窓口対応を更に充実させるとともに、患者の意見及び要望を把握し、速やかに病院全体で共有・検討できる院内連携体制を整える。	<p>診療待ち時間満足度の改善策として、画一的な対応ではなく、各診療科の実情に応じた対策を検討するため、各診療科にアンケートを実施した。</p> <p>その結果、予約枠の拡大、かかりつけ医や地域の病院への積極的な逆紹介の推進、採血の混雑解消のための案内及び患者の希望に応じて採血等の検査日と診察日を別日で予約することを推進した。</p> <p>また、患者満足度調査の実施や患者ご意見箱を設置することにより、患者の意見要望を把握し、承った意見要望について医療サービス向上委員会において検討を行った。</p> <p>その結果、3診療科の外来へのテレビ設置、及び2箇所の患者向け飲食スペースを新たに設ける院内改修を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【医事課】</p> <p>相談窓口では、相談者の要件を聞き取り、内容に応じ適切に対応しており、相談窓口での対応総件数は1,576件であった。相談内容としては、医療費や生活費、社会保障制度に関することが多い。患者・家族の要望に対し丁寧に対応し、患者が安心して医療を受けることができる環境を整備していく。</p> <p>相談窓口の相談事項については、週に1回「サポート会議」で検討し、その対応や改善点を病院内で共有し、解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>入院センターでは、PFMとして入院前問診や認知機能評価を実施し、入院前から退院まで継続した支援につなげている。令和6年度はPFMの対象科が2科拡大し、7科となった。また入院センターの対象科の拡大はなく、24科であった。</p> <p style="text-align: right;">【患者支援センター】</p>		III	29																					
	<<指標1>> 患者満足度調査総合満足度PSI<外来部門> 基準値: 65.6%(R4年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>66.0%</td> <td>66.5%</td> <td>67.0%</td> <td>68.0%</td> <td>69.0%</td> <td>70.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>68.3%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	66.0%	66.5%	67.0%	68.0%	69.0%	70.0%	実績	68.3%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	66.0%	66.5%	67.0%	68.0%	69.0%	70.0%																				
実績	68.3%	%	%	%	%	%																				
	<<指標2>> 患者満足度調査総合満足度PSI<入院部門> 基準値: 75.5%(R4年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>76.0%</td> <td>76.5%</td> <td>77.0%</td> <td>78.0%</td> <td>79.0%</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>74.1%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	76.0%	76.5%	77.0%	78.0%	79.0%	80.0%	実績	74.1%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	76.0%	76.5%	77.0%	78.0%	79.0%	80.0%																				
実績	74.1%	%	%	%	%	%																				

	<p>《指標3》 患者相談窓口アンケート回収率(がん患者に限る) 基準値：15.0%(R5年度)</p>	<table border="1" data-bbox="826 225 1695 328"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>20.0%</td> <td>25.0%</td> <td>30.0%</td> <td>35.0%</td> <td>40.0%</td> <td>45.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>33.4%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="826 336 1695 392">がん相談支援センターとして、がん患者を対象にアンケートを実施し、窓口対応の向上に努めている。</p> <p data-bbox="1491 400 1695 424">【患者支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	実績	33.4%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%																				
実績	33.4%	%	%	%	%	%																				
<p>ウ. 救急医療、がん医療、災害医療、小児・周産期医療などの重点分野について、更なる病院機能の充実を図るとともに、高度かつ先進的な医療を提供する。</p>	<p>エ 【がん対策】 県内唯一の都道府県がん診療連携拠点病院として、県のがん対策推進計画等を踏まえ、手術、放射線、薬物療法等を効果的に組み合わせた集学的治療、遺伝子解析に基づくゲノム医療、新たな治療法の開発など、高度かつ専門的な医療を推進し、県内におけるがん診療の中核的な役割を担う。 また、緩和ケア、神経ブロック、放射線治療等に携わる専門人材の育成や、がん患者に対する相談支援の強化を通じて、がん診療の更なる質的向上を図る。</p>	<p>がん対策については、集学的治療を多職種によるチーム医療で提供しており、早期からの緩和ケアの実施、地域の医療機関等との連携等を通じ、総合的な診療に取り組んでいる。</p> <p>がんゲノム医療については、「がんゲノム医療中核拠点病院」である京都大学医学部附属病院と連携して取り組んでおり、引き続きがん遺伝子パネル検査の保険診療を実施した。</p> <p>また、緩和ケアについては、県内における緩和ケアの医療水準の向上を図るため、当院の「緩和ケアセンター」が中心となり、県内の医療従事者に対し各種研修会を実施した。</p> <p>このほか、腫瘍センターの各部門が主体となり、緩和ケア、がんゲノム医療、薬物療法、放射線治療をテーマに勉強会を開催した。</p> <p data-bbox="1599 754 1695 778">【経理課】</p>		III	30																					
	<p>《指標1》 がん遺伝子パネル検査の実施件数 基準値：87件(R4年度)</p>	<table border="1" data-bbox="826 831 1695 935"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>95件</td> <td>100件</td> <td>105件</td> <td>110件</td> <td>115件</td> <td>120件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>93件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1599 935 1695 959">【経理課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	95件	100件	105件	110件	115件	120件	実績	93件	件	件	件	件	件			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	95件	100件	105件	110件	115件	120件																				
実績	93件	件	件	件	件	件																				
	<p>《指標2》 附属病院主催の緩和ケア関連研修の受講者数 基準値：754人(H30-R5年度の6年間の累計)</p>	<table border="1" data-bbox="826 1027 1695 1131"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>130人</td> <td>130人</td> <td>130人</td> <td>130人</td> <td>130人</td> <td>130人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>120人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1599 1131 1695 1155">【経理課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	130人	130人	130人	130人	130人	130人	実績	120人	人	人	人	人	人			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	130人	130人	130人	130人	130人	130人																				
実績	120人	人	人	人	人	人																				
<p>ウ. 救急医療、がん医療、災害医療、小児・周産期医療などの重点分野について、更なる病院機能の充実を図るとともに、高度かつ先進的な医療を提供する。</p>	<p>オ 【各種基幹病院としての役割】 総合周産期母子医療センター、小児医療センター、高度救命救急センター、エイズ診療中核拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、基幹災害拠点病院など、基幹病院としての多くの病院機能の維持強化を図る。また、拠点ごとに以下の取組を進める。 総合周産期母子医療センター：</p>	<p>総合周産期母子医療センターでは、緊急母体搬送の受け入れ及び新生児ドクターカーの運用を24時間体制で行った。</p> <p>小児医療センターについて、総合周産期母子医療センターを含め各診療科の協力のもと、胎児期から小児期まで一貫した診療体制が維持出来ている。</p> <p>高度救命救急センターについて、フライトドクターやフライトナースになるためのOJTを実施し人材を確保し、令和6年度において、フライトドクター1名、フライトナース2名を育成した。また、高度救命救急センターに専従する医師が救急専門医の資格を取れるよう</p>		III	31																					

	<p>新生児搬送用ドクターカーの有効活用及び災害時小児周産期医療支援体制の充実 小児医療センター： 総合周産期母子医療センターとの連携強化による胎児期から小児期までの小児科専門医の一貫した診療体制の維持 高度救命救急センター： フライトドクター、救急専門医の確保・養成及びハイブリッド ER システムの導入による救急初期治療機能の強化 エイズ診療中核拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院： 拠点病院としての診療機能や役割の周知及び行政や他の医療機関との連携強化 基幹災害拠点病院： 研修・訓練を実施するとともに、BCPや災害対策マニュアルの見直しを継続し、災害用備蓄生活用品等についても計画的に備蓄</p>	<p>専門医セミナーへの参加を促す等支援に努め、令和6年度において2名が救急専門医を取得した。 エイズ診療中核拠点病院として医療関係従事者を対象とした研修や看護職員を対象とした実地研修を行った。令和2年度よりエイズ学会認定医が本院に着任し週1回HIV/エイズ診療を実施した。 肝疾患診療連携拠点病院として市民公開講座を開催、また世界肝炎デーには街頭で啓発活動を行った。</p> <p style="text-align: right;">【医事課】</p> <p>○訓練研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報伝達訓練（令和6年7月5日） 災害時の正確な情報伝達を目的に訓練を実施し、併せて本部員の参集率（7割程度）や本部設営にかかる所要時間（約20分）を確認した。 これまで緊急連絡網のみの伝達であったが、最初に館内放送による伝達を試行実施した結果、90%以上の伝達率であり、その有効性を確認した。</li> <li>・災害対策訓練（令和6年12月19日） 時間外の発災を想定し、当直者による初動対応、参集した病院から2km圏内の近隣職員や本部員を含めた3段階方式の実戦的な訓練を実施した。 訓練結果から、簡易マニュアル（ToDoリスト）の策定や、ローカルネットワークの構築、本部レイアウト等の見直しを行った。</li> <li>・机上訓練（令和7年2月17日） 法人採用職員を対象とした、災害時に災害情報や対応などを取りまとめる「クロノロ」の作成要領に関する研修を実施し、クロノロ担当者の裾野の拡大を図った。</li> </ul> <p>○計画に基づく災害用備蓄糧食の調達</p> <p>5か年の調達計画に基づき、賞味期限が到来する糧食を放出するとともに、新規に調達した（放出：令和6年6月13日、令和7年3月27日）。</p> <p style="text-align: right;">【危機対策室】</p>																								
<p>《指標1》 新生児搬送用ドクターカーの応需率 基準値：100%（R4年度）</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																				
実績	100%	%	%	%	%	%																				

	<p>《指標 2》 NICU から直接退院が困難な小児の病棟受入れ率 基準値：100% (R4 年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																				
実績	100%	%	%	%	%	%																				
	<p>《指標 3》 救命救急センター充実段階評価 基準値：S 評価 (R4 年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>S 評価</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	S 評価	S 評価	S 評価	S 評価	S 評価	S 評価	実績	S 評価								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	S 評価	S 評価	S 評価	S 評価	S 評価	S 評価																				
実績	S 評価																									
	<p>《指標 4》 ハイブリッド ER システムの導入及び運用の実施</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="2">ハイブリッド ER システムの導入</td> <td colspan="4">ハイブリッド ER システムの運用</td> </tr> </tbody> </table> <p>導入に向け、整備費 548, 900 千円を予算化するとともに、関係部門間の協議を進めた。</p> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	ハイブリッド ER システムの導入		ハイブリッド ER システムの運用													
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	ハイブリッド ER システムの導入		ハイブリッド ER システムの運用																							
	<p>《指標 5》 拠点病院としての取組の周知・啓発及び医療従事者等への研修</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">エイズ診療中核拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として市民公開講座の開催、医療従事者等向けスキルアップ研修の開催</td> </tr> </tbody> </table> <p>関係機関との連携によるエイズに関する研修会を 2 月 5 日、3 月 5 日の 2 日間の日程で開催した。</p> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	エイズ診療中核拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として市民公開講座の開催、医療従事者等向けスキルアップ研修の開催															
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	エイズ診療中核拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として市民公開講座の開催、医療従事者等向けスキルアップ研修の開催																									
	<p>《指標 6》 災害訓練・研修の実施及び検証 基準値：3 回 (R4 年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>3 回</td> <td>4 回</td> <td>3 回</td> <td>4 回</td> <td>3 回</td> <td>4 回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3 回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※情報伝達訓練 (7 月 5 日)、災害対策訓練 (12 月 19 日)、机上訓練 (2 月 17 日)</p> <p style="text-align: right;">【危機対策室】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	3 回	4 回	3 回	4 回	3 回	4 回	実績	3 回	回	回	回	回	回			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	3 回	4 回	3 回	4 回	3 回	4 回																				
実績	3 回	回	回	回	回	回																				
<p>ウ. 救急医療、がん医療、災害医療、小児・周産期医療などの重点分</p>	<p>カ 【認知症対策】 高齢者の入院時認知症スクリーニング結果をもとに、認知症患者の治療や安全・安心な療養生活の支援を行うとともに、研修</p>	<p>認知症患者医療センターにおける研修について、令和 6 年度は前年度よりも受講率が高く効果的に研修を実施する事が出来ている。鑑別診断については、前年度とほぼ同じ数字で推移しており、認知症患者が速やかに適切な医療を受けられるよう体制を維持できている。基幹型の認知症患者医療センターとして令和 7 年度も県の指定更新を受け、県全域の中</p>		<p>III</p>	<p>32</p>																					

<p>野について、更なる病院機能の充実を図るとともに、高度かつ先進的な医療を提供する。</p>	<p>等を通じて職員の認知症に対する知識を高め、関係部署との連携を強化する。 また、認知症患者が速やかに適切な医療・介護等を受けられるよう、早期段階で鑑別診断を実施する。 あわせて、基幹型の認知症疾患医療センターとして、県全域の中核的な拠点としての役割を果たす。</p> <p>《指標1》 認知症疾患医療センターにおける DST 研修の受講率 基準値：80% (R4 年度)</p> <p>《指標2》 認知症に係る鑑別診断実績 基準値：341 件 (R4 年度)</p>	<p>核的な拠点として役割を果たしている。</p> <p style="text-align: right;">【医事課】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>80%</td> <td>81%</td> <td>82%</td> <td>83%</td> <td>84%</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>96%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>350 件</td> <td>350 件</td> <td>350 件</td> <td>350 件</td> <td>350 件</td> <td>350 件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>343 件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	80%	81%	82%	83%	84%	85%	実績	96%	%	%	%	%	%		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	350 件	実績	343 件	件	件	件	件	件								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																									
目標値	80%	81%	82%	83%	84%	85%																																									
実績	96%	%	%	%	%	%																																									
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																									
目標値	350 件	350 件	350 件	350 件	350 件	350 件																																									
実績	343 件	件	件	件	件	件																																									
<p>ウ. 救急医療、がん医療、災害医療、小児・周産期医療などの重点分野について、更なる病院機能の充実を図るとともに、高度かつ先進的な医療を提供する。</p>	<p>キ <b>【精神科を有する総合病院としての役割】</b> 難治性精神疾患を有する患者や法律に触れる行為を行った精神に障害のある患者に対する社会復帰及び地域移行促進のため、地域精神科医療機関や精神保健サービスとの連携に向けた体制づくりを行う。</p> <p>《指標1》 精神科病床の平均入院在院日数 基準値：74.5 日 (R4 年度)</p>	<p>地域精神科病院への啓発活動を通じてクロザピン治療や電気けいれん療法 (ECT) を必要とする難治性精神疾患患者の積極的な受け入れを実施した。またこれら含め高度精神医療を実践し、平均在院日数の短縮の目標も達成した。さらに医療観察法に基づく指定通院医療機関として申請・認可され、行政機関と連携のもと触法精神障がい者の通院治療の受け入れを開始した。</p> <p style="text-align: right;">【医事課】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>70 日</td> <td>67 日</td> <td>65 日</td> <td>62 日</td> <td>58 日</td> <td>55 日</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>68.9 日</td> <td>日</td> <td>日</td> <td>日</td> <td>日</td> <td>日</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	70 日	67 日	65 日	62 日	58 日	55 日	実績	68.9 日	日	日	日	日	日		III	33																					
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																									
目標値	70 日	67 日	65 日	62 日	58 日	55 日																																									
実績	68.9 日	日	日	日	日	日																																									
<p>附属病院紀北分院</p>																																															
<p>エ. 診療体制の充実と医療サービスの向上を図り、地域に密着した質の高い医療を提供する。</p>	<p>ア <b>【紀北分院が提供する医療】</b> 超高齢社会に対応するため地域に包括的な医療を提供する体制を充実し、周辺の医療機関、地域包括支援センター等と連携協議会を行うほか、訪問看護ステーションなどの医療介護従事者を対象とした研修会を開催して連携の強化を図るとともに、紀北</p>	<p>医療と介護の連携協議会に参加 (年 4 回) し、医療圏内 4 病院の地域医療連携室で協働し、訪問看護ステーションなどの医療介護従事者を対象とした研修会を企画した。令和 7 年度に開催予定である。総合診療医師による在宅医療に関する研修会も企画し令和 7 年度に実施予定である。総合診療医師による在宅医療の提供を実施した。令和 6 年度は延べ 202 日の診療日数であった (令和 5 年度比較+54 日)。患者サービスの向上のため、患者支援に係るカンファレンスを毎週実施し、患者からの意見への対応を検討し改善活動を行った。</p>		III	34																																										

<p>分院として質の高いプライマリ・ケアや在宅医療を実施する。</p> <p>また、安全な医療を実践するため院内で啓発・研修等を行い、医療安全対策等に取組むとともに、患者の意見を収集し対策を実施することにより、医療サービスの向上を図る。更に、必要とする診療機器を計画的かつ効果的に整備する。</p>	<p>改善の結果については、院内に掲示し、周知した。</p> <p>患者の医療安全対策を推進するため、医療安全推進委員会及びリスクマネージャー会議を月1回開催している。また、橋本市民病院・紀和病院と連携した病院相互ラウンドを年1回実施することによって、医療従事者の医療安全意識の向上を図った。医療安全研修は、一次救命や医療事故発生時の対応、医療機器・医薬品・放射線などに関する内容について、対面およびeラーニングにて7回開催し、参加者は延べ795名であった。</p> <p>院内の感染予防を推進するため、感染防止対策委員会、感染対策チーム会議を月1回開催した。また、感染制御室では、週1回ミーティングを行い、耐性菌等の検出状況等について協議をおこなった。加算連携として、本院および橋本市民病院と連携してカンファレンスを行っており、感染対策の向上に努めた。研修会は、対面及びeラーニングで3内容を実施した。</p> <p>診療機器については、備品整備委員会の整備方針に基づき、診療機器の整備を図った。令和6年度には電動ハイスピードドリルシステム(2種・各1式)、眼科手術用アクセサリキット(3式)、自動採血管準備装置(1台)、過酸化水素低温プラズマ滅菌装置(1台)、電動ギブスカッター(1台)、チューブシーラー(1台)を導入済。</p> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>																							
<p>《指標1》 医療安全研修会受講者率(※) 基準値：100%(R5年度) ※病休、産休、育休、非常勤医師及び学外への派遣職員等を除く</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																		
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																		
実績	100%	%	%	%	%	%																		
<p>《指標2》 院内感染予防対策研修会受講者率(※) 基準値：100%(R5年度) ※病休、産休、育休、非常勤医師及び学外への派遣職員等を除く</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																		
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																		
実績	100%	%	%	%	%	%																		
<p>《指標3》 患者満足度調査総合満足度(PSI)＜外来部門＞ 基準値：74.9%(R5年度)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>75.0%</td> <td>76.0%</td> <td>77.0%</td> <td>78.0%</td> <td>79.0%</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>78.2%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	75.0%	76.0%	77.0%	78.0%	79.0%	80.0%	実績	78.2%	%	%	%	%	%		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																		
目標値	75.0%	76.0%	77.0%	78.0%	79.0%	80.0%																		
実績	78.2%	%	%	%	%	%																		
<p>《指標4》 患者満足度調査総合満足度(PSI)＜入院部門＞ 基準値：93.4%(R5年度)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>93.5%</td> <td>93.5%</td> <td>93.5%</td> <td>93.5%</td> <td>93.5%</td> <td>93.5%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>92.3%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	93.5%	93.5%	93.5%	93.5%	93.5%	93.5%	実績	92.3%	%	%	%	%	%		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																		
目標値	93.5%	93.5%	93.5%	93.5%	93.5%	93.5%																		
実績	92.3%	%	%	%	%	%																		

エ. 診療体制の充実と医療サービスの向上を図り、地域に密着した質の高い医療を提供する。	<p>イ 【活性化整備事業を通じた地域に密着した医療の提供】</p> <p>新館の建設、本館の改修、総合診療・整形外科・眼科における診療体制及び診療機器の整備を行うことで、紀北分院の特色をいかし、地域に密着した質の高い医療を提供し、健康長寿社会を実現する。</p> <p>《指標1》 紀北分院活性化整備事業に係る施設整備等</p>	<p>新館建設工事を実施し、リハビリテーション科の訓練スペースを218m<sup>2</sup>から371m<sup>2</sup>に拡大し、ニーズに対応できるリハビリテーション環境・機能を整備した。</p> <p>また、本館改修により、アイセンター整備、整形外科の診療スペース、待合室の拡充等を図るため、工事に係る基本実施設計、契約締結を完了した。</p> <p>【紀北分院】</p>	III	35																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>新館整備</td> <td>本館改修</td> <td>新診療科の設置</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>新館の建設は、令和7年3月31日に完成し、本学に引渡しを受けた。</p> <p>本館の改修は、令和6年9月27日基本実施設計を完了した。その後、令和7年3月12日に改修工事の契約締結を完了した。</p> <p>【紀北分院】</p>				R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	新館整備	本館改修	新診療科の設置	—								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	新館整備	本館改修	新診療科の設置	—																			
オ. 圏域内の医療機関と共に病床機能の分化・連携に取り組み、圏域における医療提供体制の充実に寄与する。	<p>ウ 【紀北分院の地域における役割】</p> <p>地域に密着した病院として、診療ではかかりつけ医、在宅医療の後方支援を行うとともに、紀北分院としても在宅医療を実施する。また、救急では地域における一次救急及び二次救急の受入並びに病院群輪番制への参画を積極的に行う。</p> <p>《指標1》 病院群輪番制当直に係る患者受入割合 基準値：90.4% (H30年度)</p>	<p>在宅医療の後方支援として、地域の医療介護施設からの紹介を積極的に受けた。紹介患者1,877人のうち32%の患者を入院で診療した。当日の救急紹介も依頼されたうちの83%である94人を診療し、うち50%を入院で診療した。また、一次救急・二次救急の受け入れや病院輪番制への参画を積極的に行い、令和6年度については救急を1,601件受け入れており、コロナ禍以前の平成30年度1,559件、令和元年1,661件と同水準となっている。</p> <p>【紀北分院】</p>	III	36																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>90.6%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【紀北分院】</p>				R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	実績	90.6%	%	%	%	%
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%																	
実績	90.6%	%	%	%	%	%																	

(2) 教育機能等の充実に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
<p>学生への臨床教育、卒後臨床研修及び看護師・薬剤師の卒後教育等、医療従事者に対する研修・実習の充実に努めるとともに、総合診療医を始め専門医の育成を図る。</p>	<p>ア 【卒後の教育・研修】            専門診療能力及び総合診療能力を有する医師を育成するため、専門医制度も踏まえ、臨床研修協力病院や臨床研修協力施設と連携し、卒後臨床研修プログラムの充実に努め、臨床研修医の受入に取り組むとともに、専攻医の専門教育の充実を図る。            また、時代のニーズに応じた知識や実践力をもつ看護師を育成するため、看護の質の向上や学生の学修環境の整備、指導者と保健看護学部教員との合同学習会を通じた臨床教育の指導力の向上等に努めるとともに、キャリアや習熟度に応じた研修を実施するなど、より効果的な研修体制を構築する。            更に、地域医療に貢献する薬剤師の育成を図るため、薬学部県内枠を卒業した学生に対する、薬剤師業務の習得と薬剤師が不足している地域での研修を内容とする卒後研修プログラムを充実させる。</p>	<p>県内9つの基幹型臨床研修病院全てが相互に協力型病院となる臨床研修プログラムシステム（和歌山研修ネットワーク）を平成25年度から運用しており、本院がその中心的役割を果たしている。            本院で提供している、自由度が高く病院や診療科の選択肢が広く柔軟に対応できる臨床研修プログラムを、医学部の学生を対象とした合同説明会などで積極的にアピールした。また、臨床研修期間中に基礎研究に従事し、基礎研究医として必要な基礎知識・手技・考え方を習得できる基礎研究医プログラムを令和3年度に新設し、プログラムを充実させることで選択肢を広げ、多くの研修医の受入れに取り組んだ。            県内の新規採用研修医全員を対象にBLS講習会を毎年開催している。令和6年4月5日に実施し、109名が受講した。            研修医を対象にJMECC講習会を3回開催した。また、ACLS講習会の参加補助も行っている。            献体による外科解剖・手術手技研修について、日本外科学会の定めるガイドラインに基づき、令和3年6月に本学における実施方針を策定のうえ、各講座からの申請に基づき、令和7年1月から3月に11件の研修を実施した。</p> <p style="text-align: center;">【地域医療支援センター】</p> <p>新人看護職員に対しては、新人看護職員研修ガイドライン（厚労省制定）を基本として計画し実施した。また、看護職の生涯学習ガイドライン・看護師のまなびサポートブック（日本看護協会制定）を参考に計画した。新人看護職員対象13研修と2年目以上の看護職員対象14研修、病棟内看護職員の役割に応じた3研修、看護補助員対象研修2研修を看護部で実施し、のべ2,761名が受講した。研修後のOJT支援計画、SBO評価等をおこなった。            年間を通して、4看護大学、2専門学校の臨地実習を予定通り受け入れた。それぞれの大学、専門学校のカリキュラム、実習要綱に沿って支援体制を整え、教員と臨床指導者が情報共有を行った。実習目標を達成できるよう実習前に説明会、実習後には振り返りをおこない評価した。その結果、教員と指導者の連携を強化し学生を支援することが出来た。教員や学生から実習での学びやすさや実習環境が整ってきたとの意見も多く聞かれるようになった。また、保健看護学部との合同学習会（8/5開催）には、保健看護部教員28名、附属病院の副看護師長27名が参加し、「病院の魅力が伝わる実習について」ディスカッションし、情報共有する機会となった。</p> <p style="text-align: center;">【看護部管理室】</p> <p>卒後研修においては、厚生労働省の「薬剤師臨床ガイドライン」に準拠する内容の研修</p>		III	37

	<p>プログラムを立案。『在宅訪問（自宅や施設で生活する患者を訪問して服薬指導や薬剤管理を行い、在宅医療や介護に関する各種支援制度や地域包括システムにおける多職種の役割を学ぶ）』や『地域連携（病院と薬局の連携や地域の医師、看護師等との多職種連携等、地域連携の必要性を理解し、地域における患者中心の医療の充実に努める）』などの実習項目を組み入れ、地域医療に貢献する薬剤師の育成を図っていく。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 10%;">R6</th> <th style="width: 10%;">R7</th> <th style="width: 10%;">R8</th> <th style="width: 10%;">R9</th> <th style="width: 10%;">R10</th> <th style="width: 10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>64人</td> <td>64人</td> <td>64人</td> <td>64人</td> <td>64人</td> <td>64人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>67人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記令和6年度実績は令和7年4月採用者数。</p> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	64人	64人	64人	64人	64人	64人	実績	67人	人	人	人	人	人			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	64人	64人	64人	64人	64人	64人																				
実績	67人	人	人	人	人	人																				
<p>学生への臨床教育、卒後臨床研修及び看護師・薬剤師の卒後教育等、医療従事者に対する研修・実習の充実に努めるとともに、総合診療医を始め専門医の育成を図る。</p>	<p><b>イ 【総合診療医育成】</b></p> <p>医学部入学時から継続的な地域医療教育を実施するとともに、紀北分院を総合診療専門研修プログラムの基幹病院として、附属病院と連携して総合診療専門医の育成を図る。</p> <p>＜指標1＞ 総合診療専門研修プログラム受入者数 基準値：5名（H30-R5年度の6年間の累計）</p>	<p>医学部2年次、4年次の地域医療の講義、4年次の総合診療の講義を通して総合診療の概念や意義、役割等を多角的な観点から指導を継続した。</p> <p>新たに2名の総合診療専攻医を受け入れ、1名の総合診療専門医を輩出した。</p> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 10%;">R6</th> <th style="width: 10%;">R7</th> <th style="width: 10%;">R8</th> <th style="width: 10%;">R9</th> <th style="width: 10%;">R10</th> <th style="width: 10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中において、5名の総合診療専門研修医希望者を受け入れる</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	第4期中期計画期間中において、5名の総合診療専門研修医希望者を受け入れる						実績	2名	名	名	名	名	名		III	38
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	第4期中期計画期間中において、5名の総合診療専門研修医希望者を受け入れる																									
実績	2名	名	名	名	名	名																				

(3) 病院運営に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																	
ア. 病院長のリーダーシップのもと、経営目標を明確にし、迅速な意思決定ができる運営体制を構築する。	<p>ア 【病院長のリーダーシップ】 病院の経営戦略に関する会議を病院長が主宰し、直面する経営課題について速やかに解決策を検討し実行する。</p>	<p>週1回病院運営戦略会議を開催するとともに、病院の経営課題を個別に審議するため、医療材料費削減部会、薬剤費適正部会及び手術室利用促進部会の3部会を設置し、現状分析と改善に向けた検討を重ね、経費削減や運営の効率化等、一定の成果を収めた。</p> <p>また、医療の質向上対策委員会を統合し、臨床指標の追加や継続的に評価活動を行うことを決定した。</p> <p style="text-align: right;">【経理課】</p>		III	39																	
	<p>≪指標1≫ 病院運営戦略会議の定期的開催</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">原則週1回、病院運営戦略会議を開催</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="6">週1回、病院運営戦略会議を開催し、病院の運営、診療、医療の質の向上について審議した。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経理課】</p>					R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	原則週1回、病院運営戦略会議を開催						実績	週1回、病院運営戦略会議を開催し、病院の運営、診療、医療の質の向上について審議した。	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																
目標値	原則週1回、病院運営戦略会議を開催																					
実績	週1回、病院運営戦略会議を開催し、病院の運営、診療、医療の質の向上について審議した。																					
イ. 紀北分院においては、地域の医療機関等と連携し、地域に密着した医療を提供することにより、経営の安定化を図る。	<p>イ 【紀北分院の経営】 在宅医療や地域ニーズに対応した医療を提供する体制を充実し、地域の医療機関等との連携を推進することにより、患者数の増加を図る。</p>	<p>伊都医師会主催の病診連携会議に毎月参加（計12回）し、医師会と医療圏内の病院間での地域医療ニーズに関する情報共有と問題点の把握を実施した。医療圏内における在宅医療の提供体制を構築することに参画している。地域医療連携室において、入退院支援を実施し、地域の医療介護事業所74施設と連携した。うち27施設と年間3回以上の対面での情報共有を実施し（のべ231回面会）、連携の強化に努めている。介護福祉施設1件と連携医療機関の契約を提携し、毎月対面での情報共有を実施した（計8回）。連携介護施設の嘱託診療所からの紹介件数が増加している。伊都那賀圏域の医療機関12施設、介護施設6施設を訪問し情報共有を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		III	40																	
	<p>≪指標1≫ 延べ患者数 基準値：71,186人(R4年度)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">令和11年度までに令和4年度患者数の約32%増 (患者数：94,310人)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>73,939人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>					R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	令和11年度までに令和4年度患者数の約32%増 (患者数：94,310人)						実績	73,939人	人
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																
目標値	令和11年度までに令和4年度患者数の約32%増 (患者数：94,310人)																					
実績	73,939人	人	人	人	人	人																

	<p>《指標 2》 紹介率&lt;紀北分院&gt; 基準値：42.5%(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>50.0%</td> <td>52.0%</td> <td>54.0%</td> <td>56.0%</td> <td>58.0%</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>63.7%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	50.0%	52.0%	54.0%	56.0%	58.0%	60.0%	実績	63.7%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	50.0%	52.0%	54.0%	56.0%	58.0%	60.0%																				
実績	63.7%	%	%	%	%	%																				
	<p>《指標 3》 逆紹介率&lt;紀北分院&gt; 基準値：34.8%(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>40.0%</td> <td>41.0%</td> <td>41.5%</td> <td>42.0%</td> <td>42.5%</td> <td>43.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>56.8%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	40.0%	41.0%	41.5%	42.0%	42.5%	43.0%	実績	56.8%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	40.0%	41.0%	41.5%	42.0%	42.5%	43.0%																				
実績	56.8%	%	%	%	%	%																				
<p>ウ. 医療の質に関する指標を設定し、自己評価及び改善を行うとともに、これを公表し、更に本指標について再評価していくことで、質の高い医療を提供する体制を構築する。</p>	<p>ウ 【評価活動を通じての医療の質の向上】 病院の機能を評価するため、クリニカルインディケーター等の指標を設定し、当該指標に基づく自己評価及び改善を行うとともに、これを公表し、更に当該指標について継続的に再評価していくことにより、医療の質の向上を図る。 また、各種疾病に対する診療の成果について、診療実績に係るデータ等を活用し、適切な評価方法を検討していく。</p>	<p>病院の機能や診療の状況などについて、様々な指標を用いて具体的な数値として示し、基準値として国立大学附属病院平均値などを用いて自己評価を行った。これにより医療の質の確保及び向上ができてきているかを確認している。また、病院全体としても評価を行い、特に対策が必要となる事項について、病院長が主体となって改善に取り組む体制を構築した。 また、確認項目について国立大学附属病院の定めがない項目についても、当院に必要な項目を随時追加、変更する体制に改めた。</p> <p style="text-align: right;">【経理課】</p>		III	41																					
	<p>《指標 1》 クリニカルインディケーターの評価値 (A又はB評価の項目数) 基準値：67/83項目(R2年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">クリニカルインディケーターの全項目について、国公立大学附属病院44施設における平均値、最小値、中央値、最大値に照らして毎年度評価を実施し(A・B・Cの三段階)、全項目においてB評価以上をめざす</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>68/94項目</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年度集計結果(令和5年度分)</p> <p style="text-align: right;">【経理課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	クリニカルインディケーターの全項目について、国公立大学附属病院44施設における平均値、最小値、中央値、最大値に照らして毎年度評価を実施し(A・B・Cの三段階)、全項目においてB評価以上をめざす						実績	68/94項目								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	クリニカルインディケーターの全項目について、国公立大学附属病院44施設における平均値、最小値、中央値、最大値に照らして毎年度評価を実施し(A・B・Cの三段階)、全項目においてB評価以上をめざす																									
実績	68/94項目																									
<p>エ. 常に経営状況を的確に分析、把握するとともに、人的及び物的資源を適切に管理し、効率的かつ健全な病院運営を行う。</p>	<p>エ 【病院運営】 病院経営状況に関する分析データを院内に周知し、運営上の課題を共有するとともに、経営改善に向けた具体的な対策に係る実行計画を定め取組を推進することにより、収支バランスの取れた健全な病院運営を行う。</p>	<p>関係所属から提案のあった経営に関する課題や改善策を元に、経営改善に向けた具体的な対策に係る実行計画(アクションプラン)を作成し、科長会にて周知した。 病院や各診療科の目標値(延患者数、粗利)を定め、毎月の病院運営戦略会議や科長会等において病院の経営状況を報告する際に目標値の達成状況も共有した。</p> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>		III	42																					

	<<指標1>> 附属病院経常利益率 基準値：1.3%(R4年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画値(※)</td> <td>▲2.6%</td> <td>▲3.1%</td> <td>▲4.2%</td> <td>▲5.0%</td> <td>▲4.8%</td> <td>▲7.3%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>▲1.9%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※経営計画に基づいて積算した値を設定</p> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	計画値(※)	▲2.6%	▲3.1%	▲4.2%	▲5.0%	▲4.8%	▲7.3%	実績	▲1.9%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
計画値(※)	▲2.6%	▲3.1%	▲4.2%	▲5.0%	▲4.8%	▲7.3%																				
実績	▲1.9%	%	%	%	%	%																				
才. 医業収入を適切に確保することにより、健全な病院運営を推進する。	才 【病院収入の確保】 地域の医療機関との連携を強化し、新規患者の獲得を進めるとともに、地域医療構想と時勢から求められる医療提供体制を予測し、医療の質の向上と効率化を推進することにより、病院収入の確保に努める。	<p>各診療科の病床利用率及び平均在院日数等を週単位で把握・共有し、病床利用率の低い診療科の病床を共通床へ移行し、病床利用率の高い診療科に病床を増床するなど、柔軟な病床管理を実施することで入院患者の増加に努めた。</p> <p>連携登録医は842名で、閉院等による辞退もあるが、新規登録者もあり、定着している。医療連携交流会を年1回開催し、地域の医療機関との連携、医療連携登録医の新規登録等に努めた。</p> <p>初診予約の方法を医療機関からの電話予約からFAX予約に変更し、事前に診療情報提供書を受け取ることで、スムーズな診療と患者の待ち時間短縮につなげるよう取り組むとともに、医療機能の分化として、紹介・逆紹介の促進、地域の医療機関との連携強化に努めた。</p> <p>夜間に看護補助員を配置し、患者サービスの向上と業務の効率化を図るとともに、上位施設基準を取得による病院収入の確保に努めた。</p> <p style="text-align: right;">【経理課・医事課・患者支援センター・経営企画課】</p>		III	43																					
	<<指標1>> 新規外来患者数 基準値：22,554人(R4年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>23,500人</td> <td>23,500人</td> <td>23,500人</td> <td>23,500人</td> <td>23,500人</td> <td>23,500人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>22,232人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【患者支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	23,500人	23,500人	23,500人	23,500人	23,500人	23,500人	実績	22,232人	人	人	人	人	人			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	23,500人	23,500人	23,500人	23,500人	23,500人	23,500人																				
実績	22,232人	人	人	人	人	人																				
	<<指標2>> 病床稼働率(病床利用率) 基準値：84.2%(78.2%)(R4年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>86% (80%)</td> <td>86% (80%)</td> <td>86% (80%)</td> <td>86% (80%)</td> <td>86% (80%)</td> <td>86% (80%)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>82.3% (75.8%)</td> <td>% (%)</td> <td>% (%)</td> <td>% (%)</td> <td>% (%)</td> <td>% (%)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【患者支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	86% (80%)	86% (80%)	86% (80%)	86% (80%)	86% (80%)	86% (80%)	実績	82.3% (75.8%)	% (%)	% (%)	% (%)	% (%)	% (%)			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	86% (80%)	86% (80%)	86% (80%)	86% (80%)	86% (80%)	86% (80%)																				
実績	82.3% (75.8%)	% (%)	% (%)	% (%)	% (%)	% (%)																				

	<p>《指標3》 患者1人1日当たりの単価(※) 基準値：外来25,637円 入院92,633円 (R4年度) ※経営計画に基づいて積算した値を設定</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>外来 28,844円</td> <td>外来 29,098円</td> <td>外来 29,329円</td> <td>外来 29,610円</td> <td>外来 29,895円</td> <td>外来 30,184円</td> </tr> <tr> <td>入院 100,098円</td> <td>入院 99,755円</td> <td>入院 100,310円</td> <td>入院 101,630円</td> <td>入院 102,309円</td> <td>入院 102,995円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">実績</td> <td>外来 28,658円</td> <td>外来 円</td> <td>外来 円</td> <td>外来 円</td> <td>外来 円</td> <td>外来 円</td> </tr> <tr> <td>入院 103,470円</td> <td>入院 円</td> <td>入院 円</td> <td>入院 円</td> <td>入院 円</td> <td>入院 円</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	計画値	外来 28,844円	外来 29,098円	外来 29,329円	外来 29,610円	外来 29,895円	外来 30,184円	入院 100,098円	入院 99,755円	入院 100,310円	入院 101,630円	入院 102,309円	入院 102,995円	実績	外来 28,658円	外来 円	外来 円	外来 円	外来 円	外来 円	入院 103,470円	入院 円	入院 円	入院 円	入院 円	入院 円			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																
計画値	外来 28,844円	外来 29,098円	外来 29,329円	外来 29,610円	外来 29,895円	外来 30,184円																																
	入院 100,098円	入院 99,755円	入院 100,310円	入院 101,630円	入院 102,309円	入院 102,995円																																
実績	外来 28,658円	外来 円	外来 円	外来 円	外来 円	外来 円																																
	入院 103,470円	入院 円	入院 円	入院 円	入院 円	入院 円																																
<p>オ. 医療収入を適切に確保することにより、健全な病院運営を推進する。</p>	<p>カ 【診療報酬制度】 医師等と情報を共有することにより、診療報酬請求内容の精度を高めるとともに、未収金の早期回収に取り組む。</p>	<p>院内検討部会で提言のあった査定率の縮減策（①病名漏れやケアレスミスの防止、②セットでのオーダー項目の見直し、③症状詳記の添付、④再審査請求の手続き、⑤疑義に対する審査機関との面談）について、継続して実行した。</p> <p>事務局において診療報酬の査定内容を診療科毎に分析し、査定が多い検査項目などを医師に対してフィードバックするとともに、点数の高い特定入院料、手術、医療材料等の算定については、請求当初から症状詳記を作成し、審査機関に必要性の理解が得られるよう努めている。また、入院会計担当者に対して、査定内容をもとに研修を行い、事務点検を適正に実施し、病名漏れやケアレスミスの防止を図り、レセプト点検の強化を行った。</p> <p>症状詳記や再審査請求理由書の作成にあたっては、患者の状態や検査数値など具体的な治療内容を記載し、検査等の必要性について詳述するよう事務局から主治医に依頼した。</p> <p>未収金においては、職員により電話督促、訪問督促、督促状の発送、窓口・病棟での面談など実施し、回収に取り組んだ。</p> <p>また、患者支援センターなどの院内各部署と連携を図り、未収金の発生防止、早期回収に努めた。</p> <p>回収困難な未収金については弁護士法人に委託するとともに回収不能案件については内容を精査したうえで貸倒など適切な処理を行い、未収金残高の縮減に努めた。</p> <p>未収金のうち17,339千円を弁護士法人へ委託し、令和6年度中に1,845千円を回収、358千円を貸倒損失処理した。</p> <p>●未収金の推移（年度末の累計残高）（単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未収金</td> <td>80,179</td> <td>81,475</td> </tr> <tr> <td>過年度回収金額</td> <td>46,121</td> <td>48,715</td> </tr> </tbody> </table> <p>（クレジットカード支払、自賠責保険請求、定時請求を除く）</p> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>	年度	R5	R6	未収金	80,179	81,475	過年度回収金額	46,121	48,715	<p>査定率の縮減策を実行した結果、実績が目標値を十分に上回った。</p>	<p>IV</p>	<p>44</p>																								
年度	R5	R6																																				
未収金	80,179	81,475																																				
過年度回収金額	46,121	48,715																																				

	<p>《指標1》 診療報酬査定率 基準値：外来0.52% 入院0.49% 全体0.50% (R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">目標値</td> <td>外来 0.48%</td> <td>外来 0.47%</td> <td>外来 0.46%</td> <td>外来 0.45%</td> <td>外来 0.44%</td> <td>外来 0.43%</td> </tr> <tr> <td>入院 0.48%</td> <td>入院 0.47%</td> <td>入院 0.46%</td> <td>入院 0.45%</td> <td>入院 0.44%</td> <td>入院 0.43%</td> </tr> <tr> <td>全体 0.48%</td> <td>全体 0.47%</td> <td>全体 0.46%</td> <td>全体 0.45%</td> <td>全体 0.44%</td> <td>全体 0.43%</td> </tr> <tr> <td>0.48%</td> <td>0.47%</td> <td>0.46%</td> <td>0.45%</td> <td>0.44%</td> <td>0.43%</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">実績</td> <td>外来 0.44%</td> <td>外来 %</td> <td>外来 %</td> <td>外来 %</td> <td>外来 %</td> <td>外来 %</td> </tr> <tr> <td>入院 0.36%</td> <td>入院 %</td> <td>入院 %</td> <td>入院 %</td> <td>入院 %</td> <td>入院 %</td> </tr> <tr> <td>全体 0.39%</td> <td>全体 %</td> <td>全体 %</td> <td>全体 %</td> <td>全体 %</td> <td>全体 %</td> </tr> <tr> <td>0.39%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	外来 0.48%	外来 0.47%	外来 0.46%	外来 0.45%	外来 0.44%	外来 0.43%	入院 0.48%	入院 0.47%	入院 0.46%	入院 0.45%	入院 0.44%	入院 0.43%	全体 0.48%	全体 0.47%	全体 0.46%	全体 0.45%	全体 0.44%	全体 0.43%	0.48%	0.47%	0.46%	0.45%	0.44%	0.43%	実績	外来 0.44%	外来 %	外来 %	外来 %	外来 %	外来 %	入院 0.36%	入院 %	入院 %	入院 %	入院 %	入院 %	全体 0.39%	全体 %	全体 %	全体 %	全体 %	全体 %	0.39%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																																								
目標値	外来 0.48%	外来 0.47%	外来 0.46%	外来 0.45%	外来 0.44%	外来 0.43%																																																								
	入院 0.48%	入院 0.47%	入院 0.46%	入院 0.45%	入院 0.44%	入院 0.43%																																																								
	全体 0.48%	全体 0.47%	全体 0.46%	全体 0.45%	全体 0.44%	全体 0.43%																																																								
	0.48%	0.47%	0.46%	0.45%	0.44%	0.43%																																																								
実績	外来 0.44%	外来 %	外来 %	外来 %	外来 %	外来 %																																																								
	入院 0.36%	入院 %	入院 %	入院 %	入院 %	入院 %																																																								
	全体 0.39%	全体 %	全体 %	全体 %	全体 %	全体 %																																																								
	0.39%	%	%	%	%	%																																																								
<p>カ. 医療収入に占める医薬品費及び医療材料費の比率の低減を図ることにより、健全な病院運営を推進する。</p>	<p>キ 【医薬材料費】 医療材料、医薬品等の購入状況や使用状況を分析し、経費の抑制を図る。</p> <p>《指標1》 稼働額に占める医薬材料比率(※1) 基準値：44.9%(R4年度)(※2) ※1「稼働額」は、附属病院で医師等が行った診療行為の対価を示す ※2他の公立大学病院(7大学)の平均値</p>	<p>医療材料、医薬品の価格交渉では、病院長、副院長が同席し病院全体で取り組んだ結果、昨年度を大きく上回る成果となった。</p> <p>また、病院運営戦略会議において、使用期限切迫医薬品の周知や同種複数品目の医療材料の統合等に取り組み、経費の削減を行った。</p> <p style="text-align: right;">【経理課】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">円安などの影響により医薬材料費の価格は高騰する傾向にあるため、現在の取組を継続し、他の公立大学病院(7大学)の各年度における平均値の水準を維持する。 (参考)令和4年度 当院42.4%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>45.2%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和6年度集計結果(令和5年度分)。他大学平均：46.5%</p> <p style="text-align: right;">【経理課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	円安などの影響により医薬材料費の価格は高騰する傾向にあるため、現在の取組を継続し、他の公立大学病院(7大学)の各年度における平均値の水準を維持する。 (参考)令和4年度 当院42.4%						実績	45.2%	%	%	%	%	%		III	45																																				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																																								
目標値	円安などの影響により医薬材料費の価格は高騰する傾向にあるため、現在の取組を継続し、他の公立大学病院(7大学)の各年度における平均値の水準を維持する。 (参考)令和4年度 当院42.4%																																																													
実績	45.2%	%	%	%	%	%																																																								

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

4 国際化に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-2)(IV-1)】
-----------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																				
<p>(1) 国際的な視点を持って活躍できる人材を育成するとともに、国際化につながる取組を推進し支援する。</p>	<p>ア 【海外研修・海外留学】</p> <p>学生の国際コンペへの参加など研修形態の多様化の取組やアジア等への教職員の派遣を行い、教育、研究、診療の各分野における学生、教職員の資質の向上を図るとともに、助成金の支給や留学報告会の開催等により、海外研修、海外留学を支援する。</p>	<p>医学部は、海外臨床実習短期留学に10名、海外基礎配属短期留学に14名、山東大学サマースクールに2名の学生を派遣した。また、臨床留学報告会を5月29日に、基礎配属報告会を2月26日に開催し、海外留学に対する意識を高めることができた。</p> <p>薬学部は、香港中文大学交流に3名の学生を派遣した。保健看護学部は、バートン小児糖尿病キャンプに2名、ビクトリア大学に7名、マヒドン大学に3名、インドネシア大学に2名の学生を派遣した。</p> <p>なお、報告会は、医学部が臨床留学報告会を5月29日に、基礎配属報告会を2月26日に開催し、海外留学に対する意識を高めることができた。薬学部と保健看護学部の留学報告会は、令和7年4月に開催を予定している。</p> <p>助成金については、3学部合計で31名に支給した。</p> <p style="text-align: right;">【総務課】</p> <p>海外経験の浅い若手研究者に対し、海外の大学等における先進医療技術の見学や先進的研究活動への参加等の機会を提供するため、学内公募を行い研究活動活性化委員会の審議を経て2名の研究者の海外派遣支援を行った。</p> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p>		III	46																				
	<p>＜指標1＞</p> <p>学生の海外短期留学、教職員の派遣人数 基準値：33人(H27-H30年度の単年度平均及び薬学部のR5年度の実績見込みの合計)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td style="text-align: center;">33人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">45人</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> </tbody> </table> <p>派遣学生数：20施設 学生44名+教員1名</p> <p>医学部：チェコ・チャールズ大学 4名(令和6年4月～5月)</p> <p style="padding-left: 20px;">タイ・コンケン大学 4名(令和6年3月～4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">米・ハワイ大学 1名(令和6年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">中国・山東大学 3名(令和6年4月、7月)</p> <p style="padding-left: 20px;">米・ペンシルバニア大学 2名(令和6年7月～11月)</p> <p style="padding-left: 20px;">米・ニューヨーク大学 1名(令和6年7月～10月)</p> <p style="padding-left: 20px;">米・マサチューセッツ大学 1名(令和6年8月～11月)</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	33人	33人	33人	33人	33人	33人	実績	45人	人	人	人	人	人		
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	33人	33人	33人	33人	33人	33人																			
実績	45人	人	人	人	人	人																			

		<p>米・シンシナティ大学 1名（令和6年7月～11月）          仏・リール大学 3名（令和6年8月～10月）          仏・ストラスブール大学 1名（令和6年8月～11月）          ベルギー・ルーヴェン大学 1名（令和6年8月～11月）          独・ミュンヘン大学／伊・モデルナ大学 1名（令和6年7月～9月）          台湾・チャンゲン大学 1名（令和6年9月～10月）          シンガポール・南洋理工大学 1名（令和6年8～11月）          韓国・亜洲大学 1名（令和6年9月～11月）          保健看護学部：米・バートン小児糖尿病キャンプ 2名（令和6年7月）                            インドネシア・インドネシア大学 2名（令和6年8月）                            加・ビクトリア大学 7名（令和7年2月～3月）                            タイ・マヒドン大学 3名（令和7年3月）          薬学部：香港中文大学 4名+教員1名（令和7年3月）</p> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>																								
<p>（2）オンライン等の多様な手段を活用することにより、国外の大学や研究機関等との連携及び交流を推進し、大学機能の活性化を促進する。</p>	<p>イ 【海外からの研究者・学生の受入】          大学機能の活性化を促進するため、日常生活に必要な諸手続きに対する支援など、外国人の研究者、留学生を受け入れやすい支援体制を整備する。</p> <p>《指標1》          外国人研究者、留学生の受入人数          基準値：45人（H27-H30年度の単年度平均及び薬学部のR5年度の実績見込みの合計）</p>	<p>来日前に大学や生活に関する情報を提供したり、ビザ取得に必要な書類を迅速に発行したりして支援した。また、来日時には学内及び生活圏の主要施設案内や国際交流ハウスの利用説明を行った。さらに、本学の学生との交流を通じて環境にスムーズに適應できるようサポートした。</p> <p style="text-align: right;">【総務課】</p> <table border="1" data-bbox="824 863 1695 967"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>45人</td> <td>45人</td> <td>45人</td> <td>45人</td> <td>45人</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>57人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>受入学生数：16施設・大学 57名（学生36名+教員3名+研究者18名）          医学部：中国・香港中文大学 2名                    タイ・コンケン大学 3名                    チェコ・チャールズ大学 4名                    インドネシア・ウダヤナ大学 4名                    オーストラリア・カーティン大学 2名                    独・リュウベック大学 1名          薬学部：中国・香港中文大学 学生10名+教員1名          3学部：中国・山東大学 学生10名+教員2名          研究者数：イタリア・ボローニャ大学 2名                    イタリア・パドワ大学 1名                    インドネシア大学 1名                    ベトナム・カンホー病院 1名                    ベトナム・カンホー大学 1名</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	45人	45人	45人	45人	45人	45人	実績	57人	人	人	人	人	人		III	47
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	45人	45人	45人	45人	45人	45人																				
実績	57人	人	人	人	人	人																				

		<p>アメリカ・カルフォルニア大学 1名 タイ・ランブン病院 3名 中国・西南交通大学 1名 台湾・チャンゲン大学 7名</p> <p>【総務課】</p>																								
<p>(2) オンライン等の多様な手段を活用することにより、国外の大学や研究機関等との連携及び交流を推進し、大学機能の活性化を促進する。</p>	<p>ウ 【学術交流・学生交流】 海外の大学、研究所、病院等との学術交流、学生交流を推進するとともにオンライン等を活用することにより、一層の充実化を図る。</p>	<p>協定に基づき、海外の大学との交流を計画的に実施し、交流を通じて教員・学生の国際的な視野を広げることができた。また、令和6年12月には、医学部において、新たに中国の西南交通大学と学部間協定を締結した。</p> <p>学生交流の実施状況：＜受入＞2大学 学生20名＋教員3名 5月 香港中文大学（薬学部）11名 10～11月 山東大学（3学部）12名</p> <p>学術交流の実施状況：＜派遣＞2大学 教員6名＋職員2名 11～12月 山東大学（3学部）教員5名＋職員2名 12月 カンホー医科大学（保健看護学部）1名</p> <p>【総務課】</p> <p>学術交流、学生交流の推進と充実化のため、若手研究者が代表者として主催する国際シンポジウム等の開催2件に対し、助成した。</p> <p>【研究推進課】</p>	<p>学術交流・学生交流に係る《指標1》および《指標2》の目標値を達成し、また指標2においては、新設の講座で積極的に活動を展開したことが、計画期間初年度の目標達成につながったことを評価した。</p>	IV	48																					
	<p>《指標1》 学術交流の実施回数 基準値：2回(H29-R元年度の単年度平均及び薬学部のR4年度の実績の合計)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	2回	2回	2回	2回	2回	2回	実績	2回	回	回	回	回	回			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	2回	2回	2回	2回	2回	2回																				
実績	2回	回	回	回	回	回																				
<p>《指標2》 新たな大学との協定締結件数 基準値：1件(H30-R5年度の6年間の累計)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中に1件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	第4期中期計画期間中に1件						実績	1件	件	件	件	件	件				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	第4期中期計画期間中に1件																									
実績	1件	件	件	件	件	件																				

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-6)(IV-0)】
----------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号	
(1) 教育水準を高め、充実した卒業後キャリアパスの策定などに取り組むことで、県内に定着する優秀な人材を確保し、地域医療の向上に取り組む人材を育成する。更に、臨床研修医及び県民医療枠・地域医療枠で入学し、勤務義務年限を終了した医師が、引き続き地域に定着する取組を推進する。	<p><b>ア 【優秀な人材の確保】</b></p> <p>常に教育プログラムの検証・改善を行い、教育水準の向上に努める。更に、質の高い最先端の研究や高度先進医療の実績を広報して、医療系総合大学としての魅力を県内外に広く発信することで、資質の高い人材を確保する。</p> <p>また、入学者に対し、地域医療への理解を促すため、早期体験型実習、地域医療学講座、病棟実習及び県内各施設での体験実習、地域医療ニーズに応える医療人の養成を図るため黒潮医療人養成プロジェクトを推進することで、地域の交流活動など地域の保健医療課題を知る機会を設け、卒業後に地域医療に貢献する高い志を培い、県内定着を図る。</p>	<p>和歌山県高等学校進路指導研究会（7月5日）への出席、県教育委員会及び県立高等学校長会との懇談会（11月20日）、私立中学高等学校協会との懇談会（11月26日）を実施し意見交換を行った。</p> <p>予備校での説明会や県内外の高校を教職員が訪問し、受験生を対象に本学の教育方針等についての説明を行い、PR活動を行った。</p> <p>1-4年の地域医療枠・県民医療枠が全員参加する地域マインド教育の授業を実施し、地域医療の現状及び地域医療に従事する医師の必要性等について講義し、地域医療に積極的に参加・貢献する気概を学生が身に付けるよう、教育を行った。また、三重大学及び高知大学との共同事業である黒潮医療人養成プロジェクト事業の実施に伴い、①アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）②体験実習（黒潮体験実習）③黒潮長期滞在方クリニカルクラークシップを単位化し、1年生の早期医療体験実習、2、3年の病棟体験実習I、II、6年生の選択制臨床実習などに組み込み、地域医療を担う人材の育成を図った。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>保健看護学部説明会、県高等学校校長会との懇談会及び県私立中学高等学校協会との懇談会を開催し、本学部の魅力をPRした。また、地域が行っているコホート研究に、学生が参画した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>進路指導部長等を対象とした大学説明会を3学部合同で開催し、和歌山県高等学校進路指導研究会にも出席して入学者抜の説明を行った。</p> <p>県内高校だけでなく県外高校への訪問を行い、高校生を対象に薬学部の設置構想だけでなく、薬学の模擬授業や薬剤師の仕事を説明することにより、高校生の薬学部に対する進学意欲を喚起し、志望者の増加を図った。その後も高校訪問は継続して実施しており、積極的に行った。また、読売進学相談会および県薬剤師会主催の薬学部進学セミナー（Web開催）にて本学への進学個別相談を実施した。</p>			III	49

		<table border="1"> <tr> <th>主な広報活動</th> <th>R6 実績</th> </tr> <tr> <td>高校訪問</td> <td>県内 8 校、県外 5 校</td> </tr> <tr> <td>進学相談会</td> <td>読売進学相談会、和歌山県薬剤師主催進学セミナー（Web）参加</td> </tr> </table>	主な広報活動	R6 実績	高校訪問	県内 8 校、県外 5 校	進学相談会	読売進学相談会、和歌山県薬剤師主催進学セミナー（Web）参加	<p>10月13日オープンキャンパスを実施し、模擬講義、在校生との懇談会、施設見学を行った（参加者 1,220名）。</p> <p>入学した学生への地域医療の理解促進については、教育カリキュラムとして「社会薬学」「地域医療薬学」等の講義を設けることにより、地域社会の中で、患者・生活者における健康の回復と維持に積極的に貢献できる薬剤師を養成することとしている。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>											
主な広報活動	R6 実績																			
高校訪問	県内 8 校、県外 5 校																			
進学相談会	読売進学相談会、和歌山県薬剤師主催進学セミナー（Web）参加																			
	<p>《指標 1》 卒業生の県内定着の推進</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">地域医療の理解を深める講義・実習等を実施し、卒業生の県内定着を図る</td> </tr> </tbody> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	地域医療の理解を深める講義・実習等を実施し、卒業生の県内定着を図る						<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域マインド教育ⅠⅡⅢⅣ講義数：3コマ</li> <li>・アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）：1年次のケアマインド内早期体験実習に含めて実施</li> <li>・体験実習（黒潮体験実習）：2年次、3年次の病棟実習ⅠⅡに含めて実施</li> <li>・黒潮長期滞在方クリニカルクラークシップ：6年次選択制臨床実習に含めて実施</li> </ul> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>保健看護学部の説明会や懇談会を通じて学部の魅力を発信し、学生は地域のコホート研究にも参加した。</p> <p style="text-align: right;">【保健看護学部】</p> <p>地域医療薬学を開講しており、地域での薬剤師の役割や公衆衛生、セルフメディケーションについて学修している。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11														
目標値	地域医療の理解を深める講義・実習等を実施し、卒業生の県内定着を図る																			
<p>(1) 教育水準を高め、充実した卒業キャリアパスの策定などに取り組むことで、県内に定着する優秀な人材を確保し、地域医療の向上に取り組む人材を育成する。更に、臨床研修医及び県民医療枠・地域医療枠で</p>	<p>イ 【県民医療枠・地域医療枠のキャリア形成】</p> <p>県民医療枠及び地域医療枠で入学した学生及び卒業医師が、地域医療の魅力や特性を理解し、地域医療に従事する医師の役割及び責任についての認識を深めるための研修等を実施する。</p> <p>また、県が策定した和歌山県キャリア形成プログラムを活用し、対象医師個人の状況や専攻する診療科に配慮しつつ、可能な限り速やかに専門医を取得できるようキャリア形成の支援・充実を図るとともに、</p>	<p>学生の夏期休業を利用し、地域医療枠1-5年生及び県民医療枠B,C1-2年生（60名）を対象に県内の保健所やへき地医療拠点病院等において夏季実習を実施した。また、県民医療枠4年生（18名）を対象に県内公的病院の見学を実施した。</p> <p>県民医療枠・地域医療枠のキャリア形成を支援し、学生及び卒業医師に対し面談を実施した。</p> <p>卒前・卒後教育の一環として、地域枠学生及び医師を対象に、プライマリ・ケアセミナーを3回、WING（地域医療にかかるオンライン勉強会）を5回、エコーハンズオンセミナーを5回、地域医療マネジメント研究会を1回、開催した。</p> <p>県が策定した和歌山県キャリア形成プログラムの周知・活用促進を行い、医学部1年生及び研修医1年目に卒前・卒後プログラムにかかる説明会を実施した。</p>		III	50															

<p>入学し、勤務義務年限を終了した医師が、引き続き地域に定着する取組を推進する。</p>	<p>義務年限終了後も「県内公的病院での地域医療の実践」や「先進医療の開発等本学での研究」を促す仕組みを検討・構築し、同枠医師の県内定着に取り組む。</p> <p>＜指標1＞ 義務年限を終了した医師の県内定着率 基準値：68.8% (R4年度)</p>	<p>義務年限終了医師をメンター、義務年限内医師及び学生をメンティとし、メンターがメンティの支援や相談を行うメンター制度を導入した。令和6年度は県民医療枠3年生及び5年生に対して面談を実施した。</p> <p>義務年限終了医師の県内定着率向上を促す仕組みとして、義務年限終了医師を対象に、県内指定医療機関への勤務を条件に留学等資金補助金を交付する地域医療支援ドクター制度を構築した。</p> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p> <table border="1" data-bbox="826 454 1695 555"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>70.8%</td> <td>71.8%</td> <td>72.8%</td> <td>73.8%</td> <td>74.8%</td> <td>75.8%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>69.1%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>R4年度～R6年度末終了者（1～3期生）の合計数によるR7年4月時点実績。</p> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	70.8%	71.8%	72.8%	73.8%	74.8%	75.8%	実績	69.1%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	70.8%	71.8%	72.8%	73.8%	74.8%	75.8%																				
実績	69.1%	%	%	%	%	%																				
<p>(1) 教育水準を高め、充実した卒業後キャリアパスの策定などに取り組むことで、県内に定着する優秀な人材を確保し、地域医療の向上に取り組む人材を育成する。更に、臨床研修医及び県民医療枠・地域医療枠で入学し、勤務義務年限を終了した医師が、引き続き地域に定着する取組を推進する。</p>	<p>ウ <b>【臨床研修医の県内定着】</b> 本学及び地域の医療機関に勤務する医師を対象に、厚生労働省の指針に沿った講習会の開催を通じて指導医を養成することで、県内医療機関における臨床研修指導体制を強化するとともに、専門研修プログラムの充実にも努めること等により臨床研修医の県内定着を促進する。</p> <p>＜指標1＞ 採用臨床研修医の研修修了後県内定着率 基準値：94.7% (R4年度)</p>	<p>厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会を年1回実施し、指導医の育成に努めることができた。</p> <p>県民医療枠・地域医療枠のキャリア形成を支援し、専門医取得の参考とすることを目的に、「和歌山県立医科大学専門研修プログラム冊子」を作成している。本冊子には、院内の全診療科における県民医療枠・地域医療枠の新専門医制度下での研修内容や、学位取得を含めたプログラム例等を掲載しており、毎年内容の見直しを行っている。</p> <p>初期研修医向けには、各診療科によるランチョンセミナーの実施や、医局説明会を通じて当院診療科の魅力を伝えていく。</p> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p> <table border="1" data-bbox="826 970 1695 1070"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>94.7%</td> <td>94.7%</td> <td>94.7%</td> <td>94.7%</td> <td>94.7%</td> <td>94.7%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>81.7%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	実績	81.7%	%	%	%	%	%		III	51
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%																				
実績	81.7%	%	%	%	%	%																				
<p>(2) 県及び地域の医療機関と連携し、臨床研修医、専門医制度における専攻医及び卒業後の看護師・薬剤師、地域の医療従事者に対して、地域医療の実情や専門的知見を学ぶことのできる研修の</p>	<p>エ <b>【地域医療のための教育・研修】</b> 地域医療を担う医師の育成を図るため、卒業後臨床研修プログラムの充実にも努め、臨床研修医の受入れに取り組むとともに、専攻医の専門教育の充実を図る。</p> <p>また、県民医療枠及び地域医療枠の学生に対して、地域医療マインドの涵養を目的とした教育や研修を充実させるとともに、黒潮医療人養成プロジェクトにより多様な学びを提供し、地域医療ニーズに応える医療人材を養成する。</p>	<p>卒業臨床研修プログラムの充実のため、各診療科カリキュラムに、①研修責任者②一般目標③行動目標④方略⑤週間スケジュール⑥評価方法の6項目を新たに加えることとした。</p> <p>また、各診療科によるランチョンセミナーを42回実施した。</p> <p>学生の夏期休業を利用し、地域医療枠1～5年生及び県民医療枠B,C1～2年生(60名)を対象に県内の保健所やへき地医療拠点病院等において夏季実習を実施した。また、県民医療枠4年生(18名)を対象に県内公的病院の見学を実施した。</p> <p>地域枠学生1～4年生を対象に、「地域マインド教育」の講義を実施した。</p> <p>地域枠学生を対象に学会早期体験研修を実施、日本ポイントオブケア超音波学会に2人、日本消化器外科学会に2人、日本泌尿器科学会中部総会に2人が参加した。</p>		III	52																					

<p>場を確保するなど、地域医療に貢献する優れた人材を育成する。</p>	<p>更に、同卒業の医師に対し、初期臨床研修における和歌山研修ネットワークを活用した地域医療機関での診療の実践やキャリアカウンセリングの実施、専攻医段階での特別4年間又は5年間の地域中核病院又はへき地医療拠点病院等での診療の義務付けなどを行うことによって、より深化したレベルで地域医療の理解を促す。</p> <p>地域医療に従事する看護職の育成を図るため、ニーズにあった幅広い研修の機会を提供するとともに、看護師の特定行為研修を実施する。</p> <p>地域医療に貢献する薬剤師の育成を図るため、薬学部県内卒を卒業した学生に対する、薬剤師業務の習得と薬剤師が不足している地域での研修を内容とする卒後研修プログラムを充実させる。</p> <p>なお、その他の医療従事者に対しても、地域において活躍する人材を育成するため、実習の機会を提供する。</p>	<p>高知大学及び三重大学との連携事業である黒潮医療人養成プロジェクトにおいては、早期体験実習・アクティブラーニング（地域総合診療コース）・アクティブラーニング（災害・救急コース）・長期滞在型クリニカルクラークシップを実施するとともに、e-learningコンテンツを制作し、地域医療ニーズに応える医療人材を養成すべく多様な学びを提供した。また、3月8日には本学主催のシンポジウムを開催し、3大学の教職員、学生、病院関係者等160名が参加、相互に交流するとともに、本プロジェクトの意義を広く地域に情報発信した。</p> <p>義務年限内地域医療枠・近大和歌山県枠・自治医大医師83名を対象に、派遣先希望ヒアリング及びキャリアコーディネーターによるキャリアカウンセリングを実施した。その上で、県民医療枠医師64名及び地域医療枠・近大和歌山県枠・自治医大医師41名を医師不足の県内公的医療機関やへき地医療拠点病院等に派遣した。</p> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p> <p>県内の病院の看護師育成として、県内医療機関・訪問看護ステーション等に勤務する看護職に対し、「附属病院の専門看護師・認定看護師による研修」をWebでオンデマンド配信した。また、「受け入れ研修」、「出張看護相談」を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="817 702 1646 774"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>専門看護師・認定看護師による研修</th> <th>受け入れ研修</th> <th>出張看護相談</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6年度</td> <td>延べ217名（web オンデマンド）</td> <td>延べ38名</td> <td>3施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>特定行為研修では、地域医療コース8名が修了し、1名が受講継続中である。また、急性期医療コース4名が修了した。</p> <p style="text-align: right;">【看護キャリア開発センター】</p> <p>看護キャリア開発センターの依頼を受け特定行為研修修了者が、講師を担当し、当院や地域の看護師の特定行為研修を支援した。</p> <p>皮膚排泄ケア認定看護師が、県内施設の褥瘡予防病棟ラウンドに同行し看護師に指導、支援をおこなった（11月）。</p> <p>手術看護認定看護師が県内3施設に出向き、手術室看護師の看護相談に対応した（12月、1月、2月）。</p> <p>1名が特定認定看護師に合格した（11月）。</p> <p style="text-align: right;">【看護部管理室】</p> <p>卒後研修においては、厚生労働省の「薬剤師臨床ガイドライン」に準拠する内容の研修プログラムを立案。『在宅訪問（自宅や施設で生活する患者を訪問して服薬指導や薬剤管理を行い、在宅医療や介護に関する各種支援制度や地域包括システムにおける多職種役割を学ぶ）』や『地域連携（病院と薬局の連携や地域の医師、看護師等との多職種連携等、地域連携の必要性を理解し、地域における患者中心の医療の充実に努める）』などの実習項目を組み入れ、地域医療に貢献する薬剤師の育成を図っていく。</p> <p style="text-align: right;">【薬学部】</p>	年度	専門看護師・認定看護師による研修	受け入れ研修	出張看護相談	R6年度	延べ217名（web オンデマンド）	延べ38名	3施設		
年度	専門看護師・認定看護師による研修	受け入れ研修	出張看護相談									
R6年度	延べ217名（web オンデマンド）	延べ38名	3施設									

	<p>《指標1》 夏季病院等実習・見学の実施</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">毎年夏期休業中に、県民医療枠B、C・地域医療枠1-5年全員を対象とした病院等実習、県民医療枠4年を対象とした病院見学を最低1回実施する。</td> </tr> <tr> <td colspan="7">夏季病院等実習・夏季病院見学とも1回実施した。 【地域医療支援センター】</td> </tr> </tbody> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	毎年夏期休業中に、県民医療枠B、C・地域医療枠1-5年全員を対象とした病院等実習、県民医療枠4年を対象とした病院見学を最低1回実施する。						夏季病院等実習・夏季病院見学とも1回実施した。 【地域医療支援センター】																
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	毎年夏期休業中に、県民医療枠B、C・地域医療枠1-5年全員を対象とした病院等実習、県民医療枠4年を対象とした病院見学を最低1回実施する。																																
夏季病院等実習・夏季病院見学とも1回実施した。 【地域医療支援センター】																																	
	<p>《指標2》 黒潮医療人養成プロジェクトに係る実習及びe-learningの実施</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">毎年、主に県民医療枠・地域医療枠の学生を対象とし、早期体験実習・アクティブラーニング（地域総合診療）・アクティブラーニング（災害救急）・長期滞在型クリニカルクラークシップ及びe-learningを実施する。</td> </tr> <tr> <td colspan="7">体験実習に7名、アクティブラーニング（地域総合診療コース）に8名、アクティブラーニング（災害・救急コース）に5名、長期滞在型クリニカルクラークシップに40名が参加した。e-learningは4コンテンツを新たに制作し、3大学合計42コンテンツを提供することにより学生の学修を支援できるよう取り組んだ。 【地域医療支援センター】</td> </tr> </tbody> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	毎年、主に県民医療枠・地域医療枠の学生を対象とし、早期体験実習・アクティブラーニング（地域総合診療）・アクティブラーニング（災害救急）・長期滞在型クリニカルクラークシップ及びe-learningを実施する。						体験実習に7名、アクティブラーニング（地域総合診療コース）に8名、アクティブラーニング（災害・救急コース）に5名、長期滞在型クリニカルクラークシップに40名が参加した。e-learningは4コンテンツを新たに制作し、3大学合計42コンテンツを提供することにより学生の学修を支援できるよう取り組んだ。 【地域医療支援センター】																
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	毎年、主に県民医療枠・地域医療枠の学生を対象とし、早期体験実習・アクティブラーニング（地域総合診療）・アクティブラーニング（災害救急）・長期滞在型クリニカルクラークシップ及びe-learningを実施する。																																
体験実習に7名、アクティブラーニング（地域総合診療コース）に8名、アクティブラーニング（災害・救急コース）に5名、長期滞在型クリニカルクラークシップに40名が参加した。e-learningは4コンテンツを新たに制作し、3大学合計42コンテンツを提供することにより学生の学修を支援できるよう取り組んだ。 【地域医療支援センター】																																	
	<p>《指標3》 看護師特定行為研修修了者数(※) 基準値：10名(H30-R5年度の単年度平均) ※修了者数には、本学で特定行為研修を受講した他の医療機関等の修了者及び附属病院の看護師特定行為研修修了者若しくは特定認定看護師合格者を含む</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>12名</td> <td>12名</td> <td>12名</td> <td>13名</td> <td>13名</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>13名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td colspan="7">【看護キャリア開発センター・看護部管理室】</td> </tr> </tbody> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	12名	12名	12名	13名	13名	14名	実績	13名	名	名	名	名	名	【看護キャリア開発センター・看護部管理室】									
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	12名	12名	12名	13名	13名	14名																											
実績	13名	名	名	名	名	名																											
【看護キャリア開発センター・看護部管理室】																																	
	<p>《指標4》 薬学部県内枠に係る卒後研修プログラム企画、受入先調整、卒後研修実施</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="3">研修プログラム企画、受入病院・薬局との関係構築、調整</td> <td colspan="3">地域への薬剤師派遣、集合研修、研修生面談、成果報告会の実施</td> </tr> <tr> <td colspan="7">学部内にて研修プログラムを企画し、県内受入れ対象の病院や薬局との関係構築を行った。 【薬学部】</td> </tr> </tbody> </table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	研修プログラム企画、受入病院・薬局との関係構築、調整			地域への薬剤師派遣、集合研修、研修生面談、成果報告会の実施			学部内にて研修プログラムを企画し、県内受入れ対象の病院や薬局との関係構築を行った。 【薬学部】																
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																											
目標値	研修プログラム企画、受入病院・薬局との関係構築、調整			地域への薬剤師派遣、集合研修、研修生面談、成果報告会の実施																													
学部内にて研修プログラムを企画し、県内受入れ対象の病院や薬局との関係構築を行った。 【薬学部】																																	
<p>(2) 県及び地域の医療機関と連携し、臨床研修医、専門医制度における専攻医及び卒後</p>	<p>オ 【地域医療連携】 地域の医療機関に対し、院内で開催するカンファレンス情報等の専門的な情報を発信することにより、地域の医療水準の向上・推進を図る。</p>	<p>医療連携交流会を年一回開催し、地域の医療機関との連携、連携登録医の新規登録等につとめている。また、連携登録医には病院広報誌や当院で行われる研修会やセミナー等の新情報の提供を定期的に郵送、メールにより送付し、ホームページに掲載している。連携登録医は閉院等による登録数の減少傾向はあるが、新規登録医の増加や医療情報の発信により地域医療の連携の強化をめざす。</p>		III	53																												

<p>の看護師・薬剤師、地域の医療従事者に対して、地域医療の実情や専門的知見を学ぶことのできる研修の場を確保するなど、地域医療に貢献する優れた人材を育成する。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連携登録医</td> <td>850</td> <td>842</td> </tr> <tr> <td>新規</td> <td>18</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>辞退</td> <td>22</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>メール登録数</td> <td>489</td> <td>487</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【患者支援センター】</p>		R5	R6	連携登録医	850	842	新規	18	16	辞退	22	24	メール登録数	489	487									
		R5	R6																							
連携登録医	850	842																								
新規	18	16																								
辞退	22	24																								
メール登録数	489	487																								
<p>＜指標1＞ 連携登録医メール登録者数割合 基準値：59.0%(R5年度)</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>65%</td> <td>65%</td> <td>65%</td> <td>70%</td> <td>70%</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>58.8%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【患者支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	65%	65%	65%	70%	70%	70%	実績	58.8%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	65%	65%	65%	70%	70%	70%																				
実績	58.8%	%	%	%	%	%																				
<p>(3) 在宅医療やへき地医療等の場で十分な能力を発揮できる総合診療医を育成する体制を構築する。</p>	<p>カ 【総合診療医育成】＜再掲＞ 医学部入学時から継続的な地域医療教育を実施するとともに、紀北分院を総合診療専門研修プログラムの基幹病院として、附属病院と連携して総合診療専門医の育成を図る。</p> <p>医学部2年次、4年次の地域医療の講義、4年次の総合診療の講義を通して総合診療の概念や意義、役割等を多角的な観点から指導を継続した。 新たに2名の総合診療専攻医を受け入れ、1名の総合診療専門医を輩出した。 【紀北分院】</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中において、5名の総合診療専門研修医希望者を受け入れる</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	第4期中期計画期間中において、5名の総合診療専門研修医希望者を受け入れる						実績	2名	名	名	名	名	名		III	54
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	第4期中期計画期間中において、5名の総合診療専門研修医希望者を受け入れる																									
実績	2名	名	名	名	名	名																				

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-4)(IV-0)】
----------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号												
(1) 県民の健康福祉の増進に寄与するため、地域の保健医療課題を解決するための研究を推進する。	ア 【地域の保健医療課題解決のための研究】 がんや認知症等の神経難病に関する研究をはじめとして、本県における医療水準の向上や県民の健康増進、疾病予防等に資する各種研究を推進する。	<p>次世代医療研究センター1階に、「データサイエンスセンター」を開設し、がんをはじめ本県で重点的に取り組まなければならない分野において、医療ビッグデータのデータベース構築やデータ解析、企業との共同研究等を実施し、データ駆動型の新たな取組を推進している。</p> <p>また、次世代医療研究センター3階の「バイオメディカルサイエンスセンター」では、研究推進のためがん患者等の血液や病理組織検体の収集を行っているほか、4階の企業との共同スペースでは大阪大学発ベンチャーである株式会社HOISTが「次世代がん創薬共同研究講座」を設置し、学内研究者や企業などとの共同研究を実施している。</p> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p> <p>学内で行われる臨床研究に対して臨床研究センター各部門が連携し、総合的な研究支援（プロトコル作成、データマネジメント、統計解析、モニタリング、監査を通じた品質管理、研究実施に係るセミナー開催、研究相談への対応等）を行うとともに、本学及び紀州臨床研究ネットワーク（KiCS Network）参画医療機関が主導する特定臨床研究への支援（新規研究立ち上げを含む）も行った。</p> <p style="text-align: right;">【臨床研究センター】</p>		III	55												
	<p>≪指標1≫ 地域の保健医療課題の解決に資する研究の推進</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;">R6</th> <th style="width: 10%;">R7</th> <th style="width: 10%;">R8</th> <th style="width: 10%;">R9</th> <th style="width: 10%;">R10</th> <th style="width: 10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">本県の医療水準の向上、県民の健康増進、疾病予防等に資する研究に取り組む</td> </tr> </tbody> </table> <p>データサイエンスセンターにおいて、がんをはじめ本県で重点的に取り組まなければならない分野について、医療ビッグデータのデータベース構築やデータ解析、企業との共同研究等により、データ駆動型の新たな取組を実施したほか、バイオメディカルサイエンスセンターにおいてがん患者等の血液や病理組織検体の収集を行い、研究に活用している。</p> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	本県の医療水準の向上、県民の健康増進、疾病予防等に資する研究に取り組む							
	R6	R7	R8	R9	R10	R11											
目標値	本県の医療水準の向上、県民の健康増進、疾病予防等に資する研究に取り組む																

<p>(2) 大学の特性をいかし、学外研究者や産業界等との産官学連携研究をより一層推進するとともに、知的財産の管理・活用体制を強化する。その上で、民間事業者等への技術移転を通じて地域に貢献する。</p>	<p>イ <b>【産官学連携・他大学協働の取組】</b>          研究支援体制を強化し、学外研究者や産業界等との共同研究等産官学連携をより一層推進し、研究成果の実用化と社会への還元積極的に取り組む。          また、各地域が抱える共通の社会的課題に対し、他大学等との協働による取組を推進する。          ≪指標1≫          共同研究の契約件数          基準値：53件(R4年度)</p>	<p>産官学連携の推進に向けて、紀陽銀行と連携し、本学教員と地元企業との個別相談会を実施したほか、わかやま産業振興財団主催のテクノ・ビジネスフェアに出展するなど、企業との接触機会の確保を行い、共同研究に繋げる取組を行っている。          また、和歌山大学や同志社大学と医工連携の可能性について協議を進めている。  <b>【研究推進課】</b></p> <table border="1" data-bbox="826 451 1693 555"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>52件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【研究推進課】</b></p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	53件	53件	53件	53件	53件	53件	実績	52件	件	件	件	件	件		III	56
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	53件	53件	53件	53件	53件	53件																				
実績	52件	件	件	件	件	件																				
<p>(2) 大学の特性をいかし、学外研究者や産業界等との産官学連携研究をより一層推進するとともに、知的財産の管理・活用体制を強化する。その上で、民間事業者等への技術移転を通じて地域に貢献する。</p>	<p>ウ <b>【研究成果の権利化】</b>          教職員等に対する研修等の充実を図ることで、知的財産に関する意識を高め、研究成果の権利化を推進する。          ≪指標1≫          特許出願件数          基準値：4件(R2-R4年度の単年度平均)</p>	<p>知的財産の管理・活用体制の強化に向けて、知的財産保護の重要な資料となる研究開発活動を自ら整理し記録する「ラボノート」を研究者に配付するとともに、研究相談窓口の運営とURAによる相談対応を常時行っている。また、知的財産権の管理活用を進めるため、本学教員、研究者、大学院生等を対象に、「知的財産権管理セミナー」を開催して教職員等の意識改革に努めるとともに、講師による個別相談を実施した。  <b>【研究推進課】</b></p> <table border="1" data-bbox="826 836 1693 940"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>5件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>5件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【研究推進課】</b></p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	5件	5件	5件	5件	5件	5件	実績	5件	件	件	件	件	件		III	57
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	5件	5件	5件	5件	5件	5件																				
実績	5件	件	件	件	件	件																				
<p>(2) 大学の特性をいかし、学外研究者や産業界等との産官学連携研究をより一層推進するとともに、知的財産の管理・活用体制を強化する。その上で、民間事業者等への技術移転を通じて地域に貢献する。</p>	<p>エ <b>【技術移転】</b>          技術移転機関(TLO(Technology Licensing Organization))等を活用し、本学の研究成果の民間事業者等への技術移転を促進する。          ≪指標1≫          特許実施等件数          基準値：1件(H30-R4年度の5年間の累計)</p>	<p>民間事業者への技術移転を実現していくため、展示会への出展、紀陽銀行との連携による個別相談会の開催、URAによるマッチングなどを通じて、民間企業との共同研究につなげる取組を行った。          また、知的財産の重要性や基礎知識を研究者に理解させるため、「知的財産権管理セミナー」を開催した。  <b>【研究推進課】</b></p> <table border="1" data-bbox="826 1224 1693 1327"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中に3件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【研究推進課】</b></p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	第4期中期計画期間中に3件						実績	0件	件	件	件	件	件		III	58
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	第4期中期計画期間中に3件																									
実績	0件	件	件	件	件	件																				

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-1)(III-6)(IV-0)】
----------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
(1) 県保健医療計画におけるがんや救急医療など5疾病6事業などにかかわる医療提供体制について、中心的な役割を担い、県及び地域の医療機関と連携し、地域医療の充実に寄与する。	<p><b>ア 【地域医療水準の向上】</b></p> <p>県保健医療計画における5疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患)について、高度で先進的な医療を提供するとともに、地域の医療機関との連携により、安定した県内医療提供体制を堅持し、地域医療水準の向上を図る。また、疾病ごとに以下の取組を進める。</p> <p>がん： 診療科及び職種を横断したチーム医療による、先進的かつ集学的な診療の実施</p> <p>脳卒中： 脳卒中センターを中心とした専門的な高度医療の提供と、急性期における血管内治療及び低侵襲手術の積極的導入</p> <p>急性心筋梗塞： 急性心筋梗塞におけるハートチームによるシームレスかつ迅速な治療の継続、患者生命予後の改善</p> <p>糖尿病： 糖尿病性腎症重症化予防、身体合併症患者の治療、定期的な合併症検索の実施</p> <p>精神疾患： 様々な児童・思春期のこころの問題に対応できる診療体制、自殺未遂者支援に関する急性期から地域包括ケアまでの充実した診療体制、軽度認知機能障害に関する認知</p>	<p>●がん： 診療科及び職種を横断したチーム医療を推進するため、がんセンターや腫瘍センター勉強会を開催し、引き続き先進的かつ集学的な診療の実施に努めた。</p> <p>【経理課】</p> <p>●脳卒中 脳卒中センターでは、専門的で高度な脳卒中医療を迅速かつ組織的に提供している。特に、脳卒中急性期医療において脳血管内治療や神経内視鏡手術などの低侵襲手術を積極的に導入している。具体的には、破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血に対しては血管内治療によるコイル塞栓術を積極的に応用し、良好な結果を得ている。脳梗塞の急性期には、血管内治療による機械的血栓回収術を行なっている。脳出血に対しては、神経内視鏡手術による血腫除去を行い、早期のリハビリテーションを実現している。また、患者支援センター内に設置している脳卒中相談窓口を通じて、急性期医療から回復期病院への転院や自宅への退院支援を行なっている。</p> <p>●急性心筋梗塞 心臓血管病センターを中心とし、急性～慢性期にかけてチーム医療によるシームレスな先進的心臓血管病治療を実施している。</p> <p>●糖尿病 腎症・神経障害・大血管症に関して医師・看護師・栄養士が連携して病態の把握と進展予防を適切に行っている。外来では糖尿病透析予防外来、糖尿病地域連携外来、フットケア外来を設けて運用している。また、インスリンポンプ、持続血糖・グルコース値モニタリング、人工膵臓を用いた先進的医療も積極的に行っている。網膜症評価は眼科医師と連携し、合併症の進展が危惧される場合は腎臓内科や循環器内科等とも連携し進展予防に努めている。</p> <p>●精神疾患</p>		III	59

<p>症予防ケアに向けた診療体制の整備</p>	<p>救急集中治療部との連携により、自殺未遂患者で精神医学的評価が必要な患者を診療、評価し再度の自殺企図防止に取り組んでいる。また令和6年度和歌山県精神科病院協会の主催の専門研修会において、救急科との連協会についての意見交換をおこなった。</p> <p>さらに厚生労働省の令和6年度自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業により和歌山県で「医療と行政の連携のための研修会」をおこなった。</p> <p>●脳卒中・心臓病等総合支援センター</p> <p>附属病院においては、厚生労働省が募集した脳卒中・心臓病等総合支援センターを設置するモデル事業に採択されたことから、脳卒中及び心臓病等に関する専用相談窓口を開設するとともに、救急搬送円滑化のために、連携病院との救急搬送に新たなITシステムを導入した。また、県内の他職種連携を推進し、ノウハウを広めるために和歌山ハートケアネットワークを設立した。これらにより、県内の循環器病対策の連携体制を構築した。</p> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>																						
<p>《指標1》 がん遺伝子パネル検査の実施件数 基準値：87件(R4年度)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>95件</td> <td>100件</td> <td>105件</td> <td>110件</td> <td>115件</td> <td>120件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>93件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経理課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	95件	100件	105件	110件	115件	120件	実績	93件	件	件	件	件	件	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	95件	100件	105件	110件	115件	120件																	
実績	93件	件	件	件	件	件																	
<p>《指標2》 附属病院主催の緩和ケア関連研修の受講者数 基準値：754人(H30-R5年度の6年間の累計)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>130人</td> <td>130人</td> <td>130人</td> <td>130人</td> <td>130人</td> <td>130人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>120人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経理課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	130人	130人	130人	130人	130人	130人	実績	120人	人	人	人	人	人	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	130人	130人	130人	130人	130人	130人																	
実績	120人	人	人	人	人	人																	
<p>《指標3》 脳内出血の外科的治療全体に占める内視鏡下脳内血腫除去術の割合 基準値：92%(R4年度)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>92.5%</td> <td>93.0%</td> <td>93.5%</td> <td>94.0%</td> <td>94.5%</td> <td>95.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>95.2%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	92.5%	93.0%	93.5%	94.0%	94.5%	95.0%	実績	95.2%	%	%	%	%	%	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	92.5%	93.0%	93.5%	94.0%	94.5%	95.0%																	
実績	95.2%	%	%	%	%	%																	
<p>《指標4》 脳動脈瘤破裂に対する治療全体に占める脳血管内治療の割合 基準値：61%(R4年度)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>61.5%</td> <td>62.0%</td> <td>62.5%</td> <td>63.0%</td> <td>63.5%</td> <td>64.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>76.7%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	61.5%	62.0%	62.5%	63.0%	63.5%	64.0%	実績	76.7%	%	%	%	%	%	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	61.5%	62.0%	62.5%	63.0%	63.5%	64.0%																	
実績	76.7%	%	%	%	%	%																	

	<p>《指標5》 急性期脳卒中(発症7日以内)の30日以内の入院死亡率 基準値:5.0%(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>4.5%</td> <td>4.0%</td> <td>3.5%</td> <td>3.0%</td> <td>2.5%</td> <td>2.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>8.0%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	4.5%	4.0%	3.5%	3.0%	2.5%	2.0%	実績	8.0%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	4.5%	4.0%	3.5%	3.0%	2.5%	2.0%																				
実績	8.0%	%	%	%	%	%																				
	<p>《指標6》 急性心筋梗塞(ST上昇型)に対するカテーテル治療のDoor to Balloon Time(来院から血流再開までの時間)90分未満の達成率 基準値:42.1%(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>50.0%</td> <td>50.0%</td> <td>60.0%</td> <td>60.0%</td> <td>70.0%</td> <td>70.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>55.2%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	50.0%	50.0%	60.0%	60.0%	70.0%	70.0%	実績	55.2%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	50.0%	50.0%	60.0%	60.0%	70.0%	70.0%																				
実績	55.2%	%	%	%	%	%																				
	<p>《指標7》 糖尿病患者を対象としたフットケア外来受診者延べ数 基準値:60人(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>60人</td> <td>60人</td> <td>65人</td> <td>70人</td> <td>75人</td> <td>80人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>52人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	60人	60人	65人	70人	75人	80人	実績	52人	人	人	人	人	人			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	60人	60人	65人	70人	75人	80人																				
実績	52人	人	人	人	人	人																				
	<p>《指標8》 救急科を受診した自殺未遂者の支援実施件数 基準値:10件(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>15件</td> <td>15件</td> <td>20件</td> <td>20件</td> <td>25件</td> <td>25件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>26件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	15件	15件	20件	20件	25件	25件	実績	26件	件	件	件	件	件			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	15件	15件	20件	20件	25件	25件																				
実績	26件	件	件	件	件	件																				
<p>(1) 県保健医療計画におけるがんや救急医療など5疾病6事業等に係る医療提供体制について、中心的な役割を担い、県及び地域の医療機関と連携し、地域医療の充実に寄与する。</p>	<p>イ 【医療提供体制の充実】 救急医療、小児・周産期医療について、基幹病院としての機能を維持強化するとともに、へき地医療に従事する医師確保対策に取り組むことにより、県内の医療提供体制の充実に寄与する。 また、新興感染症等の拡大時における医療に備え、地域の感染制御体制の強化及び人材育成に努める。</p>	<p>医師不足の県内公的医療機関やへき地医療拠点病院等に、県民医療枠医師64名及び地域医療枠・近大和歌山県枠・自治医大医師41名を派遣した。 医師不足により指導医が少ない県内公立病院に対して、本学の指導医がローテーションで出向する仕組み(地域医療学講座)を運用し、地域医療の充実と若手医師の指導を行っている。令和6年度は公立那賀病院1名、有田市立病院2名、和歌山病院1名、新宮市立医療センター2名の計6名を派遣した。 令和元年から「くろしお寄附講座」を開設し、医師不足にある県内公的病院に対し、大学教員と病院の医師を兼務した形での医師配置を行っている。令和6年度は海南医療センター(眼科)1名、有田市立病院(耳鼻咽喉科)1名、済生会有田病院(耳鼻咽喉科)1名、紀南病院(循環器科)1名、新宮市立医療センター(眼科)1名の5名を派遣した。 【地域医療支援センター】  救急医療について、県内の消防機関とドクターヘリに係る症例検討会を実施し、ドクターヘリと消防との連携強化を図った。(小規模症例検討会:高野町消防本部、伊都消防組</p>		III	60																					

	<p>合、田辺市消防本部、症例検討会：県内全消防)</p> <p>小児医療については、小児医療センター運営委員会を開催し、小児病棟入院時の各診療科との連携強化を行った。</p> <p>周産期医療については、総合周産期母子医療センターにおいて緊急母子搬送の受け入れ及び新生児搬送用ドクターカーの運用を24時間体制で行った。</p> <p style="text-align: right;">【医事課】</p> <p>地域の連携施設と年間4回カンファレンスを開催し、情報共有・意見交換を行った。また直接連携施設へ赴き、ゾーニング等の感染対策訪問指導を実施した。</p> <p>和歌山市保健所、日赤和歌山医療センター、済生会和歌山病院、和歌山労災病院と合同で感染対策講習会を開催し、和歌山市の医療・介護施設で従事する職員の人材育成、感染制御体制の支援を行った。</p> <p style="text-align: right;">【感染制御部】</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 10%;">R6</th> <th style="width: 10%;">R7</th> <th style="width: 10%;">R8</th> <th style="width: 10%;">R9</th> <th style="width: 10%;">R10</th> <th style="width: 10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> <td>S 評価</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>S 評価</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医事課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	S 評価	実績	S 評価													
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	S 評価	S 評価	S 評価	S 評価	S 評価	S 評価																				
実績	S 評価																									
<p>(1) 県保健医療計画におけるがんや救急医療など5疾病6事業等に係る医療提供体制について、中心的な役割を担い、県及び地域の医療機関と連携し、地域医療の充実に寄与する。</p>	<p>ウ 【災害医療】</p> <p>基幹災害拠点病院として、研修・訓練を実施するとともに、BCPや災害対策マニュアルの見直しを継続し、災害用備蓄生活用品等についても計画的に備蓄する。</p>	<p>○訓練研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報伝達訓練（令和6年7月5日） 災害時の正確な情報伝達を目的に訓練を実施し、併せて本部員の参集率（7割程度）や本部設営にかかる所要時間（約20分）を確認した。 これまで緊急連絡網のみの伝達であったが、最初に館内放送による伝達を試行実施した結果、90%以上の伝達率であり、その有効性を確認した。</li> <li>・災害対策訓練（令和6年12月19日） 時間外の発災を想定し、当直者による初動対応、参集した病院から2km圏内の近隣職員や本部員を含めた3段階方式の実践的な訓練を実施した。 訓練結果から、簡易マニュアル（ToDoリスト）の策定や、ローカルネットワークの構築、本部レイアウト等の見直しを行った。</li> <li>・机上訓練（令和7年2月17日） 法人採用職員を対象とした、災害時に災害情報や対応などを取りまとめる「クロノロ」の作成要領に関する研修を実施し、クロノロ担当者の裾野の拡大を図った。</li> </ul> <p>○計画に基づく災害用備蓄糧食の調達</p> <p>5か年の調達計画に基づき、賞味期限が到来する糧食を放出するとともに、新規に調達した。（放出：令和6年6月13日、令和7年3月27日）</p> <p style="text-align: right;">【危機対策室】</p>		III	61																					

	<<指標1>> 災害訓練・研修の実施及び検証 基準値：3回(R4年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【危機対策室】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	3回	4回	3回	4回	3回	4回	実績	3回	回	回	回	回	回																																													
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																																														
目標値	3回	4回	3回	4回	3回	4回																																																														
実績	3回	回	回	回	回	回																																																														
(1) 県保健医療計画におけるがんや救急医療など5疾病6事業に係る医療提供体制について、中心的な役割を担い、県及び地域の医療機関と連携し、地域医療の充実に寄与する。	エ 【医療機関連携】 地域の医療機関との連携・機能分化を図るため、紹介患者の積極的な受入れや他の医療機関への逆紹介を行い、地域医療機関等との連携強化を図る。	<p>受診報告書、経過報告書の作成率向上に向け、適切に返書を作成できるように、RPAを利用し各診療科に通知している。通知後の返書率は、受診報告書 96.7%、経過報告書 93.6%であり、今後も地域の医療機関との連携のため、返書率 100%を目標に取り組んでいく。</p> <p>地域の医療機関との連携・機能分化を図るため、紹介患者の積極的な受け入れ、かかりつけ医への逆紹介を促進した。</p> <p>令和6年10月より初診予約の方法を医療機関からの電話予約からFAX予約に変更した。事前に診療情報を受け取ることで、診療までの時間短縮につながっている。</p> <p style="text-align: right;">【患者支援センター】</p> <p>診療体制について地域の医療機関に広報誌や外来診療表を送付するなどの情報提供を実施し、紹介患者1,877人受け入れ、逆紹介2,225人(紹介・逆紹介率は以下のとおり)を行った。</p> <p>紹介患者の受診報告をほぼ100%実施した。今年度より、返書管理として入院に至った患者の経過報告の管理を開始した。返書率は、70~80%を維持できている。</p> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>83.0%</td> <td>84.0%</td> <td>85.0%</td> <td>86.0%</td> <td>87.0%</td> <td>88.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>87.7%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【患者支援センター】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>50.0%</td> <td>52.0%</td> <td>54.0%</td> <td>56.0%</td> <td>58.0%</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>63.7%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>48.0‰</td> <td>49.0‰</td> <td>50.0‰</td> <td>51.0‰</td> <td>52.0‰</td> <td>53.0‰</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>49.9‰</td> <td>‰</td> <td>‰</td> <td>‰</td> <td>‰</td> <td>‰</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【患者支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	83.0%	84.0%	85.0%	86.0%	87.0%	88.0%	実績	87.7%	%	%	%	%	%		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	50.0%	52.0%	54.0%	56.0%	58.0%	60.0%	実績	63.7%	%	%	%	%	%		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	48.0‰	49.0‰	50.0‰	51.0‰	52.0‰	53.0‰	実績	49.9‰	‰	‰	‰	‰	‰		III	62
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																																														
目標値	83.0%	84.0%	85.0%	86.0%	87.0%	88.0%																																																														
実績	87.7%	%	%	%	%	%																																																														
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																																														
目標値	50.0%	52.0%	54.0%	56.0%	58.0%	60.0%																																																														
実績	63.7%	%	%	%	%	%																																																														
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																																														
目標値	48.0‰	49.0‰	50.0‰	51.0‰	52.0‰	53.0‰																																																														
実績	49.9‰	‰	‰	‰	‰	‰																																																														

	<p>《指標4》 逆紹介率&lt;紀北分院&gt; 基準値：34.8%(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>40.0%</td> <td>41.0%</td> <td>41.5%</td> <td>42.0%</td> <td>42.5%</td> <td>43.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>56.8%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	40.0%	41.0%	41.5%	42.0%	42.5%	43.0%	実績	56.8%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	40.0%	41.0%	41.5%	42.0%	42.5%	43.0%																				
実績	56.8%	%	%	%	%	%																				
<p>(2) 県が定めた地域医療構想に基づき、附属病院及び紀北分院が各構想区域内で、病床機能の分化・連携を推進し、それぞれが担う役割を全うする。更に、大学本来の使命の一つとして、医師の育成・確保に取り組むとともに、地域への適正な医師派遣を実施し、県内において安定した医療提供体制を堅持する。</p>	<p><b>オ 【地域医療支援体制】</b></p> <p>医師や診療科の地域偏在が際立ち、人口減少や高齢化が進む本県において、全ての県民にあまねく質の高い医療を持続的に提供し、保健医療分野での安心・安全な暮らしを確保することが県内唯一の医育大学としての責務であることを踏まえ、本学はその使命を果たすために、地域の拠点病院やへき地医療機関等と連携しながら、「医師の適正配置」や「県民医療枠・地域医療枠の学生・医師の育成と県内定着の促進」、「遠隔医療」などの取組を通じて地域医療の堅持に努める。</p> <p>地域医療機関からの医師派遣要請に対しては、本学が一元的にとりまとめ、医師適正配置検討委員会を通じて各講座から派遣を行うとともに、地域医療学講座やくろしお寄附講座の制度を活用しつつ、また県民医療枠及び地域医療枠の医師を適正に配置することによって、必要な医療提供体制を確保する。</p> <p>医師不足が深刻な診療科については、県の特設診療科医師確保研修資金貸与制度等を、研修医のみならず学生の段階から周知することにより、短期的及び中期的な視点から医師確保に取り組むとともに、キャリア形成支援のより一層の充実や県外からの医師確保も視野に入れるなど、あらゆる方策を検討し医師不足の解消に努める。</p> <p>特に医師不足が顕著な産科については、上記に加え、寄附講座の更なる活用や令和5年度の入学試験から導入した産科従事枠の学生を育成すること等により、医師確保に努める。</p>	<p>地域医療機関からの医師派遣要請を一元的に取りまとめ、14医療機関85名の要請について各医療機関を訪問し、必要性の有無の判断材料とするため要請理由等を聞き取った。また、要請の多かった本学講座には診療科長に対しヒアリングを実施、人員状況等を確認した。その上で、ヒアリング内容を医師適正配置検討委員会にて共有し、事前情報を踏まえて医師不足地域での必要性という観点から審議した上で、7医療機関に15名を配置した(前年度実績12名から3名増)。</p> <p>県民医療枠医師及び地域医療枠・近大和歌山県枠・自治医大医師を医師不足の県内公的医療機関に派遣している。令和6年度は県民医療枠医師64名、地域医療枠・近大和歌山県枠・自治医大医師41名を派遣した。</p> <p>医師不足により指導医が少ない県内公立病院に対して、本学の指導医がローテーションで出向する仕組み(地域医療学講座)を運用し、地域医療の充実と若手医師の指導を行っている。令和6年度は公立那賀病院1名、有田市立病院2名、和歌山病院1名、新宮市立医療センター2名の計6名を派遣した。</p> <p>令和元年から「くろしお寄附講座」を開設し、医師不足にある県内公的病院に対し、大学教員と病院の医師を兼務した形での医師配置を行っている。令和6年度は海南医療センター(眼科)1名、有田市立病院(耳鼻咽喉科)1名、済生会有田病院(耳鼻咽喉科)1名、紀南病院(循環器科)1名、新宮市立医療センター(眼科)1名の5名を派遣した。</p> <p>県の研修資金貸与制度について、面談時や説明会時に積極的に広報活動を行っている。令和6年度利用件数は、産科5件、小児科1件。</p> <p>令和5年度より導入された県民医療枠Bの1~2年生5名、及び県民医療枠Cの1~2年生のうち希望者2名を対象に、県内公的病院の産科での夏季実習を実施した。また、医局説明会等への参加や地域医療枠等医師との交流の機会を設け、1年次から産科に従事する者としての意識の涵養を行った。</p> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p>		III	63																					

	<p>《指標1》 医師配置状況調査における県内公的医療機関医師配置数 基準値：470名(R5年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>477名</td> <td>484名</td> <td>491名</td> <td>498名</td> <td>505名</td> <td>512名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>467名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記R6年度実績について、地域医療枠・近大和歌山県枠・自治医大医師41名を加えた場合の配置実績は508名</p> <p>【地域医療支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	477名	484名	491名	498名	505名	512名	実績	467名	名	名	名	名	名																								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																									
目標値	477名	484名	491名	498名	505名	512名																																									
実績	467名	名	名	名	名	名																																									
<p>(2) 県が定めた地域医療構想に基づき、附属病院及び紀北分院が各構想区域内で、病床機能の分化・連携を推進し、それぞれが担う役割を全うする。更に、大学本来の使命の一つとして、医師の育成・確保に取り組みとともに、地域への適正な医師派遣を実施し、県内において安定した医療提供体制を堅持する。</p>	<p>カ 【地域医療構想に基づく附属病院・紀北分院の役割】 県が定める地域医療構想を踏まえ、附属病院は特定機能病院かつ高度救命救急センターとして、二次医療圏を超えた重症患者の受入れや先進医療の提供等、全県的な高度急性期機能を担い、紀北分院は地域に密着した病院として、地域における救急受入れや在宅医療の後方支援等、地域医療に貢献する。</p> <p>《指標1》 高度かつ先進的な医療の提供数(※) 基準値：39,952件(R4年度) ※手術件数、放射線治療件数、内視鏡治療件数、薬物療法センターの延べ患者数、分娩件数の合計</p> <p>《指標2》 病院群輪番制当直に係る患者受入割合 基準値：90.4%(H30年度)</p>	<p>県内唯一の特定機能病院として、二次医療圏を越えた重症患者の受入れや先進医療の提供等、全県的な高度急性期機能を担うことが出来た。</p> <p>【経理課】</p> <p>在宅医療の後方支援として、地域の医療介護施設からの紹介を積極的に受けた。紹介患者1,877人のうち32%の患者を入院で診療した。当日の救急紹介も依頼されたうちの83%である94人を診療し、うち50%を入院で診療した。また、一次救急・二次救急の受け入れや病院輪番制への参画を積極的に行い、令和6年度については救急を1,601件受け入れており、コロナ禍以前の平成30年度1,559件、令和元年1,661件と同水準となっている。</p> <p>【紀北分院】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">人口減少が進む中、令和4年度の手術・治療件数を維持</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>42,621件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【経理課】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> <td>90.4%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>90.6%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	人口減少が進む中、令和4年度の手術・治療件数を維持						実績	42,621件	件	件	件	件	件		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	実績	90.6%	%	%	%	%	%		III	64
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																									
目標値	人口減少が進む中、令和4年度の手術・治療件数を維持																																														
実績	42,621件	件	件	件	件	件																																									
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																									
目標値	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%																																									
実績	90.6%	%	%	%	%	%																																									
<p>(3) 遠隔医療支援システム等の活用や診療情報の共有などにより、地域の医療機関との連携を推進する。</p>	<p>キ 【遠隔医療支援システム等】 県及び地域の医療機関と連携しながら、遠隔医療支援システムを活用した遠隔外来等を推進するとともに、ICTを活用した遠隔救急支援システムの推進により、救急医療の充実と効率化を図り、県内救急医療機関の連携を強化する。 また、青洲リンクの更なる活用を図り、診療情報の共有による医療機関の連携を推</p>	<p>令和元年度に公立の2次救急医療機関等13病院に導入した汎用画像診断装置用プログラム「Join」を活用した遠隔救急支援システムにより、患者画像を事前に共有することで救急患者の手術等の受入体制を迅速に整えることが可能となり、患者の処置開始を60分以上短縮できた事例や、不要不急な搬送を抑止するなど、患者の救命や医師の負担軽減につながる事例が報告された。令和5年度より、へき地医療拠点病院等に派遣されている義務年限内の地域枠医師が利用できるよう対象を拡大し、一層の活用を推し進めている。</p> <p>【地域医療支援センター】</p>	<p>《指標1》、《指標2》及び《指標5》が目標値を下回ったため。</p>	II	65																																										

<p>進する。</p>	<p>青洲リンクの活用について継続的に広報や医療機関への働きかけを行うことで、青洲リンク参加医療機関及び同意患者数、PHR 登録者数において堅調に増加している。</p> <p style="text-align: right;">【情報基盤統括センター】</p>																								
<p>《指標 1》 遠隔外来利用件数 基準値：67 件(R5 年度見込み)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>72 件</td> <td>77 件</td> <td>82 件</td> <td>87 件</td> <td>92 件</td> <td>97 件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>10 件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	72 件	77 件	82 件	87 件	92 件	97 件	実績	10 件	件	件	件	件	件			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	72 件	77 件	82 件	87 件	92 件	97 件																			
実績	10 件	件	件	件	件	件																			
<p>《指標 2》 遠隔救急支援システム利用件数 基準値：253 件(R4 年度)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>329 件</td> <td>367 件</td> <td>405 件</td> <td>443 件</td> <td>481 件</td> <td>519 件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>254 件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【地域医療支援センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	329 件	367 件	405 件	443 件	481 件	519 件	実績	254 件	件	件	件	件	件			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	329 件	367 件	405 件	443 件	481 件	519 件																			
実績	254 件	件	件	件	件	件																			
<p>《指標 3》 青洲リンクの参加施設の増加数 基準値：170 施設(H25-R4 年度の累計)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>1 施設以上</td> <td>1 施設以上</td> <td>1 施設以上</td> <td>1 施設以上</td> <td>1 施設以上</td> <td>1 施設以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2 施設</td> <td>施設</td> <td>施設</td> <td>施設</td> <td>施設</td> <td>施設</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【情報基盤統括センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1 施設以上	実績	2 施設	施設	施設	施設	施設	施設								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	1 施設以上	1 施設以上	1 施設以上	1 施設以上	1 施設以上	1 施設以上																			
実績	2 施設	施設	施設	施設	施設	施設																			
<p>《指標 4》 青洲リンクの同意患者の増加数 基準値：2,000 人(H25-R4 年度の累計)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>311 人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【情報基盤統括センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	250 人以上	実績	311 人	人	人	人	人	人								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	250 人以上	250 人以上	250 人以上	250 人以上	250 人以上	250 人以上																			
実績	311 人	人	人	人	人	人																			
<p>《指標 5》 青洲リンクの PHR 登録者の増加数 基準値：562 人(H25-R4 年度の累計)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> <td>250 人以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>185 人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績とは別に、PHR 登録待ちの申請者は 122 人となっている</p> <p style="text-align: right;">【情報基盤統括センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	250 人以上	実績	185 人	人	人	人	人	人								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	250 人以上	250 人以上	250 人以上	250 人以上	250 人以上	250 人以上																			
実績	185 人	人	人	人	人	人																			

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

4 地域の活性化に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-3)(IV-0)】
--------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																					
(1) 県民に生涯学習の機会を提供し、健康福祉の向上への意識高揚に努める。	ア 【研究成果の情報提供】 県民及び地域医療関係者に対して継続的に医学、薬学及び保健看護学の最新の研究成果等の情報を提供する。	健康への関心の向上と、最新の医療情報を提供するため、県民向けの「最新の医学・医療カンファレンス」を対面またはオンラインにより開催した。また、本学の研修医と県内の医師が共に学び、情報交換を行うことを目的に地域医療関係者向けの「臨床・病理カンファレンス」を開催した。  【総務課】		III	66																					
	<<指標1>> 最新の医学・医療カンファレンス開催回数 基準値：10回(R4年度)	<table border="1" data-bbox="824 847 1697 951"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>10回</td> <td>10回</td> <td>10回</td> <td>10回</td> <td>10回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>10回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> 【総務課】		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	10回	10回	10回	10回	10回	10回	実績	10回	回	回	回	回	回			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	10回	10回	10回	10回	10回	10回																				
実績	10回	回	回	回	回	回																				
<<指標2>> 臨床・病理カンファレンス開催回数 基準値：1回(R4年度)	<table border="1" data-bbox="824 1043 1697 1147"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> 【総務課】		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回	実績	1回	回	回	回	回	回				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回																				
実績	1回	回	回	回	回	回																				
(1) 県民に生涯学習の機会を提供し、健康福祉の向上への意識高揚に努める。	イ 【生涯教育】 医学、薬学及び保健看護学に対する関心の向上並びに予防医学の普及を図るため、県民に対する出前授業等を開催し、生涯教育の啓発を推進する。	県内の小・中学校及び高校生を対象に、学生の医学、保健看護学、薬学に対する関心を高めることを目的に出前授業を実施した。  病気の早期発見や健康づくりに関する普及啓発を行い伊都橋本地域住民の健康への理解が深まった。  【紀北分院】		III	67																					

	<<指標1>> 出前授業開催回数 基準値：32回(H30年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>32回</td> <td>32回</td> <td>32回</td> <td>32回</td> <td>32回</td> <td>32回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>41回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	32回	32回	32回	32回	32回	32回	実績	41回	回	回	回	回	回			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
	目標値	32回	32回	32回	32回	32回	32回																			
実績	41回	回	回	回	回	回																				
<<指標2>> 健康講座の開催回数 基準値：12回(H30年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>12回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	12回	12回	12回	12回	12回	12回	実績	12回	回	回	回	回	回				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	12回	12回	12回	12回	12回	12回																				
実績	12回	回	回	回	回	回																				
<<指標3>> 出前講座の開催回数 基準値：28回(H30年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>28回</td> <td>30回</td> <td>32回</td> <td>32回</td> <td>32回</td> <td>32回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>12回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	28回	30回	32回	32回	32回	32回	実績	12回	回	回	回	回	回				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	28回	30回	32回	32回	32回	32回																				
実績	12回	回	回	回	回	回																				
(2) 医療系総合大学の特性をいかし、県及び市町村等が実施するプロジェクトに参画することにより、地域課題の解決に取り組む。	ウ 【地域の取組への参画】 医療系総合大学としての人的・技術的資源をいかし、県等の取組に参画することにより、医療・保健・福祉の充実に寄与する。 <<指標1>> 県の医療計画等の策定に係る議論への参画	地域医療構想調整会議（和歌山市保健医療圏構想区域）に構成員として参画し、病床機能区分等について協議を行った。 <p style="text-align: right;">【経理課・医事課】</p>		III	68																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>—</td> <td>           地域医療構想の改定に係る協議             （注：構想の推進に係る協議は毎年度実施）         </td> <td>           保健医療計画等の改定に係る協議             ・保健医療計画（中間見直し）            ・医師確保計画            ・薬剤師確保計画         </td> <td>—</td> <td>—</td> <td>           保健医療計画等の改定に係る協議             ・保健医療計画            ・医師確保計画            ・薬剤師確保計画            ・がん対策推進計画            ・循環器病対策推進計画         </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経理課・医事課】</p>		R6				R7	R8	R9	R10	R11	目標値	—	地域医療構想の改定に係る協議  （注：構想の推進に係る協議は毎年度実施）	保健医療計画等の改定に係る協議  ・保健医療計画（中間見直し） ・医師確保計画 ・薬剤師確保計画	—	—	保健医療計画等の改定に係る協議  ・保健医療計画 ・医師確保計画 ・薬剤師確保計画 ・がん対策推進計画 ・循環器病対策推進計画									
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	—	地域医療構想の改定に係る協議  （注：構想の推進に係る協議は毎年度実施）	保健医療計画等の改定に係る協議  ・保健医療計画（中間見直し） ・医師確保計画 ・薬剤師確保計画	—	—	保健医療計画等の改定に係る協議  ・保健医療計画 ・医師確保計画 ・薬剤師確保計画 ・がん対策推進計画 ・循環器病対策推進計画																				

第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 法人運営の強化に関する目標を達成するための措置	進捗評定	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-2)(IV-0)】
---------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号										
<p>(1) 理事長のリーダーシップのもと、課題解決に取り組むとともに、中長期的な視点に立ち、戦略的かつ安定的な法人運営を行う。</p>	<p>ア 【ガバナンス体制】 理事長のリーダーシップを発揮するため、組織全体の問題意識の共有を図り、理事長を中心とした運営管理体制の強化を図る。</p>	<p>理事会、経営審議会、教育研究審議会等を定期的開催し、法人経営の適切な進行管理を行うほか、課題解決に向け、意見交換するなど健全な経営管理に努めている。</p> <p>【総務課】</p>		III	69										
	<p>《指標1》 問題意識の共有</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">理事会、経営審議会、教育研究審議会の開催</td> </tr> </tbody> </table> <p>各会議を必要に応じ実施できている。</p> <p>【令和6年度実績】 理事会 11回、経営審議会 3回、教育研究審議会 12回</p> <p>【総務課】</p>					R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	理事会、経営審議会、教育研究審議会の開催	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11									
目標値	理事会、経営審議会、教育研究審議会の開催														
<p>(2) 法人運営、教育、研究、診療に係る組織の機能強化を図るとともに、中期計画を実現するための個別の計画を策定し、常に点検を行うことにより、法人機能を強化し、機動的、戦略的かつ安定的な法人運営に努める。</p>	<p>イ 【中期計画の進捗管理体制の構築】 評価指標を活用した中期計画の自己点検・評価の仕組みを構築・実施し、結果を公表する。 また、経営計画等の個別計画について、着実に実行する。</p>	<p>第4期中期計画において、分野毎に進捗管理者を設定し、自己点検・評価体制を構築した。</p> <p>収入の8割を占め、昨今の人件費の上昇や物価高騰による診療経費の増加により厳しい状況におかれている、病院事業の収支改善を図るため、病院経営改善実行計画（アクションプラン）の策定を行い、経営改善のための具体的な行動について明確化するなどし、赤字幅の縮小につなげた。</p> <p>【経営企画課】</p>		III	70										
	<p>《指標1》 評価指標を活用した中期計画の自己点検・評価体制の構築及び実施</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>自己点検・評価体制の構築</td> <td colspan="5">自己点検・評価を各年度1回以上実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>第4期中期計画において、分野毎に進捗管理者を設定し、自己点検・評価体制を構築した。</p> <p>【経営企画課】</p>					R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	自己点検・評価体制の構築	自己点検・評価を各年度1回以上実施
	R6	R7	R8	R9	R10	R11									
目標値	自己点検・評価体制の構築	自己点検・評価を各年度1回以上実施													

第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

2 人事の適正化・人材育成等に関する目標を達成するための措置	進捗評定	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-7)(IV-0)】
--------------------------------	------	-------------	--------------------------------------

(1) 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																																																								
法人運営を効率的かつ安定的に行うため、法人全体の中長期的な人事計画を策定し、業務の質を落とすことなく適正な人事管理を行う。	<p>【教職員の定数管理】 教職員の定数管理を強化するとともに、非常勤職員の適正配置等に取り組むことにより、人件費の適正化を図る。</p> <p>《指標1》 定数管理の強化</p>	<p>教職員の採用は、令和6年度から始まった経営計画における定員管理計画に基づき実施するとともに、各所属の要望も聴きながら非常勤職員の配置を行うなど、適正配置に努めた。また、非常勤職員については、予算管理に努めることにより人件費の適正化を図ることとした。</p> <p style="text-align: right;">【総務課】</p> <table border="1" data-bbox="826 759 1695 818"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">定員管理計画に基づき適正に定数管理を実施</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="826 844 1579 1051"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>443</td> <td>401</td> <td>管理栄養士</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>看護職員</td> <td>906</td> <td>852</td> <td>理学療法士</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>63</td> <td>60</td> <td>作業療法士</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>56</td> <td>52</td> <td>言語聴覚士</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>49</td> <td>47</td> <td>事務・技術職員</td> <td>156</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>44</td> <td>30</td> <td>その他</td> <td>87</td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	定員管理計画に基づき適正に定数管理を実施							目標値	実績値		目標値	実績値	教員	443	401	管理栄養士	10	10	看護職員	906	852	理学療法士	40	40	薬剤師	63	60	作業療法士	15	14	臨床検査技師	56	52	言語聴覚士	8	8	診療放射線技師	49	47	事務・技術職員	156	152	臨床工学技士	44	30	その他	87	77		III	71
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																																							
目標値	定員管理計画に基づき適正に定数管理を実施																																																												
	目標値	実績値		目標値	実績値																																																								
教員	443	401	管理栄養士	10	10																																																								
看護職員	906	852	理学療法士	40	40																																																								
薬剤師	63	60	作業療法士	15	14																																																								
臨床検査技師	56	52	言語聴覚士	8	8																																																								
診療放射線技師	49	47	事務・技術職員	156	152																																																								
臨床工学技士	44	30	その他	87	77																																																								

(2) 人材確保及び人材育成に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																	
ア. 法人経営、病院経営を担う人材の計画的な育成、確保及び教職員の経営マインドの醸成を図ることにより、経営の安定化を図る。	<p><b>ア 【法人経営に関する人材育成】</b> 法人経営や病院経営に資する職員を育成するため、国、県、他法人への職員派遣や研修、公正な人事評価を実施するとともに、意思決定過程へ積極的に参画させることにより、職員の能力・資質向上や経営マインドの醸成を図る。</p>	<p>職員派遣については、文部科学省及び和歌山県へ毎年1名を派遣し、その実務経験を本学での職務遂行に活かしている。また、職員研修については、法人独自の階層別研修に加え、県の管理者研修、課長補佐研修及び特別研修、日本能率協会が実施するSD研修等を活用し、事務・技術職員においては、一定数の研修受講を主査への昇任要件とするなど幅広い分野において職員の能力開発を進めている。</p> <p>なお、SD研修については、日本能率協会が実施するものに加え、令和6年度から公立大学協会が実施する医学教育部門の研修も実施しており、160名が受講した。</p> <p>&lt;R6実績&gt; 県研修受講者23名、SD研修（日本能率協会主催）47名</p>	【総務課】	III	72																	
	<p>≪指標1≫ 外部研修受講者数(県職員研修、日本能率協会SD研修) 基準値：59名(県研修9名、SD研修50名)(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>60名</td> <td>60名</td> <td>60名</td> <td>60名</td> <td>60名</td> <td>60名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>70名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> <td>名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【総務課】</p>					R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	60名	60名	60名	60名	60名	60名	実績	70名	名
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																
目標値	60名	60名	60名	60名	60名	60名																
実績	70名	名	名	名	名	名																
イ. 財務、広報、研究戦略、法令遵守、国際交流、教学マネジメントなどの分野において、専門的な能力を備えた人材の配置を行う。	<p><b>イ 【専門分野に関する人材育成】</b> 財務、広報、研究戦略等の専門的な能力を有する人材を配置するため、長期的な視野に立ったOJTや専門研修の受講支援などによる人材育成、外部人材の確保等を推進する。</p>	<p>専門看護師資格等の取得を目指す職員に対し、講習会受講料等を助成した。また、医師の働き方改革の実現に向け、タスク・シフトに係る研修の受講費用を助成し、専門的な知識や技能の取得を支援した。</p> <p>なお、外部人材の確保については、平成30年度から研究戦略への対応のためURAを配置している。</p>	【総務課】	III	73																	
	<p>≪指標1≫ 資格取得助成件数 基準値：8件(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>8件</td> <td>8件</td> <td>8件</td> <td>8件</td> <td>8件</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>13件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【総務課】</p>					R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	8件	8件	8件	8件	8件	8件	実績	13件	件
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																
目標値	8件	8件	8件	8件	8件	8件																
実績	13件	件	件	件	件	件																
ウ. 法人の意思決定や経営戦略等の立案過程への男女共同参画を積極的	<p><b>ウ 【男女共同参画】</b> 男女共同参画の観点から、評価制度による公正な能力評価に基づき、適性を有する職員が法人の意思決定や経営戦略等の立案過程に参画することを促進する。</p>	<p>職員の評価については、県の人事評価制度に準じた評価制度を導入し、能力に基づき公正に行っている。また、女性活躍推進法に基づき策定した行動計画において、「適性をもつ職員の意思決定や経営戦略等の立案過程への参画を促進するため、管理職に占める女性の割合を30%に近づける」ことを目標に取り組を行った。</p>	【総務課】	III	74																	

	<<指標 1>> 女性管理職の割合 基準値：28.8%(R5 年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>35.3%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table>							R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	実績	35.3%	%	%	%	%	%	【総務課】			
			R6	R7	R8	R9	R10	R11																								
		目標値	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%																								
実績	35.3%	%	%	%	%	%																										
※R6 年度の実績は R7 年 4 月 1 日時点の数値																																

(3) 労働環境の向上に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	令和 6 年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																					
ア. 出産、育児、介護などライフステージに応じた生活が安心して送れるよう、働き方改革による「タスクシェア・タスクシフト」などの業務体制の見直しによる長時間労働の是正や柔軟な働き方を支える制度整備により、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進し、法人が一丸となって働く意欲が高まる職場環境を実現する。	<b>【職場環境の整備】</b> 裁量労働制の実施などにより柔軟な働き方を支援するとともに、院内保育園の利用促進や短時間勤務制度の活用により、職員の子育てや介護への支援、女性職員へのキャリア継続支援を行う。 また、全職員に対して職務や勤務環境に関する満足度の調査を行い、働きやすさの阻害要因を分析し、関係所属と連携して離職防止等の対策を講じるなど、職員が意欲をもって継続的に働くことができる職場づくりに取り組む。	裁量労働制については、教育及び研究に携わっている一部の教員を対象に実施している。また、育児短時間勤務制度など柔軟な働き方や院内保育所の活用を学内ホームページで周知するなど、子育てや介護、仕事の両立を支援した。加えて、所属長会や所属長ヒアリングにおいて、年次有給休暇の取得促進や、時間外労働の縮減に向けた取組の徹底を促した。  <b>【総務課】</b>		III	75																					
	<<指標 1>> 裁量労働制の実施	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">裁量労働制の運用</td> </tr> <tr> <td colspan="7">147名の教員が裁量労働制を適用</td> </tr> </tbody> </table> <b>【総務課】</b>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	裁量労働制の運用						147名の教員が裁量労働制を適用									
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	裁量労働制の運用																									
147名の教員が裁量労働制を適用																										
<<指標 2>> 男性による1週間以上の育児休業取得率 基準値：8.0%(R4 年度)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>20.0%</td> <td>30.0%</td> <td>35.0%</td> <td>40.0%</td> <td>45.0%</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>41.1%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <b>【総務課】</b>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	20.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%	実績	41.1%	%	%	%	%	%				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	20.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%																				
実績	41.1%	%	%	%	%	%																				

	<<指標3>> 離職率（看護職員を除く職員） 基準値：6.0%（R4年度）	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>5.8%</td> <td>5.6%</td> <td>5.4%</td> <td>5.3%</td> <td>5.2%</td> <td>5.1%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>7.8%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	5.8%	5.6%	5.4%	5.3%	5.2%	5.1%	実績	7.8%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	5.8%	5.6%	5.4%	5.3%	5.2%	5.1%																				
実績	7.8%	%	%	%	%	%																				
	<<指標4>> 離職率（看護職員） 基準値：11.9%（R4年度）	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>10.0%</td> <td>9.5%</td> <td>9.0%</td> <td>8.5%</td> <td>8.0%</td> <td>7.5%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>9.3%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	10.0%	9.5%	9.0%	8.5%	8.0%	7.5%	実績	9.3%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	10.0%	9.5%	9.0%	8.5%	8.0%	7.5%																				
実績	9.3%	%	%	%	%	%																				
ア. 出産、育児、介護などライフステージに応じた生活が安心して送れるよう、働き方改革による「タスクシェア・タスクシフト」などの業務体制の見直しによる長時間労働の是正や柔軟な働き方を支える制度整備により、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進し、法人が一丸となって働く意欲が高まる職場環境を実現する。	イ 【働き方改革の推進】 労働環境の改善のため、タスク・シフト／シェア等を含め業務の見直しを進める。また、勤怠管理システムにより適切に教職員の勤務時間を管理し、年次有給休暇の取得促進や時間外労働の縮減を促すなど、労働環境の改善に向けた取組を行う。	令和6年度より、労働環境改善のため、看護部から臨床工学技師へのタスク・シフト／シェアを実施している。 また、教職員の労働時間の状況を適切に把握するため、勤怠管理システムへの適切な入力について周知指導を行うとともに、教職員の健康確保措置を確実に実施するため、裁量労働制の導入、変形労働時間制の導入に伴う勤務時間の割り振りの検討等を行うことで時間外労働の縮減を促すとともに、年次有給休暇の取得促進に係る通知を行うなど、労働環境の改善に向けた取組を行っている。 <p style="text-align: right;">【総務課】</p>		III	76																					
	<<指標1>> 医師の時間外・休日労働時間の削減 基準値：372,054時間（R4年度）	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>348,610 時間 (令和4年度 比23,444時 間の削減)</td> <td>341,147 時間 (令和4年度 比30,907時 間の削減)</td> <td>333,684 時間 (令和4年度 比38,370時 間の削減)</td> <td>326,221 時間 (令和4年度 比45,833時 間の削減)</td> <td>318,759 時間 (令和4年度 比53,295時 間の削減)</td> <td>311,296 時間 (令和4年度 比60,758時 間の削減)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>313,607 時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> <td>時間</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	348,610 時間 (令和4年度 比23,444時 間の削減)	341,147 時間 (令和4年度 比30,907時 間の削減)	333,684 時間 (令和4年度 比38,370時 間の削減)	326,221 時間 (令和4年度 比45,833時 間の削減)	318,759 時間 (令和4年度 比53,295時 間の削減)	311,296 時間 (令和4年度 比60,758時 間の削減)	実績	313,607 時間	時間	時間	時間	時間	時間			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	348,610 時間 (令和4年度 比23,444時 間の削減)	341,147 時間 (令和4年度 比30,907時 間の削減)	333,684 時間 (令和4年度 比38,370時 間の削減)	326,221 時間 (令和4年度 比45,833時 間の削減)	318,759 時間 (令和4年度 比53,295時 間の削減)	311,296 時間 (令和4年度 比60,758時 間の削減)																				
実績	313,607 時間	時間	時間	時間	時間	時間																				
	<<指標2>> 年次有給休暇取得日数 基準値：8.7日（R4年度）	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>9日</td> <td>10日</td> <td>11日</td> <td>12日</td> <td>13日</td> <td>14日</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>9日</td> <td>日</td> <td>日</td> <td>日</td> <td>日</td> <td>日</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	9日	10日	11日	12日	13日	14日	実績	9日	日	日	日	日	日			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	9日	10日	11日	12日	13日	14日																				
実績	9日	日	日	日	日	日																				

イ. 安全かつ安心な職場環境を確保するため、労働災害等の防止や安全衛生管理体制の強化及び安全教育の充実を図る。	ウ 【安全な職場環境の推進】 健康診断、ストレスチェック及びワクチン接種の実施や多様な勤務形態を充実することにより、教職員の健康の保持増進、良好な職場環境の維持に努める。	各種健康診断は、未受診者には、受診勧奨又は文書報告を求めるなど未受診者対策を積極的に行った結果、雇入時健診と定期健康診断の受診率 100%を達成した。 健診結果を産業医と共有・協議し、職員の健康状態の把握、健康管理を行った。 ストレスチェックを実施し、高ストレス者面談や集団分析結果を各所属長に情報共有することにより、職場環境改善に取り組んだ。 各種ワクチン接種については、B型肝炎ワクチンなどを、対象者全員に接種完了させた。 【総務課】	III	77																		
	<指標 1> 定期健康診断受診率(※) 基準値：100%(R4 年度) ※病休、育休等の休職職員及び学外への派遣職員等を除く	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> 【総務課】				R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																
実績	100%	%	%	%	%	%																

第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-2)(IV-0)】
-------------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
法人運営と教学双方に精通した、高度で専門性を有する事務局組織を構築し、教育、研究、診療に係る機能の一層の充実を図る。更に、業務運営全般及び組織体制を見直すとともに、DXの推進により、法人全体における業務の効	ア 【組織・業務の見直し】 会計事務のデジタル化をはじめ、法人全体のDX等の取組を推進するとともに、法人がより一層効果的かつ効率的に機能するため、業務実態調査に基づき、組織体制の見直しを行う。 また、大学運営に喫緊の課題が生じた場合には、組織横断型プロジェクトチームを立ち上げるなどにより、迅速な対応を行う。	管理者だけでなく、職員自身が労働時間の把握を随時行えるよう、令和6年度から勤怠管理システム導入し、適切な労働時間管理に努めている。 【総務課】  法人全体の会計事務の効率化を目的にシステムの構築作業を進めた。引き続き、システム稼働に向けた取組を進める。  【効率化・システム導入の概要】 ①購買管理システム 購買管理システム等の導入による物品・役務・工事に関する要求、見積依頼、入札、契約、発注、検収、請求などの一連の業務の効率化 ②経費精算システム		III	78

<p>率化、合理化に取り組む。</p>	<p>経費精算システム等の導入による旅費執行、立替払の一連の業務の効率化</p> <p>③ワークフローシステム          決裁文書の電子化や文書の電子保存による業務の効率化</p> <p>④財務会計システム（改修）          導入する各システムとの自動連携機能の追加</p> <p>⑤経営管理システム          予算編成のシステム化や予算使用状況をユーザ自身で確認できるようにすることによる業務の効率化</p> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>																									
<p>法人運営と教学双方に精通した、高度で専門性を有する事務局組織を構築し、教育、研究、診療に係る機能の一層の充実を図る。更に、業務運営全般及び組織体制を見直すとともに、DXの推進により、法人全体における業務の効率化、合理化に取り組む。</p>	<p>イ 【効率的な情報利活用環境の整備】          学内外の様々な情報を適切かつ効率的に利活用できる環境の検証と整備を行う。</p> <p>《指標1》          学認連携している本学から利用可能な電子ジャーナルの版元の割合          基準値：0% (R4年度)</p>	<p>学内外の様々な情報を適切かつ効率的に利活用できる環境の検証と整備を行うため、学認連携している電子ジャーナルの版元について、個別に対応を実施してきた。現在、全ての版元を束ねるSP（サービスプロバイダー）との連携が可能となるように調整している。</p> <p style="text-align: right;">【情報基盤統括センター】</p>			<p style="text-align: center;">III</p> <p style="text-align: right;">79</p>																					
<p>《指標1》          会計事務に係る業務時間数          基準値：104,813時間 (R4年度)</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">80,724 時間 (令和4年度 比24,089時 間の削減)</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">68,680 時間 (令和4年度 比36,133時 間の削減)</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">時間</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">時間</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	—	—	80,724 時間 (令和4年度 比24,089時 間の削減)	—	68,680 時間 (令和4年度 比36,133時 間の削減)	—	実績	—	—	時間	—	時間	—			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	—	—	80,724 時間 (令和4年度 比24,089時 間の削減)	—	68,680 時間 (令和4年度 比36,133時 間の削減)	—																				
実績	—	—	時間	—	時間	—																				
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td style="text-align: center;">50%</td> <td style="text-align: center;">70%</td> <td style="text-align: center;">90%</td> <td style="text-align: center;">90%</td> <td style="text-align: center;">90%</td> <td style="text-align: center;">90%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">25%</td> <td style="text-align: center;">%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【情報基盤統括センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	50%	70%	90%	90%	90%	90%	実績	25%	%	%	%	%	%			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	50%	70%	90%	90%	90%	90%																				
実績	25%	%	%	%	%	%																				

第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 財務内容の健全化に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-1)(IV-0)】
----------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																					
法人運営に公的資金が投入されていることを踏まえ、健全な法人運営を行うために策定した経営計画を着実に実行するとともに、適切な財務分析に基づく検証と見直しにより、運営基盤の強化を図る。	<p>【健全な法人運営の実施】</p> <p>法人運営を持続可能なものとし、地域貢献を推進するため、経営計画に基づき、必要な投資や事業を実施するとともに、投資効率の評価や事業効果の分析、部門別管理会計の実施等による効果的な経営管理を推進することにより、経営基盤の強化を図る。</p>	<p>収支に大きな比重を占める病院経営について、病院経営改善実行計画（アクションプラン）を実施するとともに、必要な投資や事業を精査した結果、病院収益の増加、経費の抑制につながり、経常利益が中期計画の値から改善した。</p> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>		III	80																					
	<p>《指標1》</p> <p>経常利益 基準値：9.4億円(R4年度) ※経営計画に基づいて積算した値を計画値として設定</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画値</td> <td>▲16.9 億円</td> <td>▲17.0 億円</td> <td>▲19.0 億円</td> <td>▲23.6 億円</td> <td>▲20.8 億円</td> <td>▲31.1 億円</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>▲12.6 億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>					R6	R7	R8	R9	R10	R11	計画値	▲16.9 億円	▲17.0 億円	▲19.0 億円	▲23.6 億円	▲20.8 億円	▲31.1 億円	実績	▲12.6 億円	億円	億円	億円	億円	億円
		R6				R7	R8	R9	R10	R11																
計画値	▲16.9 億円	▲17.0 億円	▲19.0 億円	▲23.6 億円	▲20.8 億円	▲31.1 億円																				
実績	▲12.6 億円	億円	億円	億円	億円	億円																				
<p>《指標2》</p> <p>固定長期適合率 基準値：80.3%(R4年度) ※経営計画に基づいて積算した値を計画値として設定</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画値</td> <td>87.4%</td> <td>90.2%</td> <td>91.9%</td> <td>94.9%</td> <td>96.9%</td> <td>99.9%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>86.1%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	計画値	87.4%	90.2%	91.9%	94.9%	96.9%	99.9%	実績	86.1%	%	%	%	%	%				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
計画値	87.4%	90.2%	91.9%	94.9%	96.9%	99.9%																				
実績	86.1%	%	%	%	%	%																				
<p>《指標3》</p> <p>固定資産回転率 基準値：0.7(R4年度) ※経営計画に基づいて積算した値を計画値として設定</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画値</td> <td>0.7</td> <td>0.7</td> <td>0.7</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0.78</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	計画値	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	実績	0.78									
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
計画値	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6																				
実績	0.78																									

<<指標4>> ROIC 基準値：1.3%(R4年度) ※経営計画に基づいて積算した値を計画値として設定	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>計画値</td> <td>▲2.4%</td> <td>▲2.3%</td> <td>▲2.6%</td> <td>▲3.2%</td> <td>▲2.7%</td> <td>▲4.2%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>▲1.9%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	計画値	▲2.4%	▲2.3%	▲2.6%	▲3.2%	▲2.7%	▲4.2%	実績	▲1.9%	%	%	%	%	%			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																		
計画値	▲2.4%	▲2.3%	▲2.6%	▲3.2%	▲2.7%	▲4.2%																			
実績	▲1.9%	%	%	%	%	%																			
<<指標5>> 部門別管理会計の導入及び予実分析の実施 ※経営計画に基づいて積算した値を計画値として設定	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>計画値</td> <td>システム構築運用開始</td> <td colspan="5">システムを運用し、予実分析を実施</td> </tr> </table> <p>令和6年度はシステムの構築を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	計画値	システム構築運用開始	システムを運用し、予実分析を実施														
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
計画値	システム構築運用開始	システムを運用し、予実分析を実施																							

第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

2 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-0)(IV-1)】
---------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
寄附金、競争的研究費及び民間機関等との共同研究・受託研究等外部研究資金による収入の獲得に積極的に取り組む。	<b>【外部資金の獲得】</b> 科学研究費助成事業等を含む競争的研究費獲得や、企業との共同研究、受託研究及び治験等を推進する。 また、青洲基金を広く一般に周知し、寄附金募集を戦略的に行うことにより、外部資金の獲得を図る。	競争的資金の獲得に向けて、医学部、薬学部及び保健看護学部において「How to get 科研費セミナー」及び「若手研究者のための科研費セミナー」を開催し、科研費応募に係る事務手続きの説明とともに、科研費獲得のポイントと戦略について講義を行った（同時に配付資料の学内ホームページ掲載、セミナーの録画DVDの貸し出しを実施）。さらに、URA及び研究活動活性化委員会委員による科研費応募書類の作成支援を実施した。 また、企業との共同・受託研究の推進については、県内企業等からの共同研究等に関する問い合わせを受け、URAが研究者の検索を実施し、マッチングさせることで、産官学連携に取り組んできた。 <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p> 業務委託を行っている治験施設支援機関（SMO）からの情報収集をもとに、診療科に対して新規治験の紹介を行うとともに、臨床研究センターのホームページに最新の治験情報を	外部資金の獲得に係る指標は概ね目標を上回る実績をあげている。とりわけ<<指標2>>については外部評価により獲得できているものであるため、目標を上回っていることを評価した。	IV	81

		<p>掲載し、治験実施の推進と被験者確保に取り組んだ。</p> <p>また、紀州臨床研究ネットワーク (KiCS Network) 参画医療機関間での治験・臨床研究に関する情報の共有を図るため、疾病分野ごとのメーリングリストを設けるなど研究活性化支援に取り組んだ。</p> <p style="text-align: right;">【臨床研究センター】</p> <p>医学部同窓会員あてパンフレットを送付、保健看護学部同窓会ホームページへの案内掲載、附属病院内でのパンフレット設置、本学ホームページにて寄付者メッセージを掲載するなど、青洲基金の周知を継続して行っている。</p> <p>また、クラウドファンディングの実用化に向け、各種規程の整備やクラウドファンディングサービス事業者との契約締結を行い、外部資金獲得の体制を整えた。</p> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>																								
<p>《指標1》 企業との共同研究の実施件数 基準値：53件(R4年度)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> <td>53件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>52件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	53件	53件	53件	53件	53件	53件	実績	52件	件	件	件	件	件				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	53件	53件	53件	53件	53件	53件																				
実績	52件	件	件	件	件	件																				
<p>《指標2》 競争的研究費の獲得額 (科学研究費助成事業、AMED) 基準値：526,812千円(AMEDのR2-R4年度の単年度平均及び科研費のR5年度の実績の合計)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>531,022千円</td> <td>535,592千円</td> <td>539,982千円</td> <td>544,372千円</td> <td>548,762千円</td> <td>553,152千円</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>558,644千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	531,022千円	535,592千円	539,982千円	544,372千円	548,762千円	553,152千円	実績	558,644千円	千円	千円	千円	千円	千円				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	531,022千円	535,592千円	539,982千円	544,372千円	548,762千円	553,152千円																				
実績	558,644千円	千円	千円	千円	千円	千円																				
<p>《指標3》 治験実施症例件数 基準値：193件(R2-R4年度の単年度平均)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>195件</td> <td>197件</td> <td>199件</td> <td>201件</td> <td>203件</td> <td>205件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>224件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【臨床研究センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	195件	197件	199件	201件	203件	205件	実績	224件	件	件	件	件	件				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	195件	197件	199件	201件	203件	205件																				
実績	224件	件	件	件	件	件																				
<p>《指標4》 青洲基金の寄附件数(実件数) 基準値：62件(R4年度)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>64件</td> <td>66件</td> <td>68件</td> <td>70件</td> <td>72件</td> <td>74件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>70件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	64件	66件	68件	70件	72件	74件	実績	70件	件	件	件	件	件				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	64件	66件	68件	70件	72件	74件																				
実績	70件	件	件	件	件	件																				

第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

3 経費の抑制に関する目標を達成するための措置	評定評定	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-1)(IV-0)】
-------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																		
経費を継続的に見直すことにより、適切な予算編成を行い、経費の抑制に努める。	<p><b>【経費の抑制】</b>                      経営計画に基づいた教職員の定数管理や経費の上限値管理、事業効果の検証による効果的な経費の執行等の施策を実施し、経費の抑制に取り組む。                      また、電子入札システムの導入により入札の競争性を確保する。</p>	<p>経営計画に基づき、事業の必要性や積算の妥当性等を精査し、予算の必要性・妥当性を検証し、経費を抑制した。                      また、電子入札機能を備える購買管理システムの構築に取り組んだ（令和8年度運用開始予定）。</p> <p style="text-align: right;"><b>【経営企画課】</b></p> <p>各所属長が構成員の経営管理会議を月1回開催し、経営状況とその分析について情報共有を図り、診療の質の向上と経費の抑制を図る経営改善について検討を行った。</p> <p style="text-align: right;"><b>【紀北分院】</b></p>		III	82																		
	<p>≪指標1≫                      経費の上限値管理                      ※経営計画に基づいて積算した値を計画値として設定</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画値</td> <td colspan="6">第4期中期計画期間中を通して実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>計画値を元に、事業の必要性や積算の妥当性等を精査した。</p> <p style="text-align: right;"><b>【経営企画課】</b></p>				R6	R7	R8	R9	R10	R11	計画値	第4期中期計画期間中を通して実施										
		R6	R7			R8	R9	R10	R11														
計画値	第4期中期計画期間中を通して実施																						
<p>≪指標2≫                      人件費比率                      基準値：41.8%(R4年度)                      ※経営計画に基づいて積算した値を計画値として設定</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画値</td> <td>42.2%</td> <td>42.7%</td> <td>42.8%</td> <td>43.4%</td> <td>43.5%</td> <td>44.3%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>41.7%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;"><b>【経営企画課】</b></p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	計画値	42.2%	42.7%	42.8%	43.4%	43.5%	44.3%	実績	41.7%	%	%	%	%	%	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																	
計画値	42.2%	42.7%	42.8%	43.4%	43.5%	44.3%																	
実績	41.7%	%	%	%	%	%																	

第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

4 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置	評定評定	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-1)(IV-0)】
------------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																	
資産の状況を点検・把握し、適正な管理及び効率的、効果的な運用を図る。	<b>【資金運用及び資産管理】</b> 資金状況を常に把握するとともに、安全面に配慮しつつ、金融経済情勢の動向等を勘案しながら、債券の運用を含めた資金等の効果的かつ効率的な運用を行う。 また、土地・建物その他資産の管理を適切かつ効率的に実施し、資産価値の維持に努めるとともに、土地・建物の効果的な運用を推進し、法人経営の向上を図る。	資金状況を常に把握し、金融経済情勢の動向を勘案しながら、定期預金により安全に運用した。また、取得した債券での運用を引き続き行った。 <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p> 長期保全計画に基づき中央棟の空調改修、高度医療人育成センターの外壁等の工事を行った。 <p style="text-align: right;">【施設管理課】</p>	/	III	83																	
	<<指標1>> 資産運用による利息収入 基準値：48万円(R4年度)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;">R6</th> <th style="width: 10%;">R7</th> <th style="width: 10%;">R8</th> <th style="width: 10%;">R9</th> <th style="width: 10%;">R10</th> <th style="width: 10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>150万円</td> <td>150万円</td> <td>150万円</td> <td>150万円</td> <td>150万円</td> <td>150万円</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>814万円</td> <td>万円</td> <td>万円</td> <td>万円</td> <td>万円</td> <td>万円</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p>					R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	150万円	150万円	150万円	150万円	150万円	150万円	実績	814万円	万円
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																
目標値	150万円	150万円	150万円	150万円	150万円	150万円																
実績	814万円	万円	万円	万円	万円	万円																

第6 自己点検評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

1 評価の充実に係る目標を達成するための措置	進捗評定	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-2)(IV-0)】
------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
自己点検・評価、学生による評価、第三者評価等を実施し、教育研究活動の客観性及び透明性を高め、その評価結果を公表するとともに、法人運営の改善と活性化に反映させる。	<p>ア 【第三者評価の受審】</p> <p>第三者評価については、これまでの指摘事項に対する改善の進捗管理を徹底する一方、第三者評価の種類ごとに定められた自己点検・評価を適切に実施したうえで、計画的に受審する。</p> <p>また、これらの結果を公表することにより、法人業務の質の向上を図る。</p>	<p>機関別認証評価について、本学は令和4年度に（一社）大学教育質保証・評価センターより令和5年から令和11年までの認証を得ており、次回の受審は令和11年度の予定である。令和4年度に受審した際の結果については、学内に周知済みである。</p> <p style="text-align: right;">【経営企画課】</p> <p>（病院機能評価）</p> <p>本審査でC評価とされた6項目について令和6年4月に確認審査を受けたところ、そのうち3項目について改善要望項目とされたため病院長主体で抜本的な改善に取り組んだ上で令和7年2月に再審査を受審した（令和7年5月認定）。</p> <p>今後、本審査でC評価とされた6項目について令和7年11月頃改善審査を受審する必要があるため、同6項目について、重点的かつ抜本的な改善を引き続き実施する予定である。</p> <p style="text-align: right;">【経理課】</p> <p>医学教育分野別評価について、令和5年度11月14日から17日まで日本医学教育評価機構（JACME）からの対面調査を受審した。令和6年12月、期限付認定の結果に対し異議申し立てを行い、令和6年度中には結果は出なかったが、次回の受審対策として、令和6年度は職員SDの実施、学生課内SDの実施、IR部門の充実した活動の実績としてIR部門でのIRファクトシートの作成、PDCAサイクルの確立の実績として教育プログラム評価委員会医学部部会の開催、審議事項に関する医学部教務学生委員会規程および教育プログラム評価委員会医学部部会規程の一部改正、医学部教務学生委員会への学生委員の参加、新入生に対する使命カードの配布、FD研修会の6回開催等を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【医学部】</p> <p>一定水準以上の看護学教育プログラムを提供する大学として認められるため、令和6年度に、学部内に分野別教育評価担当者会議（議長：水田学部長）を設置し、自己点検とそれに伴う見直し作業を実施した。そして、公的評価機関である（一財）日本看護学教育評価機構に対し、3月末に「自己点検評価報告書」等の受審資料の提出を行った。実地調査が本学部において令和7年10月上旬から中旬の間に実施される予定。</p>		III	84

		<p style="text-align: right;"><b>【保健看護学部】</b></p> <p>令和3年度に開学した薬学部では、完成年度となる令和8年度の2年後において（一社）薬学教育評価機構による第三者評価を受審予定。（一社）薬学教育評価機構から求められていた薬学部開設4年目（実務実習で体験型の実習を行う前年度）となる令和6年度において、自己点検・評価を実施した。</p> <p style="text-align: right;"><b>【薬学部】</b></p> <p>令和6年5月1日にNPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)の認定を受けた。令和7年度中に、書類による中間審査を受審するため、指摘事項に対して関係各署の協力のもと改善を進めつつ、卒後臨床研修管理委員会にて進捗管理を行っている。また、認定結果については本学ホームページに公表済。</p> <p style="text-align: right;"><b>【地域医療支援センター】</b></p>																	
	<p>《指標1》 第三者評価の受審及び認証</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;">R6</th> <th style="width: 10%;">R7</th> <th style="width: 10%;">R8</th> <th style="width: 10%;">R9</th> <th style="width: 10%;">R10</th> <th style="width: 10%;">R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">期間中に受審する第三者評価について、全て認証を得る</td> </tr> </tbody> </table> <p>機関別認証評価は令和11年度に（一社）大学教育質保証・評価センターによる評価を受審する予定としている。</p> <p style="text-align: right;"><b>【経営企画課】</b></p> <p>令和6年度に再審査を受審し、認定を受けた（令和7年5月認定）。</p> <p style="text-align: right;"><b>【経理課】</b></p> <p>期限付認定の結果に対し異議申し立てを行い、最終結果の報告待ちの状況である。また、次回の受審対策として、職員SD及び学生課内SDの実施、IR部門でのIRファクトシートの作成、教育プログラム評価委員会医学部部会の開催、審議事項に関する医学部教務学生委員会規程および教育プログラム評価委員会医学部部会規程の一部改正、医学部教務学生委員会への学生委員の参加、新入生に対する使命カードの配布、FD研修会の6回開催等を実施した。</p> <p style="text-align: right;"><b>【医学部】</b></p> <p>令和6年度に自己点検と見直しを行い、日本看護学教育評価機構へ評価資料を提出した。令和7年10月に実地調査の予定。</p> <p style="text-align: right;"><b>【保健看護学部】</b></p> <p>薬学部では令和10年度、（一社）薬学教育評価機構による第三者評価を受審予定。</p> <p style="text-align: right;"><b>【薬学部】</b></p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	期間中に受審する第三者評価について、全て認証を得る								
	R6	R7	R8	R9	R10	R11													
目標値	期間中に受審する第三者評価について、全て認証を得る																		

		<p>令和6年5月1日にNPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定を受けた。 【地域医療支援センター】</p>																																						
<p>自己点検・評価、学生による評価、第三者評価等を実施し、教育研究活動の客観性及び透明性を高め、その評価結果を公表するとともに、法人運営の改善と活性化に反映させる。</p>	<p>イ 【教育活動に対する評価】 教育活動の評価を学生及び第三者を含めた多方面から行うことにより、教育方法と教育者の資質の向上を図り、授業内容の客観的な評価の改善を図る。 また、研究者の教育方法の改善を図るため、ファカルティ・ディベロップメントを充実させ、相互の情報交換を活発にする。 医学部においては、臨床実習に関与する学外関連病院・施設の教育指導担当医師に対してファカルティ・ディベロップメント等の実施を検討するなど、教育の質の充実に取り組む。</p>	<p>授業評価については、授業の内容が適切であるか、シラバスに準拠しているか等について、講義、実習、試験について学生に評価を行わせ、結果を教員にフィードバックし、改善計画を提出させた。また授業評価の総括を、学内教員に加え学生自治会から選出された学生委員、県医師会、患者会、病院協会、県技監等の外部委員により構成されている教育プログラム評価委員会医学部部会で審議した。 授業相互評価については、授業を初めて行う教員及び希望者を対象者として、教育プログラム評価委員会医学部部会委員および教育研究開発センター教員より2名が授業を聴講し、評価シートに従って評価を行い、評価結果を各教員及び所属長にフィードバックした。令和6年度は11件のビデオ評価を行った。 また、ベストティーチャー賞及びベストクリニカルティーチング賞を選出するとともに、学内に掲示し、顕彰し、選出者を講師としてFD研修会を開催した。これにより教員の意欲の向上が図られた。 令和6年度は第3回FD研修会として選択制臨床実習オンライン会議を開催し、使命、カリキュラムポリシー、コンピテンシー、診療参加型臨床実習の実践についてFDを実施し学外関連病院の医師30人が出席した。 【医学部】 FD委員会主催でFDカンファレンスを13回開催した。 また、教育方法の改善と教育者の資質向上を促進するために、教員相互参観を行った。 外部講師による講義を3回実施した。 【保健看護学部】 FD委員会を年6回実施し、教育の質向上に努めた。 また、前期・後期の2回授業評価アンケートを実施し、結果を教員にフィードバックした。結果を受けた授業担当者へのアンケートも実施し、各教員の振り返りの場とした。結果についてはFD委員会にて意見を出し合い、必要な場合は、担当教員に授業改善に係る助言を行い、教育方法の改善や教育の質向上に努めた。 【薬学部】</p>	III	85																																				
	<p>＜指標1＞ FD研修、FDカンファレンスの実施 基準値：2回（R5年度）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>実績（医学部）</td> <td>5回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>実績（保健看護学部）</td> <td>13回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>実績（薬学部）</td> <td>0回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>薬学部は、FD研修、FDカンファレンスを実施していないものの、FD委員会は年6回実施した。 【医学部・保健看護学部・薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	2回	2回	2回	2回	2回	2回	実績（医学部）	5回	回	回	回	回	回	実績（保健看護学部）	13回	回	回	回	回	回	実績（薬学部）	0回	回	回	回	回	回			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																		
目標値	2回	2回	2回	2回	2回	2回																																		
実績（医学部）	5回	回	回	回	回	回																																		
実績（保健看護学部）	13回	回	回	回	回	回																																		
実績（薬学部）	0回	回	回	回	回	回																																		

<<指標 2>> 学生及び教員に対する授業評価アンケートの実施 基準値：2回（R5年度）							
		R6	R7	R8	R9	R10	R11
	目標値	2回	2回	2回	2回	2回	2回
	実績（医学部）	3回	回	回	回	回	回
	実績（保健看護学部）	2回	回	回	回	回	回
実績（薬学部）	2回	回	回	回	回	回	
【医学部・保健看護学部・薬学部】							

第6 自己点検評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

2 情報公開及び情報発信に関する目標を達成するための措置	進捗評定	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-2)(IV-0)】
------------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																				
(1) 法人業務の運営状況等について、積極的に情報公開し、県民への説明責任を果たす。	<b>ア 【情報公開】</b> 本学の取組や法人運営の状況について、ホームページへの掲載や報道機関への発表等を通じて積極的に公開することにより、県民への説明責任を果たす。	財務・業務の状況、経営審議会、教育研究審議会等の内容をホームページで公表し、最新の情報を提供することにより県民に本学の取組を積極的に公開している。 <b>【総務課】</b>		III	86																				
	<<指標 1>> 情報の公開	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="6">本学の取組や法人運営の状況等を随時、積極的に公開</td> </tr> </table> 運営状況のほか、THE ランキングや各機関との協定などの情報を積極的に発信している。 <b>【総務課】</b>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	本学の取組や法人運営の状況等を随時、積極的に公開														
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																		
目標値	本学の取組や法人運営の状況等を随時、積極的に公開																								
<<指標 2>> 記者発表の実施回数 基準値：12回（R4年度）	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>6回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </table> <b>【総務課】</b>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	12回	12回	12回	12回	12回	12回	実績	6回	回	回	回	回	回			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	12回	12回	12回	12回	12回	12回																			
実績	6回	回	回	回	回	回																			

(2) 情報の一元管理と共有化を図るとともに、教育、研究、診療等に係る取組や成果を積極的かつ戦略的に情報発信する。	<b>イ 【情報発信】</b> 教育の内容、研究の成果、診療の実績等について、広報室が各所属と連携し、最新の情報をホームページや SNS に随時掲載するとともに、報道機関へも積極的に情報を提供する。また、ホームページの外国語表記を進め国外へも情報を発信する。 <<指標 1>> 記者発表の実施回数 基準値：12 回 (R4 年度)	各所属・診療科等が取り組む教育・研究及び診療情報等について、テレビやラジオへ出演し広報に取り組むとともに記者発表や資料提供を積極的に行い、新聞にも多数掲載された。YouTube を活用した広報にも取り組んでいる。 また、CMS によるホームページの更新により迅速化を図っている。 <b>【総務課】</b>	III 87																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>12 回</td> <td>12 回</td> <td>12 回</td> <td>12 回</td> <td>12 回</td> <td>12 回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>6 回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <b>【総務課】</b>			R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	12 回	実績	6 回	回	回	回	回					
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																
目標値	12 回	12 回	12 回	12 回	12 回	12 回																
実績	6 回	回	回	回	回	回																

第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置

1 施設及び設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-2)(IV-0)】
---------------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																	
(1) 教育、研究、診療等に係る施設及び設備について、投下資本の回収を念頭に置きながら、計画的に整備、更新を行う。	<b>ア 【施設・設備の充実】</b> 将来的な財務状況を踏まえたうえで、教育・研究・診療環境の変化に対応出来るよう、必要となる施設及び設備の検討を行い、計画的に整備を図る。 <<指標 1>> 環境変化に対応した施設整備を実施(紀北分院の新館建設・本館改修)	紀北分院について、地域の医療需要に対応するためリハビリ施設を備えた新館を建設した。 <b>【施設管理課】</b>		III 88																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>1,079 百万円</td> <td>417 百万円</td> <td colspan="4">環境変化に対応し、計画的に改修工事を完成させる</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>973 百万円</td> <td>百万円</td> <td>百万円</td> <td>百万円</td> <td>百万円</td> <td>百万円</td> </tr> </tbody> </table> 目標値の金額を実績が下回っているが、これは入札執行残によるものであり、目標の全ての事業を実施した。 <b>【施設管理課】</b>				R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1,079 百万円	417 百万円	環境変化に対応し、計画的に改修工事を完成させる				実績	973 百万円	百万円	百万円	百万円
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																
目標値	1,079 百万円	417 百万円	環境変化に対応し、計画的に改修工事を完成させる																			
実績	973 百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円																

<p>(2) 既存の施設及び設備の点検、利用状況の評価を行い、有効活用を図るとともに、維持管理を計画的に行い、コストの削減を図る。</p>	<p>イ 【施設・設備の計画的な整備】</p> <p>将来的な財務状況を踏まえたうえで、保全計画に基づき建築設備の大規模改修に取り組むなど、既存の施設及び設備の長寿命化を図る。</p> <p>《指標1》</p> <p>保全計画に基づき工事を実施</p>	<p>長期保全計画に基づき施設及び設備の改修を実施しており、病棟の大規模改修、昇降機等の改修工事を行った。</p> <p style="text-align: right;">【施設管理課】</p>	III	89																	
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td style="text-align: center;">2,914 百万円</td> <td style="text-align: center;">3,435 百万円</td> <td style="text-align: center;">2,721 百万円</td> <td style="text-align: center;">2,595 百万円</td> <td style="text-align: center;">3,106 百万円</td> <td style="text-align: center;">902 百万円</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">1,899 百万円</td> <td style="text-align: center;">百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>目標値の金額を実績が下回っているが、これは入札執行残等によるものであり、目標の事業のほとんどを実施済みである。</p> <p style="text-align: right;">【施設管理課】</p>				R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	2,914 百万円	3,435 百万円	2,721 百万円	2,595 百万円	3,106 百万円	902 百万円	実績	1,899 百万円	百万円	百万円
	R6	R7	R8	R9	R10	R11															
目標値	2,914 百万円	3,435 百万円	2,721 百万円	2,595 百万円	3,106 百万円	902 百万円															
実績	1,899 百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円															

第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置

2 安全管理に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-2)(IV-0)】
------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号																			
<p>(1) 患者、学生、教職員及び周辺地域の住民等の安全、衛生の確保のため、平常時のみならず、天災、人災等不測の事態への対応等多岐にわたる危機管理体制を確立する。</p>	<p>ア 【危機管理】 不測の事態に迅速かつ適切に対応するため、危機管理意識の向上と体制の整備を図る。</p>	<p>○災害時における装備資器材の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エアーストレッチャーの追加整備 エレベーター停止時における患者搬送代替手段のエアーストレッチャーについて、6台を追加購入し、既存の11台と併せて、南海トラフ地震等で浸水が想定される病院1階に5台を設置するとともに、13階までの各階に常設した。</li> <li>防災用ヘルメットの新規整備 当直業務者140名分の防災用ヘルメットを整備し、当直を行う病棟に配付した。</li> <li>チェックリスト収納箱の新規整備 災害対策本部が未設置段階時に持参した被害状況に関するチェックリストの提出用に、本部入口付近に「収納箱」を常設した。</li> </ul> <p>○DMAT 隊員の新規養成 DMAT 養成研修について本院職員の参加を促し、新たに3名（看護師2名、業務調整員1名）を養成した。</p> <p style="text-align: right;">【危機対策室】</p> <p>院内訓練の実施（年2回）や講習会に参加（1回）するとともに、橋本保健所、橋本市民病院、紀和病院合同による災害本部連携訓練を実施（年1回）するなど、消防・防災に関する職員の意識向上や防災体制の整備に努めた。</p> <p style="text-align: right;">【紀北分院】</p>		III	90																			
	<p>＜指標1＞ 災害訓練・研修の実施及び検証 基準値：3回(R4年度)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※情報伝達訓練（7月5日）、災害対策訓練（12月19日）、机上訓練（2月17日）</p> <p style="text-align: right;">【危機対策室】</p>		R6			R7	R8	R9	R10	R11	目標値	3回	4回	3回	4回	3回	4回	実績	3回	回	回	回	回	回
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																		
目標値	3回	4回	3回	4回	3回	4回																		
実績	3回	回	回	回	回	回																		

	<p>《指標 2》 災害装備品の整備 基準値：2品目(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>2品目 以上</td> <td>3品目 以上</td> <td>2品目 以上</td> <td>3品目 以上</td> <td>2品目 以上</td> <td>2品目 以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3品目</td> <td>品目</td> <td>品目</td> <td>品目</td> <td>品目</td> <td>品目</td> </tr> </tbody> </table> <p>※エアーストレッチャー、防災用ヘルメット、チェックリスト収納箱の整備 【危機対策室】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	2品目 以上	3品目 以上	2品目 以上	3品目 以上	2品目 以上	2品目 以上	実績	3品目	品目	品目	品目	品目	品目			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	2品目 以上	3品目 以上	2品目 以上	3品目 以上	2品目 以上	2品目 以上																				
実績	3品目	品目	品目	品目	品目	品目																				
	<p>《指標 3》 DMAT 隊員の新規養成 基準値：2回(R2-R4年度の単年度平均)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※看護師2名、業務調整員1名 【危機対策室】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	3人	3人	3人	3人	3人	3人	実績	3人	人	人	人	人	人			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	3人	3人	3人	3人	3人	3人																				
実績	3人	人	人	人	人	人																				
	<p>《指標 4》 災害訓練の参加(紀北分院) 基準値：1回(R5年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【紀北分院】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回	実績	1回	回	回	回	回	回			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回																				
実績	1回	回	回	回	回	回																				
<p>(2) 情報セキュリティ対策を充実・強化し、医療情報、個人情報、法人情報等を適切かつ厳格に管理するための取組を着実に実施する。</p>	<p>イ 【情報セキュリティ対策】 情報セキュリティの維持及び向上を図るため、ネットワークの機能強化や教職員への周知・啓発を行う。 また、個人情報保護法を遵守するとともに、本学の個人情報保護に関する規程に基づき、情報の適正な取得・管理・利用に努める。</p>	<p>情報セキュリティ対策の充実を図るため、計画通り、ソフトウェアのバージョンアップを年度内に4回実施することで学内のネットワークのセキュリティの増強を行うとともに、教職員向けのセキュリティ研修を1回実施し、セキュリティ意識の向上を図った。 【情報基盤統括センター】</p> <p>取得した個人情報について、個人情報保護法や本学の規程等に基づき、個人情報ファイル簿を作成し、適正な管理・利用を行っている。 【総務課】</p>		III	91																					
	<p>《指標 1》 新たなセキュリティに対応した機器への定期的な更新と運用 基準値：-</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>ソフトウェアのバージョンアップ 4回</td> <td>ソフトウェアのバージョンアップ 4回</td> <td>ソフトウェアのバージョンアップ 4回</td> <td>機器入替ソフトウェアのバージョンアップ 4回</td> <td>ソフトウェアのバージョンアップ 4回</td> <td>ソフトウェアのバージョンアップ 4回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>4回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【情報基盤統括センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	ソフトウェアのバージョンアップ 4回	ソフトウェアのバージョンアップ 4回	ソフトウェアのバージョンアップ 4回	機器入替ソフトウェアのバージョンアップ 4回	ソフトウェアのバージョンアップ 4回	ソフトウェアのバージョンアップ 4回	実績	4回	回	回	回	回	回			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	ソフトウェアのバージョンアップ 4回	ソフトウェアのバージョンアップ 4回	ソフトウェアのバージョンアップ 4回	機器入替ソフトウェアのバージョンアップ 4回	ソフトウェアのバージョンアップ 4回	ソフトウェアのバージョンアップ 4回																				
実績	4回	回	回	回	回	回																				

<<指標 2>> 教職員向けセキュリティ研修の実施 基準値：1回(R4年度)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">【情報基盤統括センター】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回	実績	1回	回	回	回	回	回			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																		
目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回																			
実績	1回	回	回	回	回	回																			
<<指標 3>> 個人情報保護に関する研修の実施 基準値：1回(R4年度)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> <td>R9</td> <td>R10</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回	実績	1回	回	回	回	回	回			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回																			
実績	1回	回	回	回	回	回																			

第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置

3 基本的人権の尊重及び法令・倫理等の遵守に関する目標を達成するための措置	進捗評価	【S-A-B-C-D】	【中期計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-3)(IV-0)】
---------------------------------------	------	-------------	--------------------------------------

中期目標	中期計画	令和6年度の進捗状況	特記事項	進捗評価	中期計画番号
基本的人権を尊重した教育研究及び職場環境を構築するとともに、教育研究や医療現場において、常に人権の尊重を念頭に置いた取組を行う。更に、法人は、人権に関わりの深い業務を担っていることから、	ア 【人権教育】 教育、研究、診療の場において、人権を尊重し、人格を重んじる教職員及び学生を育成するため、人権意識を高める研修を実施する。	<p>本学全ての教職員を対象とする「全学人権・同和研修」及び、各所属の職場研修委員を対象とする「職場研修委員研修」を実施した。</p> <p>テーマ 全学人権・同和研修：ハラスメントを考える～ストップパワハラ～ 職場研修委員研修：高齢者の人権と意思決定支援</p> <p style="text-align: right;">【総務課】</p> <p>令和6年度学生の人権・同和教育要項に人権研修の基本計画及び実施計画を定め、これらに基づき学年別の教育方法・教育目標に沿った講義を実施し、学生の人権意識の高揚を図った。</p> <p style="text-align: right;">【医学部・保健看護学部・薬学部】</p>		III	92

<p>教職員・学生に対する研修等を行うとともに、県民に対しても必要な情報提供に努める。また、ハラスメント等に対する予防対策や相談体制の充実に取り組むとともに、法令・倫理等の遵守を徹底し、一層社会に信頼される大学をめざす。</p>	<p>《指標1》          全学人権・同和研修の受講率(※)          基準値：99.46%(H30-R4年度の単年度平均)          ※病休、育休等の休職職員及び非常勤職員等を除く</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【総務課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	100%	%	%	%	%	%			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																				
実績	100%	%	%	%	%	%																				
<p>《指標2》          学生の人権・同和特別講義実施回数          基準値：20回(R5年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>22回</td> <td>22回</td> <td>22回</td> <td>22回</td> <td>22回</td> <td>22回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>21回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医学部・保健看護学部・薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	22回	22回	22回	22回	22回	22回	実績	21回	回	回	回	回	回				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	22回	22回	22回	22回	22回	22回																				
実績	21回	回	回	回	回	回																				
<p>基本的人権を尊重した教育研究及び職場環境を構築するとともに、教育研究や医療現場において、常に人権の尊重を念頭に置いた取組を行う。更に、法人は、人権に関わりの深い業務を担っていることから、教職員・学生に対する研修等を行うとともに、県民に対しても必要な情報提供に努める。また、ハラスメント等に対する予防対策や相談体制の充実に取り組むとともに、法令・倫理等の遵守を徹底し、一層社会に信頼される大学をめざす。</p>	<p>イ 【ハラスメント等の防止】          ハラスメント等に対する予防体制の確立を図り、教職員及び学生の意識を高めるとともに、相談体制の充実を図る。</p>	<p>職員相談及び公益通報の要領等について、学内ホームページで周知しているほか、教職員に対し、ハラスメント等の相談受理状況と相談窓口に関する周知文書を発出した(4月16日)。          匿名による相談への対応を明確化するため、本学職員等相談処理規程の一部改正を実施した(11月20日)。</p> <p>【危機対策室】</p> <p>「全学人権・同和研修」において、ハラスメントをテーマに研修を実施し、教職員等のハラスメントに対する意識を高めた。</p> <p>【総務課】</p> <p>学内のホームページ及び学生便覧で学生のハラスメント相談窓口・相談員を周知し、相談体制を充実するとともに、3学部1年生に対してセクシャルハラスメントをテーマとする講義を実施し、学生の人権意識高揚を図った。</p> <p>【医学部・保健看護学部・薬学部】</p>	III	93																						
	<p>《指標1》          ハラスメントをテーマとする研修回数          基準値：1回(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【総務課】</p>				R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回	実績	1回	回	回	回	回	回	
		R6			R7	R8	R9	R10	R11																	
目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回																				
実績	1回	回	回	回	回	回																				
<p>《指標2》          ハラスメントをテーマとする講義回数          基準値：0回(R4年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医学部・保健看護学部・薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回	実績	1回	回	回	回	回	回				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回																				
実績	1回	回	回	回	回	回																				

	<p>《指標3》 ハラスメント等の防止に係る相談窓口の認知度の向上（教職員）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>周知文書の発出</td> <td>周知文書の発出</td> <td>アンケート調査の実施</td> <td>周知文書の発出</td> <td>周知文書の発出</td> <td>アンケート調査の実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>※全職員を対象に、令和6年4月16日に周知文書を発出</p> <p style="text-align: right;">【危機対策室】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	周知文書の発出	周知文書の発出	アンケート調査の実施	周知文書の発出	周知文書の発出	アンケート調査の実施						
		R6	R7	R8	R9	R10	R11															
目標値	周知文書の発出	周知文書の発出	アンケート調査の実施	周知文書の発出	周知文書の発出	アンケート調査の実施																
<p>《指標4》 ハラスメント等の防止にかかる相談窓口の周知（学生）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>1回以上</td> <td>1回以上</td> <td>1回以上</td> <td>1回以上</td> <td>1回以上</td> <td>1回以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【医学部・保健看護学部・薬学部】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	実績	2回	回	回	回	回	回
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																
目標値	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上																
実績	2回	回	回	回	回	回																
<p>基本的人権を尊重した教育研究及び職場環境を構築するとともに、教育研究や医療現場において、常に人権の尊重を念頭に置いた取組を行う。更に、法人は、人権に関わりの深い業務を担っていることから、教職員・学生に対する研修等を行うとともに、県民に対しても必要な情報提供に努める。また、ハラスメント等に対する予防対策や相談体制の充実に取り組むとともに、法令・倫理等の遵守を徹底し、一層社会に信頼される大学をめざす。</p>	<p>ウ 【法令遵守】 内部監査機能をより一層充実し、全ての教職員の法令遵守に対する意識の高揚と推進体制の強化を図ることにより、不正のない大学運営を維持する。</p>	<p>定期監査や無通告監査（リスクアプローチ監査）を実施し、不正のない大学運営の維持に資する取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局定期監査（R6年7月～8月実施）</li> <li>・研究費の定期監査（R6年9月～R7年3月実施）</li> <li>・リスクアプローチ監査（無通告38回）</li> </ul> <p style="text-align: right;">【危機対策室】</p> <p>「公的研究費不正防止計画」に基づく取組については、公的研究費の運営・管理に関わる構成員からの誓約書を徴収するとともに、研究代表者及び分担者を対象とした科学研究費執行に関する説明会を複数回開催、公的研究費の運営・管理に関わる教職員等を対象にコンプライアンス研修を開催して法令遵守への意識高揚を図っている（当日の欠席者は後日動画を視聴）。</p> <p>さらに、一定以上の取引実績のある取引事業者を対象に研究費の適切な管理・運営に係る説明会を開催し、誓約書提出を求めている。</p> <p>また、公的研究費の執行状況については、定期的な確認（モニタリング）を実施することで、法令遵守体制を維持している。</p> <p>「研究不正防止計画」に基づく取組については、各所属研究データ管理者によるデータ管理簿の適切な保存・管理の徹底と研究不正防止計画副責任者への報告を求めており、若手研究者への指導・助言のため各所属にメンターを配置することで、研究不正防止のための体制を整備してきた。研究倫理教育（e-ラーニング）の受講については、更新に伴い、各所属長に対し文書通知を行うなど受講促進を図るとともに受講管理を行っている。</p> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p>	III	94																		

	<<指標 1>> 公的研究費を財源とする、非常勤雇用者の勤務実態確認、購入物品の納品確認及び出張者の出張実態確認等のために実施する「リスクアプローチ監査」の回数 基準値：36回(R2-R4年度の単年度平均)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>36回</td> <td>36回</td> <td>36回</td> <td>36回</td> <td>36回</td> <td>36回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>38回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【危機対策室】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	36回	36回	36回	36回	36回	36回	実績	38回	回	回	回	回	回			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11																			
目標値	36回	36回	36回	36回	36回	36回																				
実績	38回	回	回	回	回	回																				
<<指標 2>> コンプライアンス研修受講率(※) 基準値：87%(R2-R4年度の単年度平均) ※病休、産休、育休及び学外への派遣職員等を除く	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>72%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【研究推進課】</p>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績	72%	%	%	%	%	%				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																				
目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%																				
実績	72%	%	%	%	%	%																				

第8 予算（人件費見積を含む。）、収支計画及び資金計画

中期計画		実績	
予 算 令和6年度～令和11年度予算 (単位：百万円)		実 績 令和6年度決算 (単位：百万円)	
区分	金額	区分	金額
収 入		収 入	
運営費交付金	40,811	運営費交付金	6,046
自己収入	245,328	自己収入	37,032
授業料及び入学金、検定料収入	6,311	授業料及び入学金、検定料収入	981
附属病院収入	217,662	附属病院収入	35,652
雑収入	21,355	雑収入	398
産学連携等収入及び寄附金収入	9,862	産学連携等収入及び寄附金収入	1,730
補助金等収入	8,272	補助金等収入	1,329
長期借入金収入	25,349	長期借入金収入	2,438
目的積立金取崩	3,933	目的積立金取崩	1,243
計	333,558	計	49,820
支 出		支 出	
業務費	273,769	業務費	43,949
教育研究経費	38,612	教育研究経費	6,812
診療経費	229,045	診療経費	36,483
一般管理費	6,112	一般管理費	653
財務費用	725	財務費用	22
長期貸付金	278	長期貸付金	21
施設整備費	35,107	施設整備費	3,507
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	9,862	産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,152
長期借入金償還金	13,814	長期借入金償還金	1,805
計	333,558	計	50,459

中期計画		実績	
収支計画 令和6年度～令和11年度収支計画 (単位：百万円)		実績 令和6年度収支決算 (単位：百万円)	
区分	金額	区分	金額
費用の部	295,159	費用の部	46,922
経常費用	295,085	経常費用	46,810
業務費	272,074	業務費	44,120
教育研究経費	14,909	教育研究経費	1,995
診療経費	129,939	診療経費	21,508
受託研究費等	5,413	受託研究費等	1,080
役員人件費	430	役員人件費	74
教員人件費	44,818	教員人件費	7,311
職員人件費	76,564	職員人件費	12,150
一般管理経費	4,904	一般管理経費	568
財務費用	713	財務費用	22
雑損	72	雑損	1
減価償却費	17,321	減価償却費	2,097
臨時損失	74	臨時損失	112
収益の部	282,304	収益の部	45,613
経常収益	282,247	経常収益	45,551
運営費交付金収益	40,811	運営費交付金収益	6,046
授業料収益	5,570	授業料収益	810
入学金収益	958	入学金収益	151
検定料収益	100	検定料収益	19
附属病院収益	217,662	附属病院収益	35,652
受託研究等収益	6,429	受託研究等収益	1,213
寄附金収益	3,433	寄附金収益	517
補助金等収益	4,195	補助金等収益	742
財務収益	566	財務収益	9
雑益	2,520	雑益	388
臨時利益	57	臨時利益	61
純損失	12,855	純損失	1,309
目的積立金取崩額	797	目的積立金取崩額	37
総損失	12,058	総損失	1,271

中期計画		実績	
資金計画 令和6年度～令和11年度資金計画 (単位：百万円)		実績 令和6年度資金計画 (単位：百万円)	
区分	金額	区分	金額
資金支出	327,073	資金支出	71,526
業務活動による支出	274,899	業務活動による支出	46,087
投資活動による支出	34,090	投資活動による支出	23,599
財務活動による支出	14,549	財務活動による支出	1,839
次期中期目標期間への繰越金	3,535	次期中期目標期間への繰越金	—
資金収入	327,073	資金収入	67,660
業務活動による収入	281,665	業務活動による収入	45,287
運営費交付金による収入	40,811	運営費交付金による収入	6,046
授業料及び入学金、検定料による収入	6,303	授業料及び入学金、検定料による収入	895
附属病院収入	217,497	附属病院収入	35,393
受託研究等収入	6,432	受託研究等収入	1,136
寄附金収入	3,433	寄附金収入	396
補助金等収入	4,129	補助金等収入	984
その他の収入	3,060	その他の収入	434
投資活動による収入	4,148	投資活動による収入	19,934
財務活動による収入	25,349	財務活動による収入	2,438
目的積立金取崩による収入	3,933	目的積立金取崩による収入	37
前期中期目標期間からの繰越金	11,977	前期中期目標期間からの繰越金	14,976

第9 短期借入金の限度額

中期計画	実績
70億円	実績なし

第10 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	実績
なし	なし

第11 剰余金の使途

中期計画	実績
決算において剰余金が発生した場合は、教育・研究・診療の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	令和5年度決算における利益剰余金 1,927,408 千円と令和5年度は、第3期中期目標期間の終了年度であるため、それまでの積立金の振替額 10,394,946 千円を加えた 12,322,355 千円を県知事の承認を経て、第4期中期計画で定められた事業の財源に充てるため、積立金として積み立てた。

1 2 その他
1 施設及び設備に関する計画

中期計画	実績
各事業年度の予算編成過程において決定する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・附属病院中央棟改修（1,254百万円）</li><li>・紀北分院新棟建設（901百万円）</li></ul>

第12 その他  
2 人事に関する計画

中期計画	実績
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員の定数管理の強化及び非常勤職員の適正配置に取り組む</li> <li>・ 法人運営に必要な、高い専門性を備えた人材を育成する。</li> <li>・ 公正な評価に基づき、能力のある女性の参画を推進する。</li> </ul>	第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 2 人事の適正化・人材育成等に関する目標を達成するための措置 参照

参考	令和6年度
(1) 常勤職員数	1,833 人
(2) 任期付き職員数	40 人
(3) ①人件費総額	19,536 百万円
②経常収益に対する人件費の割合	42.8%
③外部資金により手当した人件費を除いた人件費	18,934 百万円
④外部資金を除いた経常収益に対する上記③の割合	41.5%
⑤標準的な常勤職員の週当たりの勤務時間として規定されている時間数	38 時間 45 分

※ (1)、(2) は、令和6年5月1日現在

第12 その他  
3 積立金の使途

中期計画	実績
前期中期計画期間中に生じた積立金については、次の事業の財源に充てる。 ・薬学部運営 ・紀北分院に係る新棟等の整備 ・その他、教育・研究・診療の質の向上及び組織運営の改善	・紀北分院新棟建設（901百万円）

○別表 （教育研究上の基本組織）

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員 (人) (a)	収容数 (人) (b)	定員充足率 (%) (b) / (a) × 100
医学部医学科	600	611	101.8%
保健看護学部保健看護学科	320	319	99.7%
薬学部薬学科	600	395	65.8%
医学研究科（修士課程）	28	4	14.3%
医学研究科（博士課程）	168	117	69.6%
医学薬学総合研究科（博士課程）	140	27	19.3%
医学薬学総合研究科（博士前期課程）	28	6	21.4%
医学薬学総合研究科（博士後期課程）	21	9	42.9%
保健看護学研究科（博士前期課程）	24	16	66.7%
保健看護学研究科（博士後期課程）	9	25	277.8%
助産学専攻科	10	9	90.0%

令和7年3月31日現在